

# 参考資料2-12

消食基第657号  
令和7年11月19日

食品衛生基準審議会  
会長 曽根 智史 殿

内閣総理大臣 高市 早苗  
(公印省略)

## 諮問書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第13条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求める。

### 記

次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品ジニトルミド  
農薬及び動物用医薬品カルバリル  
農薬アフィドピロペン  
農薬クロラントラニリプロール  
農薬フェリムゾン  
農薬ペントキサゾン  
農薬メピコートクロリド

以上

令和7年11月26日

農薬・動物用医薬品部会  
部会長 堤 智昭 殿

食品衛生基準審議会  
会長 曽根 智史

### 農薬等の食品中の残留基準の設定について（付議）

標記について、下記のとおり内閣総理大臣から諮問があったので、食品衛生基準審議会規程第6条の規定に基づき、貴部会において審議方願いたい。

記

令和7年11月19日付け消食基第657号

次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品ジニトルミド  
農薬及び動物用医薬品カルバリル  
農薬アフィドピロペン  
農薬クロラントラニリプロール  
農薬フェリムゾン  
農薬ペントキサゾン  
農薬メピコートクロリド

以上

## クロラントラニリプロール

今般の残留基準の検討については、農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことから、農薬・動物用医薬品部会（以下「本部会」という。）において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

なお、本報告では、今般提出された作物残留試験成績に基づき、前回審議からの変更点をとりまとめる。また、今般の基準値設定依頼に当たって、毒性や代謝に関する新たな知見の提出がなく、既存の食品健康影響評価の結果に影響はないと考えられることから、本部会での審議後に内閣総理大臣から食品安全委員会に対して食品健康影響評価の要請を行うこととしている。

### 1. 概要

- (1) 品目名：クロラントラニリプロール[ Chlorantraniliprole (ISO) ]
- (2) 分類（用途）：農薬（殺虫剤）
- (3) 化学名、CAS番号、構造式及び物性：変更なし（添付資料1参照）

### 2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の国内における適用の範囲及び使用方法は別紙1-1、海外における適用の範囲及び使用方法は別紙1-2～1-4のとおり。なお、今般の基準値設定依頼にかかる新たな適用の範囲及び使用方法は網掛けとしている。

### 3. 代謝試験

#### (1) 植物代謝試験

植物代謝試験が、水稻、りんご、レタス、トマト及び綿で実施されており、可食部での主要残留物は親化合物で、10%TRR<sup>注)</sup>以上認められた代謝物はなかった。

注) %TRR：総放射性残留物（TRR：Total Radioactive Residues）濃度に対する比率（%）

#### (2) 家畜代謝試験

家畜代謝試験が、泌乳山羊及び産卵鶏で実施されており、産卵鶏の筋肉以外の組織並びに乳及び卵で親化合物の残留が認められている。可食部で10%TRR以上認められた代謝物は、代謝物C（産卵鶏の卵黄）、代謝物D（泌乳山羊の乳）、代謝物E（産卵鶏の卵黄）、代謝物G（泌乳山羊の乳）及び代謝物N（産卵鶏の卵白）であった。

#### 【代謝物略称一覧】

略称	JMPR評価書 の略称	化学名
C	IN-H2H20	3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-[(ヒドロキシメチル)アミノ]カルボニル]-6-メチルフェニル]-1-(3-クロロ-2-ビリジニル)-1H-ビラゾール-5-カルボキサミド

## 【代謝物略称一覧】(つづき)

略称	JMPR評価書 の略称	化学名
D	IN-HXH44	3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
E	IN-K7H29	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-(ヒドロキシメチル)-4(3H)-キナゾリノン
G	IN-K9T00	3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(ヒドロキシメチル)アミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
M	IN-F9N04	<i>N</i> -[2-(アミノカルボニル)-4-クロロ-6-メチルフェニル]-3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
N	IN-GAZ70	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-メチル-4(3H)-キナゾリノン
O	IN-EQW78	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-3,8-ジメチル-4(3H)-キナゾリノン

## 4. 作物残留試験

今回追加のあった分析法については以下のとおり。

### (1) 分析の概要

#### 【国内】

##### ① 分析対象物質

- クロラントラニリプロール

##### ② 分析法の概要

試料からアセトニトリル・水(4:1)混液で抽出し、酢酸エチルに転溶後、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計(LC-MS/MS)で定量する。

または、試料を水で膨潤後、アセトニトリル・水(4:1)混液で抽出し、トリメチルアミノプロピルシリル化シリカゲル(SAX)カラム及びスチレンジビニルベンゼン共重合体カラムを用いて精製した後、LC-MS/MSで定量する。

または、試料からアセトニトリルで抽出し、ろ過・濃縮後、0.5 mol/L リン酸緩衝液(pH 7.0)に転溶する。オクタデシルシリル化シリカゲル(C<sub>18</sub>)カラム及びグラファイトカーボン/アミノプロピルシリル化シリカゲル(NH<sub>2</sub>)積層カラムを用いて精製した後、LC-MS/MSで定量する。

または、試料を水で膨潤後、アセトニトリルで抽出し、酢酸エチルに転溶する。グラファイトカーボン/SAX/エチレンジアミン-*N*-プロピルシリル化シリカゲル(PSA)積層カラムを用いて精製した後、液体クロマトグラフ・質量分析計(LC-MS)で定量する。

または、必要に応じて試料を水で膨潤後、アセトニトリルで抽出し、塩化ナトリウム及びリン酸緩衝液による塩析並びに*n*-ヘキサン洗浄を行う。グラファイトカーボン/SAX/PSA積層カラム及び必要に応じてグラファイトカーボン/NH<sub>2</sub>/シリカゲル積層カラムを用いて精製した後、LC-MS/MSで定量する。

または、試料からアセトニトリルで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、グラファイトカーボン/NH<sub>2</sub>積層カラム及びフロリジルカラムを用いて精製した後、LC-

MS/MSで定量する。

または、試料からアセトニトリルで抽出し、塩化ナトリウム及びリン酸緩衝液を加えて塩析する。グラファイトカーボン/SAX/PSA積層カラムを用いて精製した後、LC-MS/MSで定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、C<sub>18</sub>カラム、スチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及びフロリジルカラムを用いて精製した後、紫外分光光度型検出器付き高速液体クロマトグラフ(HPLC-UV)で定量する。

または、試料からアセトニトリルで抽出し、LC-MSで定量する。

または、試料からアセトニトリルで抽出し、グラファイトカーボン/PSA積層カラム又はグラファイトカーボン/NH<sub>2</sub>積層カラムを用いて精製した後、LC-MS/MSで定量する。

あるいは、試料に水を加えアセトニトリルで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、グラファイトカーボン/NH<sub>2</sub>積層カラム及びフロリジルカラムを用いて精製した後、HPLC-UVで定量する。

定量限界 0.01～0.05 mg/kg

#### 【海外】

変更なし (添付資料1参照)

#### (2) 作物残留試験結果

国内作物残留試験については、レタス等の試験成績を追加した。試験成績の概要を別紙2-1に示す。

海外作物残留試験成績の概要については、別紙2-2～2-4を参照。

#### 5. 魚介類における推定残留濃度

変更なし (添付資料1参照)

#### 6. 畜産物における推定残留濃度

変更なし (添付資料1参照)

#### 7. 許容一日摂取量 (ADI) 及び急性参考用量 (ARfD) の評価

先の審議の際に、食品安全基本法(平成15年法律第48号)第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会にて意見を求めたクロラントラニリプロールに係る食品健康影響評価において、クロラントラニリプロールのADIを1.5 mg/kg体重/日、ARfDは設定の必要なしと評価されている。

#### 8. 諸外国における状況

変更なし (添付資料1参照)

なお、国際基準は、2021年及び2023年にアボカド、茶等に基準値が設定されている。

#### 9. 残留規制

##### (1) 残留の規制対象：変更なし

クロラントラニリプロールとする。

農産物については、植物代謝試験において可食部での主な残留物は親化合物であり、10%TRR以上認められる代謝物はなかった。

畜産物については、家畜代謝試験において筋肉以外のすべての組織並びに乳及び卵で親化合物の残留が認められた。いくつかの代謝物が10%TRR以上認められたが、分析の指標としては親化合物のみで十分であると考えられる。

これらのことから、規制対象はクロラントラニリプロールのみとする。

## (2) 基準値案

別紙3のとおりである。

### 10. 暴露評価

#### (1) 暴露評価対象：変更なし

クロラントラニリプロールとする。

農産物については、植物代謝試験において可食部での主な残留物は親化合物であり、10%TRR以上認められる代謝物はなかった。

畜産物については、家畜代謝試験において筋肉以外のすべての組織並びに乳及び卵で親化合物の残留が認められた。卵全体で代謝物N、乳で代謝物D及び代謝物Gが10%TRR以上認められた。卵黄で代謝物C及び代謝物Eが10%TRR以上認められたが、卵全体では10%TRR未満であった。家畜残留試験においては、乳牛では高投与量以外では親化合物が主要な残留物だが、産卵鶏では親化合物より代謝物の残留量が多い組織もみられた。しかしながら、JMPR評価書によれば、いずれの代謝物も毒性面での懸念はなく、親化合物も代謝物も生体内から急速に消失し、毒性も低いと考えられる。

以上のことと加え、JMPRの評価において、農産物及び畜産物の暴露評価対象はクロラントラニリプロールのみであることを踏まえ、暴露評価対象はクロラントラニリプロールのみとする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をクロラントラニリプロール(親化合物のみ)としている。

## (2) 暴露評価結果

### ① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙4参照。

	EDI／ADI(%) <sup>注)</sup>
国民全体 (1歳以上)	1.5
幼小児 (1~6歳)	2.6
妊婦	1.4
高齢者 (65歳以上)	1.7

注) 各食品の平均摂取量は、平成17~19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

EDI試算法：作物残留試験成績の中央値(STMR)等×各食品の平均摂取量

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻	1.5% WP 配合剤1	ペースト肥料に混 合し側条施肥田植 機で施用する。	500 g/10 a	移植時	—	1回	1回	
	0.75% GR 配合剤2	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤3	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤4	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤5	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤6	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤7	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤8	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤9	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤10	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤11	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤12	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤13	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
	0.75% GR 配合剤14	側条施用	1 kg/10 a	移植時	—	1回		
稻(箱育苗)	50.0% SC	種子吹き付け処理 又は塗沫処理	乾燥種もみ1 kg当たり 原液4~7 mL	は種前浸種前	—	1回	1回	
	1.0% GR	育苗箱の上から均 一に散布する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植当日	—	1回		
	0.75% GR	育苗箱の床土に均 一に混和する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回		
		育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱当たり50~ 100 g)	は種時覆土前~ 移植当日	—	1回		
			移植当日					
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種時覆土前~ 移植当日				
	25.0% WP 配合剤15	土壤灌注	1000倍	移植当日	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 希釈液1 L	1回		
				は種時~出芽時 ただし、移植 15日前まで				
			500倍	は種時				
				は種時~出芽時 ただし、移植 15日前まで	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 希釈液500 mL			

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤2	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前~移植当日	-	1回	1回	
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植3日前~移植当日				
	0.75% GR 配合剤3	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前~移植当日	-	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植3日前~移植当日				
				緑化期~移植当日				
	0.75% GR 配合剤4	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前	-	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時覆土前~移植当日				
	0.75% GR 配合剤5	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種前	-	1回		
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時覆土前~移植当日				
				は種時覆土前~移植当日				
	0.75% GR 配合剤6	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前~移植当日	-	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g					
	0.75% GR 配合剤7	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前~移植当日	-	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g					

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤8	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日	—	1回	1回	
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	緑化期～移植当日				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	緑化期～移植当日				
	0.75% GR 配合剤9	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	緑化期～移植当日				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	緑化期～移植当日				
	0.75% GR 配合剤10	本剤の所定量を育苗箱の床土に均一に混和する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	—				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種前				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	—				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植3日前～移植当日				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植3日前～移植当日				
			高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植3日前～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植3日前～移植当日				

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリブ ロールを含む 農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤11	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回	1回	
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植当日				
			移植3日前～ 移植当日					
			移植当日					
			緑化期～移植当日					
	0.75% GR 配合剤12	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g					
	0.75% GR 配合剤13	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g					
			緑化期～移植当日					
	0.75% GR 配合剤14	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g					
	0.75% GR 配合剤16	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種時覆土前～ 移植当日				
			移植3日前～ 移植当日					
	0.75% GR 配合剤17	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植7日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g					

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤18	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前～移植当日	—	1回	1回	
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植当日				
		育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植当日				
	0.75% GR 配合剤20	育苗箱の床土に均一に混和する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g					
		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g					
	0.75% GR 配合剤21	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時覆土前～移植当日				
		育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土前				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時覆土前～移植当日				
	0.75% GR 配合剤22	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種時覆土後～移植当日	—	1回		
				移植当日				
				緑化期～移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時覆土後～移植当日				
				は種時覆土後～緑化始期				
				移植当日				
				緑化期～移植当日				

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤23	育苗箱の床土又は 覆土に均一に混和 する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回	1回	
		育苗箱の上から均 一に散布する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種時覆土前	—	1回		
				は種時覆土前～ 移植当日				
				移植当日				
	0.75% GR 配合剤24	育苗箱の床土又は 覆土に均一に混和 する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回		
		育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
				移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種時覆土前～ 移植当日				
			移植当日					
	0.75% GR 配合剤25	育苗培土に均一に 混和する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回	1回	
		育苗箱の床土に均 一に混和する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回		
			高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	は種時覆土前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g					
	0.75% GR 配合剤26	育苗箱の上から均 一に散布する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～当日	—	1回		
	0.75% GR 配合剤27	育苗箱の上から均 一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植3日前～移植	—	1回		
				は種時覆土前～ 移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～ 移植当日				
	0.75% GR 配合剤28	育苗箱の苗の上か ら均一に散布 する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植3日前～ 移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	緑化期～移植当日				

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
稻(箱育苗)	0.75% GR 配合剤29	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～ 移植当日	—	1回	1回	
				移植当日				
				緑化期～移植当日				
	0.75% GR 配合剤30	育苗箱の床土に均一に混和する。	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種前	—	1回		
				は種時覆土前～ 移植当日	—	1回		
	0.75% GR 配合剤31	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～ 移植当日				
	0.75% GR 配合剤32	育苗箱の床土又は 覆土に均一に混和 する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	は種前	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	は種時覆土前～ 移植当日				
			高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植3日前～ 移植当日				
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～ 移植当日				
	0.75% GR 配合剤33	育苗箱の上から均一に散布する。	高密度には種する場合 は1 kg/10 a(育苗箱(30 ×60×3 cm、使用土壤 約5 L)1箱 当たり50～100 g)	移植当日	—	1回		
			育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり50 g	移植3日前～ 移植当日				
湛水直播水稻	0.75% GR 配合剤11	は種同時施薬機を 用いて土中施用 する。	1 kg/10 a	は種時	—	1回	1回	
	0.75% GR 配合剤12	は種同時施薬機を 用いて土中施用 する。	1 kg/10 a	は種時	—	1回		
直播水稻	50.0% SC	種子吹き付け処理 又は塗沫処理	乾燥種もみ1 kg 当たり原液4～7 mL	は種前	—	1回	1回	
とうもろこし	50.0% SC	塗沫処理	乾燥種子1000粒 当たり原液1.5～2.5 mL	は種前	—	1回	4回以内(は種前の塗 沫処理は1回以内、 は種後は3回以内)	
	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内		
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内		
			16倍		1.6 L/10 a			

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
だいいず	5.0% SC	散布	4000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内	
		無人航空機による散布	16～32倍	収穫7日前まで	0.8 L/10 a	2回以内		
あづき	5.0% SC	散布	4000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内	
豆類(種実、ただし、だいいず、あづき、らっかせいを除く)	5.0% SC	散布	4000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内	
さといも	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内		
かんしょ	5.0% SC	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	
		無人航空機による散布	16倍	収穫前日まで	0.8～1.6 L/10 a	3回以内		
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内		
やまのいも	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内		
てんさい	5.0% SC	散布	4000～5000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内	
さとうきび	10.0% SC	散布	5000倍	収穫30日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内(粒剤は1回以内、水和剤は3回以内)	
		無人航空機による散布	50倍	収穫30日前まで	2.4 L/10 a	3回以内		
	0.50% GR	株元散布	6 kg/10 a	生育期 ただし最終 培土まで	—	1回		
			4～6 kg/10 a					
		植溝土壤混和	6 kg/10 a	植付時	—	1回		
			4～6 kg/10 a					
	4.0% WP 配合剤35	散布	2000倍	収穫30日前まで	100～300 L/10 a	3回以内		
はつかだいこん	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	1回	1回	
だいこん	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内		
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内		
かぶ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	
クレソン (土耕栽培)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内	

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
はくさい	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内	
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5～4 L) 当たり0.5 L	1回	
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回	
		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり50gの上から均一に散布する。	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり50g	育苗期後半～定植当日	—	1回	
	8.7% SC 配合剤36	散布	4000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5～4 L) 当たり0.5 L	1回	
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壤約1.5～4 L) 当たり0.5 L	1回	
非結球はくさい	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	3回以内(灌注は1回以内、散布は2回以内)
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5～4 L) 当たり0.5 L	1回	

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1~2 L/10 a	3回以内		
		灌注	500倍	育苗期後半～定植当日	苗地床1 m <sup>2</sup> 当たり2 L	1回		
			100倍		セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ~4 L)当たり0.5 L			
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回		
		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L)当たり50 g	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5~4 L)当たり50 g	育苗期後半～定植当日	—	1回		
	8.7% SC 配合剤36	散布	4000倍	収穫3日前まで	100~300 L/10 a	3回以内		
		灌注	1000倍	は種時～育苗期後半	苗地床1 m <sup>2</sup> 当たり2 L	1回		
			200倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー			
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300 L/10 a	3回以内		
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5 ~4 L)当たり0.5 L	1回		
カリフラワー	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)	
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ~4 L)当たり0.5 L	1回		

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	3回以内	
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー	1回	
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回	
		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)の上から均一に散布する。	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり50 g	育苗期後半～定植当日	—	1回	
	8.7% SC 配合剤36	散布	4000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり0.5 L	1回	
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり0.5 L	1回	
茎ブロッコリー	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり0.5 L	1回	
タアサイ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	3回以内(灌注は1回以内、散布は2回以内)
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパー1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5～4 L)当たり0.5 L	1回	

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釗倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
なばな類	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり0.5 L	1回	
	8.7% SC 配合剤36	灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり0.5 L	1回	
非結球あぶらな科 葉菜類(タアサイ、 非結球はくさい、 なばな類を除く)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	2回以内
レタス類	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)
			1000~2000倍				
		無人航空機 による散布	20倍	収穫前日まで	1~2 L/10 a	3回以内	
		灌注	100倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり0.5 L	1回	
レタス	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～ 定植時	—	1回	4回以内(定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)
		本剤の所定量をセル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり50 g	育苗期後半～ 定植当日	—	1回	
	8.7% SC 配合剤36	散布	4000倍	収穫7日前まで	100~300 L/10 a	2回以内	
		灌注	200倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり0.5 L	1回	
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫3日前まで	100~300 L/10 a	3回以内	
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壤約1.5~4 L) 当たり0.5 L	1回	

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釗倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
非結球レタス	8.7% SC 配合剤36	灌注	200倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	4回以内(定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内)
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	2回以内	
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	
ふき	5.0% SC	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
ふき(ふきのとう)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫120日前まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内
ねぎ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、定植後の処理は3回以内)
		無人航空機 による散布	20倍	収穫3日前まで	1～2 L/10 a	3回以内	
		灌注	100倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	
	8.7% SC 配合剤36	灌注	200倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	
	4.0% WP 配合剤35	灌注	100倍	定植前日～定植時	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	
アスパラガス	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
らっきょう	5.0% SC	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
にんじん	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	2回以内
		無人航空機 による散布	20倍	収穫前日まで	1～2 L/10 a	2回以内	
パセリ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	1回	2回以内(灌注は1回以内、散布は1回以内)
	8.7% SC 配合剤36	灌注	200倍	育苗期後半～ 定植当日	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー <sup>ポット</sup> 1冊(約30×60 cm、使用土壤約1.5 ～4 L) 当たり0.5 L	1回	
せり科葉菜類 (パセリを除く)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫7日前まで ただし、みつばの伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	100～300 L/10 a	1回	1回

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	
トマト	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)	
			1000~2000倍					
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり50 mL	1回		
			100倍		1株当たり25 mL			
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回		
ミニトマト	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)	
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり50 mL	1回		
			100倍		1株当たり25 mL			
ピーマン	5.0% SC	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	3回以内(灌注は1回以内、散布は2回以内)	
		灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり25 mL	1回		
なす	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	3回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内)	
			1000~2000倍					
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり50 mL	1回		
			100倍		1株当たり25 mL			
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回		
とうがらし類	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)	
		灌注	1000~2000倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり25 mL	1回		
			100倍					
きゅうり	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)	
			1000~2000倍					
		灌注	200倍	育苗期後半～定植当日	1株当たり50 mL	1回		
			100~200倍		1株当たり25 mL			
	0.50% GR	株元散布	1 g/株	育苗期後半～定植時	—	1回		
ズッキーニ	5.0% SC	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	
すいか	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	
メロン	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	
	5.0% WP 配合剤34	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内		
とうがん	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	
にがうり	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	
ほうれんそう	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内	

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釗倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
オクラ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1~2 L/10 a	3回以内	
しょうが	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
		無人航空機による散布	20倍	収穫前日まで	1~2 L/10 a	3回以内	
さやえんどう	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
さやいんげん	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
実えんどう	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
えだまめ	5.0% SC	散布	4000倍	収穫3日前まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
		無人航空機による散布	16~32倍	収穫3日前まで	0.8 L/10 a	3回以内	
アマランサス(茎葉)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
えごま(葉)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫3日前まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
エンサイ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	2回以内
つるむらさき	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
モロヘイヤ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	2回以内
未成熟ささげ	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
未成熟そらまめ	5.0% SC	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内
りんご	10.0% SC	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
なし	10.0% SC	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
	4.0% WP配合剤35	散布	2000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	
もも	10.0% SC	散布	5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	2回以内	2回以内
	4.0% WP配合剤35	散布	2000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	2回以内	
ネクタリン	10.0% SC	散布	5000倍	収穫3日前まで	200~700 L/10 a	2回以内	2回以内
	4.0% WP配合剤35	散布	2000倍	収穫3日前まで	200~700 L/10 a	2回以内	
あんず	10.0% SC	散布	2500倍	収穫3日前まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
すもも	10.0% SC	散布	2500~5000倍	収穫3日前まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
			2500倍				
うめ	10.0% SC	散布	2500~5000倍	収穫14日前まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
			2500倍				
4.0% WP配合剤35	散布	2000倍	収穫14日前まで	200~700 L/10 a	3回以内		

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年9月18日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量	使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
とうとう	10.0% SC	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
			2500倍				
いちご	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	2回以内	2回以内
ふさすぐり	10.0% SC	散布	2500倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	2回以内	2回以内
ぶどう	10.0% SC	散布	5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
かき	10.0% SC	散布	5000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	3回以内
	4.0% WP 配合剤35	散布	2000倍	収穫前日まで	200~700 L/10 a	3回以内	
ごま	5.0% SC	散布	2000倍	収穫14日前まで	100~300 L/10 a	2回以内	2回以内
茶	10.0% SC	散布	2000~4000倍	摘採3日前まで	200~400 L/10 a	1回	1回
			2000倍				
しそ科葉菜類(えごま(葉)を除く)	5.0% SC	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300 L/10 a	3回以内	3回以内

WP : 水和剤

GR : 粒剤

SC : フロアブル

配合剤1 : 48.0%プロベナゾール

配合剤2 : 0.75%トリフルメゾピリム

配合剤3 : 0.75%トリフルメゾピリム・10.0%プロベナゾール

配合剤4 : 0.75%トリフルメゾピリム・2.0%イソチアニル

配合剤5 : 0.75%トリフルメゾピリム・2.0%ジクロベンチアゾクス

配合剤6 : 0.75%トリフルメゾピリム・4.0%トルプロカルブ

配合剤7 : 0.75%トリフルメゾピリム・4.5%シメコナゾール・4.0%トルプロカルブ

配合剤8 : 0.75%トリフルメゾピリム・6.0%チアジニル

配合剤9 : 0.75%トリフルメゾピリム・6.0%チアジニル・3.0%チフルザミド

配合剤10 : 12.0%チアジニル

配合剤11 : 24.0%プロベナゾール

配合剤12 : 3.0%チフルザミド・24.0%プロベナゾール

配合剤13 : 3.0%ピメトロジン・10.0%プロベナゾール

配合剤14 : 6.0%ジノテフラン・4.0%トルプロカルブ

配合剤15 : 12.5%アミスルプロム

配合剤16 : 0.75%トリフルメゾピリム・2.0%イソチアニル・2.0%ベンフルフェン

配合剤17 : 0.75%トリフルメゾピリム・2.0%イソチアニル・4.0%フラメトピル

配合剤18 : 0.75%トリフルメゾピリム・2.0%ジクロベンチアゾクス・1.5%フルキサピロキサド

配合剤19 : 0.75%トリフルメゾピリム・4.0%トリシクラゾール

配合剤20 : 1.5%クロチアニジン・2.0%イソチアニル

配合剤21 : 1.5%クロチアニジン・2.0%イソチアニル・4.0%フラメトピル

配合剤22 : 12.0%イソプロチオラン

配合剤23 : 2.0%イミダクロプリド・2.0%イソチアニル

配合剤24 : 2.0%イミダクロプリド・2.0%イソチアニル・2.0%ベンフルフェン

配合剤25 : 20.0%プロベナゾール

配合剤26 : 3.0%チフルザミド・4.0%トリシクラゾール

配合剤27 : 3.0%ピメトロジン

配合剤28 : 3.0%ピメトロジン・3.0%チフルザミド・10.0%プロベナゾール

配合剤29 : 3.0%ピメトロジン・6.0%チアジニル

配合剤30 : 4.0%トリシクラゾール

配合剤31 : 5.0%ベンフラカルブ

配合剤32 : 6.0%ジノテフラン

配合剤33 : 6.0%ベンフラカルブ・10.0%プロベナゾール

配合剤34 : 2.0%エマメクチン安息香酸塩

配合剤35 : 15.0%ジノテフラン

配合剤36 : 17.5%チアメトキサム

今回基準値設定依頼のあった適用の範囲及び使用方法を網掛けで示した。

- : 規定されていない項目

クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法（米国）

(別紙1-2)

作物名	剤型	使用方法	使用時期	1回当たりの使用量	使用回数	栽培期間中の総使用量
穀類 (とうもろこし及び稻を除く。) (Group 15)	18.4% SC	散布	収穫前日まで	0.026～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
とうもろこし	18.4% SC	散布	収穫14日前まで	0.026～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
さとうきび	18.4% SC	散布	収穫14日前まで	0.026～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
あぶらな属野菜 (Subgroup 5A及び5B)	18.4% SC	散布	収穫3日前まで	0.045～0.098 lb ai/acre	4回以内 (滴下処理は2回以内、ただし既に植付時土壤処理を行っている場合は1回以内)	0.2 lb ai/acre
		植付時土壤処理				
		滴下処理				
鱗茎野菜類 (Subgroup 3-07A 及び3-07B)	18.4% SC	散布	収穫前日まで	0.045～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
根菜類	18.4% SC	散布	収穫前日まで	0.045～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
仁果類 (Group 11-10)	35% WG	散布	収穫5日前まで (mayhawは収穫14日前まで)	0.055～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
核果類 (Group 12-12)	35% WG	散布	収穫10日前まで	0.066～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
ケインベリー類 (Subgroup 13-07A)	35% WG	散布	収穫3日前まで	0.066～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
ブッシュベリー類 (Subgroup 13-07B)	35% WG	散布	収穫前日まで	0.066～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
オイルシード類 (Group 20)	18.4% SC	散布	収穫前日まで	0.026～0.098 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
ナツツ類 (Group 14-12)	35% WG	散布	収穫10日前まで	0.044～0.099 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre
コーヒー豆	35% WG	散布	収穫7日前まで	0.066～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
カカオ豆	35% WG	散布	収穫前日まで	0.066～0.099 lb ai/acre	3回以内	0.2 lb ai/acre
スペイス類 (Subgroup 19B)	18.4% SC	散布	収穫前日まで	0.045～0.065 lb ai/acre	4回以内	0.2 lb ai/acre

SC : プロアブル

WG : 顆粒水和剤

ai : active ingredient (有効成分)

lb : ポンド (1 lb = 0.45359237 kg)

acre : エーカー (1 acre = 約4,047 m<sup>2</sup>)

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (豪州)

作物名	剤型	使用方法	使用時期	1回当たりの使用量	使用回数
緑豆	35% WG	散布	収穫14日前まで	22.5 g ai/ha	2回以内

WG : 顆粒水和剤

ai : active ingredient (有効成分)

## クロラントラニリプロールの適用の範囲及び使用方法 (ニュージーランド)

作物名	剤型	使用方法	使用時期	1回当たりの使用量	使用回数	栽培期間中の 総使用量
アボカド	35% WG	散布	収穫14日前まで	3.15 g ai/100 L	2回以内	94.5 g ai/ha

WG : 顆粒水和剤

ai : active ingredient (有効成分)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (国内)

(別紙2-1)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <small>注1)</small>	設定の根拠等	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数			
水稻 (玄米)	2	1.0% GR	50 g/箱 育苗箱処理	1	119	圃場A : <0.01		
					137	圃場B : <0.01		
	6	50% SC	7 mL原液/1 kg 乾燥種粒 塗抹処理	1	121	圃場A : <0.01		
					128	圃場B : <0.01		
					134	圃場C : <0.01		
					139	圃場D : <0.01		
					146	圃場E : <0.01		
					147	圃場F : <0.01		
水稻 (穀米)	6	50% SC	7 mL原液/1 kg 乾燥種粒 塗抹処理	1	121	圃場A : 0.01		
					128	圃場B : <0.01		
					134	圃場C : 0.01		
					139	圃場D : <0.01		
					146	圃場E : <0.01		
					147	圃場F : <0.01		
未成熟とうもろこし (子実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	◎	
	3	50% SC	2.5 mL原液/種子1000粒 塗抹処理	1	78	圃場A : <0.01		
					80	圃場B : <0.01		
					92	圃場C : <0.01		
とうもろこし (乾燥子実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 191~200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
だいだい (乾燥子実)	2	5.0% SC	4000倍 散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A : 0.02 (#) 圃場B : <0.01 (#)		
	4		4000倍 散布 177~189 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A : <0.01 (#) 圃場B : <0.01 (#) 圃場C : <0.01 (#) 圃場D : <0.01 (#)		
						圃場A : <0.01 圃場B : <0.01 圃場C : <0.01 圃場D : <0.01		
						圃場A : <0.01 圃場B : <0.01 圃場C : <0.01 圃場D : <0.01		
	2		4000倍 散布 177~200 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01 圃場C : <0.01 圃場D : <0.01		
	4		16倍 0.8 L/10 a 無人ヘリコプターによる散布	2	7, 14, 21	圃場A : 0.01 圃場B : 0.01		
						圃場A : 0.01 圃場B : 0.01		
いんげんまめ (乾燥子実)	2	5.0% SC	4000倍 散布 180, 183 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
さといも (塊茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 166, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	◎	
かんしょ (塊根)	2	5.0% SC	2000倍 散布 180, 175 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
	2		2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
	2		16倍 1.6 L/10 a 無人ヘリコプターによる散布	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
やまのいも (塊茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 195, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	◎	
さとうきび (茎)	2	5.0% SC	5000倍 散布 222, 243 L/10 a	3	30, 45, 60			
	2		6 kg株元 散布+ 5000倍散布 278, 200 L/10 a	1+3	30, 45, 60			
だいこん (葉部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 15 1, 3, 7, 14	圃場A : 1.66 圃場B : 1.00		
だいこん (根部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 15 1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
はつかだいこん (茎部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	1	1, 3, 7	圃場A : 6.62 (1回, 3日) 圃場B : 6.50		
はつかだいこん (根部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	1	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01		
かぶ (葉部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 2.98 圃場B : 3.28		
かぶ (根部)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.02 (3回, 14日) 圃場B : 0.03	◎	

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <small>注1)</small>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
てんさい (根部)	3	5.0% SC	4000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 7, 14, 21	圃場A : <0.01	
クレソン (茎葉)						圃場B : <0.01	
はくさい (茎葉)						圃場C : <0.01	
キャベツ (葉球)	4	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 200, 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A : 3.08	
						圃場B : 1.22	
				1+3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A : 0.22 (4回, 3日)	
						圃場B : 0.30 (4回, 3日) 圃場C : 0.34 圃場D : 0.09 (4回, 3日)	
こまつな (茎葉)	2	0.50% GR +5.0% SC	1 g/株 植穴処理 2000倍 散布 278~292, 250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.24	
みずな (茎葉)						圃場B : 1.69	
チングンサイ (茎葉)	4	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 200, 250~300, 202 L/10 a	1+3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A : 0.08 (4回, 3日)	
カリフラワー (花蕾)						圃場B : 0.08 (4回, 3日) 圃場C : 0.04 圃場D : 0.53	
プロッコリー (花蕾)				1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.31 (4回, 3日)	
はなっこりー (茎葉)						圃場B : 0.32	
タアサイ (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 150, 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 3.04 (2回, 3日) 圃場B : 1.22	
茎プロッコリー (花蕾及び花茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 70~150 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 5.76 圃場B : 1.02	
あすっこ (花・花茎)	2	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 273, 160~250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.46	
なばな (茎葉)						圃場B : 1.56	
ひろしまな (茎葉)						圃場A : 0.22	
レタス (茎葉)	2	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 223, 250~300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場B : 0.18	
リーフレタス (茎葉)						圃場A : 0.24 (3回, 3日)	
				1+3	3, 7, 14, 21	圃場B : <0.01	
						圃場A : 0.19 (4回, 3日) 圃場B : 0.10 (4回, 3日) (#)	
	2	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +1000倍 散布 250, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.60 (4回, 1日) (#)	
						圃場B : 0.34 (4回, 1日) (#)	
						圃場A : 0.25 圃場B : 0.26	
	2	0.50% GR +5.0% SC	1 g/株 植穴処理 +2000倍 散布 273, 160~250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.35 圃場B : 0.66	
						圃場A : 0.54 圃場B : 0.52	
						圃場A : 2.73 圃場B : 2.70	
	2	5.0% SC	100倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 300 L/10 a	1+2	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.02 (1回, 82日) 圃場B : <0.02 (1回, 82日)	
						圃場A : 82, 89, 96	
						圃場A : 1.00 圃場B : 0.50	
	2	8.7% SC +5.0% SC	200倍 500 mL/セトレイ灌注 +2000倍 散布 200, 250~300 L/10 a	1+3	1, 3, 7	圃場A : 2.51 (4回, 7日) 圃場B : 0.46 (4回, 3日)	
						圃場A : 1.24 圃場B : 0.69	
						圃場A : 2.24 圃場B : 1.34	
	2	0.50% GR +5.0% SC	1 g/株 植穴処理 +1000倍 散布 250~258, 278~279 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.91 (4回, 3日) 圃場B : 1.22	
						圃場A : 1.83 圃場B : 6.70	
						圃場A : 6.98 圃場B : 8.46	

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <sup>注1)</sup>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
サラダ菜 (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 2.40 (2回, 3日) 圃場B : 2.31	◎
	2		100倍 500mL/セリトレイ灌注 +1000倍 散布 193.3, 200 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 5.82 圃場B : 8.63	
ふき (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A : 0.19 圃場B : 0.29	
ふきのとう (花穂)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	2	120, 135, 150	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
ねぎ (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.19 圃場B : 0.61	◎
	2		100倍 500 mL/セリトレイ灌注 +2000倍散布 192, 180 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.09 圃場B : 0.26	
アスパラガス (若茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.02 圃場B : 0.02	◎
らっきょう (鱗茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
バセリ (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 397 L/10 a	1	7, 14, 21	圃場A : 5.62 圃場B : 6.10 (#)	◎
	2	8.7% SC +5.0% SC	200倍 500 mL/セリトレイ灌注 +2000倍散布 200 L/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A : 7.72 (2回, 14日) 圃場B : 5.10	
コリアンダー (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 176, 183 L/10 a	1	3, 7, 14	圃場A : 1.98 圃場B : 1.18	
トマト (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 200 L/10 a	1+3	1, 7, 14	圃場A : 0.04 (4回, 7日) 圃場B : 0.16	
ミニトマト (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +2000倍 散布 250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.10 (4回, 3日) 圃場B : 0.06	
ピーマン (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 200, 250 L/10 a	1+2	1, 7, 14	圃場A : 0.21 圃場B : 0.35	◎
なす (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 200 L/10 a	1+2	1, 7, 14	圃場A : 0.05 圃場B : 0.22	◎
しじとう (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 281, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.12 (4回, 1日) 圃場B : 2.50 (4回, 1日)	
甘長とうがらし (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 180, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.04 (4回, 1日) 圃場B : 1.26 (4回, 1日)	
きゅうり (果実)	2	5.0% SC	100倍 25 mL/ポット灌注 +1000倍 散布 200, 300 L/10 a	1+3	1, 7, 14	圃場A : 0.04 圃場B : 0.06	
すいか (果肉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
すいか (果皮)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.29 圃場B : 0.12	
すいか (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.06 <sup>注2)</sup> 圃場B : 0.04 <sup>注2)</sup>	
メロン (果肉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 250~251 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
メロン (果皮)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 250~251 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.54 (3回, 3日) 圃場B : 0.48 (3回, 3日)	
メロン (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 250~251 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.10 <sup>注3)</sup> (3回, 3日) 圃場B : 0.10 <sup>注3)</sup>	
とうがん (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
にがうり (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.12 (3回, 3日) 圃場B : 0.47	
ほうれんそう (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 152.4, 182.65~182.86 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 3.99 (3回, 14日) 圃場B : 3.99	
オクラ (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 280, 225~275 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.15 圃場B : 0.27	◎
しょうが (根茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 166, 178~180 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.01 (3回, 7日) 圃場B : <0.01	◎
さやえんどう (さや)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200, 181 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.26 圃場B : 0.13	
さやいんげん (さや)	2	5.0% SC	2000倍 散布 168~194, 183 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.18 圃場B : 0.14 (3回, 7日)	
えだまめ (さや)	2	5.0% SC	4000倍 散布 150~200, 200 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.12 圃場B : 0.26	◎

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <sup>注1)</sup>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
えごま (葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 6.80 圃場B : 13.6	
エンサイ (葉茎)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A : 6.50 (2回, 3日) 圃場B : 3.64	
つるむらさき (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 1.38 圃場B : 2.20	
モロヘイヤ (茎葉)	3	5.0% SC	2000倍 散布 480, 420, 750 L/10 a	2	1, 3, 7, 14 1, 3, 7	圃場A : 14.4 (2回, 1日) (#) 圃場B : 8.32 (2回, 1日) (#) 圃場C : 7.26 (2回, 1日) (#)	
未成熟ささげ (未成熟さや)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.66 圃場B : 0.42	
未成熟そらまめ (さや)	2	5.0% SC	1000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.04 圃場B : <0.01	
アマランサス (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 4.83 圃場B : 3.25	
りんご (果実)	4	10.0% SC	2500倍 散布 600, 500, 500, 450 L/10 a	3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A : 0.26 (3回, 3日) 圃場B : 0.10 (3回, 3日) 圃場C : 0.34 圃場D : 0.18	
なし (果実)	4	10.0% SC	2500倍 散布 400, 700, 500 L/10 a	3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A : 0.14 (3回, 3日) 圃場B : 0.15 (3回, 3日) 圃場C : 0.30 圃場D : 0.16	
もも (果肉)	2	10.0% SC	5000倍 散布 400, 500 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.02 (2回, 3日) 圃場B : <0.01 (2回, 3日)	
もも (果皮)	2		5000倍 散布 360, 400 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01	
もも (果実)	2	10.0% SC	5000倍 散布 400, 500 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 1.38 (2回, 3日) 圃場B : 0.59 (2回, 3日)	
もも (果実)	2		5000倍 散布 360, 400 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.14 圃場B : 1.22	
ネクタリン (果実)	2	10.0% SC	5000倍 散布 400 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.22 <sup>注4)</sup> (2回, 3日) 圃場B : 0.10 <sup>注4)</sup> (2回, 3日)	
あんず (果実)	2	10.0% SC	2500倍 散布 625, 400 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.62 圃場B : 0.32 (3回, 14日)	
すもも (果実)	2	10.0% SC	2500倍 散布 500 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.04 (3回, 14日) 圃場B : 0.08	
うめ (果実)	2	10.0% SC	2500倍 散布 313, 400 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.44 圃場B : 0.32	
おうとう (果実)	4	10.0% SC	2500倍 散布 700, 500, 417, 450 L/10 a	3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A : 0.38 (3回, 3日) 圃場B : 0.23 (3回, 3日) 圃場C : 0.12 圃場D : 0.18	
いちご (果実)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 7, 14	圃場A : 0.22 圃場B : 0.22	
ふさすぐり (果実)	2	10.0% SC	2500倍 散布 250, 111 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A : 0.88 圃場B : 1.10 (#)	◎
ぶどう (果実)	2	10.0% SC	5000倍 散布 300, 500 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.13 (3回, 3日) 圃場B : 0.43 (3回, 3日)	◎
かき (果実)	2	10.0% SC	5000倍 散布 500 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.06 圃場B : 0.06 (3回, 3日)	◎
ごま (種子)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A : 0.04 圃場B : 0.03	
茶 (荒茶)	2	10.0% SC	2000倍 散布 400 L/10 a	1	3, 7, 14, 21	圃場A : 27.5 圃場B : 33.8	
茶 (浸出液)	2	10.0% SC	2000倍 散布 400 L/10 a	1	3, 7, 14, 21	圃場A : 16.9 圃場B : 19.6	
バジル (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 8.08 圃場B : 5.86	

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				設定の根拠等	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
しそ (茎葉)	2	5.0% SC	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 7.76 圃場B : 17.3	◎

GR : 粒剤

SC : フロアブル

(印)で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

今回、新たに提出された作物残留試験成績を網掛けで示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) 果肉及び果皮の重量割合が不明のため、過去の作物残留試験等のデータからそれぞれの割合を果肉77%及び果皮23%として果実全体の残留濃度を算出した。

注3) 果肉及び果皮の重量割合が不明のため、過去の作物残留試験等のデータからそれぞれの割合を果肉88%及び果皮12%として果実全体の残留濃度を算出した。

注4) 果肉、果皮及び種子の重量割合が不明のため、過去の作物残留試験等のデータからそれぞれの割合を果肉77%、果皮15%及び種子8%として果実全体の残留濃度を算出した。また、種子の残留濃度は測定していないことから残留していないものとして算出した。

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表（米国）

(別紙2-2)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <sup>注)</sup>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
小麦	5	18.4% SC	0.201~0.209 lb ai/acre散布	2	1	圃場A : 0.225 (#)	◎
						圃場B : 0.192 (#)	
						圃場C : 0.183 (#)	
						圃場D : 0.254 (#)	
						圃場E : 0.409 (#)	
大麦	3	18.4% SC	0.200~0.207 lb ai/acre散布	2	1	圃場A : 1.96 (#)	◎
						圃場B : 1.91 (#)	
						圃場C : 1.93 (#)	
ソルガム	3	18.4% SC	0.200~0.202 lb ai/acre散布	2	1	圃場A : 1.16 (#)	◎
						圃場B : 1.49 (#)	
						圃場C : 0.786 (#)	
とうもろこし (茎葉)	14	18.4% SC	0.098~0.104 lb ai/acre散布	2	13 14 15	圃場A : 5.4	◎
						圃場B : 5.315	
						圃場C : 2.615	
						圃場D : 0.69	
						圃場E : 12.04	
						圃場F : 3.635	
						圃場G : 3.955	
						圃場H : 0.824	
						圃場I : 2.085	
						圃場J : 2.075	
						圃場K : 7.69	
						圃場L : 4.52	
						圃場M : 7.1	
						圃場N : 2.36	
					13	圃場A : 1.7	
7	7	18.4% SC	0.094~0.104 lb ai/acre散布	2	14 15	圃場B : 3.1	◎
						圃場C : 3.1	
						圃場D : 2.8	
						圃場E : 3.7	
						圃場F : 2.2	
キャベツ (外葉あり)	11	18.4% SC	110~118 g ai/ha散布	2	3	圃場G : 3.8	◎
						圃場A : 0.64	
						圃場B : 0.28	
						圃場C : 0.033	
						圃場D : 0.51	
						圃場E : 0.48	
						圃場F : 0.066	
						圃場G : 0.29	
						圃場H : 1.1	
						圃場I : 0.75	
キャベツ (外葉なし)	3	18.4% SC	110~118 g ai/ha散布	2	3	圃場J : 2.9	◎
						圃場K : 2.2	
						圃場A : 0.10	
プロッコリー (花蕾)	1	18.4% SC	113~114 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場A : 0.67 (2回, 1日)	◎
						圃場B : 0.32	
						圃場C : 0.30	
ねぎ	8	18.4% SC	109~116 g ai/ha散布	2	3	圃場D : 0.40	◎
						圃場E : 0.38	
						圃場F : 0.32	
						圃場G : 0.41	
						圃場H : 0.35	
						圃場I : 0.12	
						圃場A : 0.653 (#)	
						圃場B : 0.406 (#)	

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表（米国）

(別紙2-2)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <small>注)</small>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
りんご (果実)	1	35% WG	112 g ai/ha散布	2	0, 7, 14, 21, 28	圃場A : 0.13	◎
	13	35% WG	111~118 g ai/ha散布	2	14	圃場A : 0.022	
						圃場B : 0.056	
						圃場C : 0.11	
						圃場D : 0.074	
						圃場E : 0.038	
						圃場F : 0.010	
						圃場G : 0.012	
						圃場H : 0.088	
						圃場I : 0.045	
						圃場J : 0.093	
						圃場K : 0.061	
						圃場L : 0.23	
						圃場M : 0.078	
なし (果実)	3	35% WG	109~113 g ai/ha散布	2	15	圃場A : 0.073	◎
	7	35% WG	113~115 g ai/ha散布	2	10	圃場B : 0.072	
						圃場C : 0.030	
						圃場A : 0.054	
						圃場B : 0.033	
						圃場C : 0.059	
						圃場D : 0.085	
						圃場A : 0.026	
						圃場B : 0.070	
もも (果実)	7	35% WG	112~113 g ai/ha散布	2	14	圃場C : 0.10	◎
	9	35% WG	115.71~116.13 g ai/ha散布	2	10, 14	圃場D : 0.016	
						圃場E : 0.12	
						圃場F : 0.13	
						圃場G : 0.070	
						圃場A : 0.720	
						圃場B : 0.125	
						圃場A : 0.247	
						圃場B : 0.144	
すもも (果実)	9	35% WG	111.37~113.65 g ai/ha散布	2	10	圃場C : 0.132	◎
	3	35% WG	110.69~112.34 g ai/ha散布	2	9	圃場D : 0.165	
						圃場E : 0.0639	
						圃場F : 0.0916	
						圃場G : 0.101	
						圃場H : 0.0827	
						圃場I : 0.122	
3	35% WG	112.42~115.47 g ai/ha散布 野菜オイル加用	2	10	圃場A : 0.106	◎	
	3	35% WG	110.35~115.85 g ai/ha散布 非イオン系展着剤加用	2	10	圃場B : 0.891	
						圃場C : 0.142	
						圃場A : 0.114	
						圃場B : 0.132	
						圃場C : 0.101	
						圃場A : 0.0897	
						圃場B : 0.105	
						圃場C : 0.309	
3	35% WG	109.77~115.87 g ai/ha散布	2	11	圃場D : 0.183	◎	
	1	35% WG	111~112 g ai/ha散布	2	0, 5, 10, 14, 21	圃場A : 0.004	
						圃場B : 0.026	
						圃場C : 0.017	
3	10	35% WG	105~112 g ai/ha散布	2	10	圃場D : 0.067	◎
						圃場E : 0.006	
						圃場F : 0.015	
						圃場G : 0.006	
						圃場H : 0.007	◎
						圃場I : 0.007	
						圃場J : 0.009	
3	3	35% WG	108~111 g ai/ha散布 野菜オイル加用	2	10	圃場A : 0.011	◎
						圃場B : 0.022	
						圃場C : 0.049	
	3	35% WG	112~118 g ai/ha散布 非イオン系展着剤加用	2	10	圃場A : 0.011	◎
	圃場B : 0.029						
	圃場C : 0.076						

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表（米国）

(別紙2-2)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <sup>注)</sup>	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
とうとう (果実)	2	35% WG	112 g ai/ha散布	2	9	圃場A : 0.11 圃場B : 0.18 圃場C : 0.26 圃場D : 0.10 圃場E : 0.056 圃場F : 0.36 圃場G : 0.21 圃場H : 0.45	◎
	6	35% WG	111~112 g ai/ha散布	2	10	圃場A : 0.15 圃場B : 0.48 圃場C : 0.19 圃場D : 0.57	
	2	35% WG	112 g ai/ha散布 野菜オイル加用	2	10	圃場A : 0.15 圃場B : 0.48	
	2	35% WG	112 g ai/ha散布 非イオン系展着剤加用	2	10	圃場A : 0.19 圃場B : 0.57	
	1	35% WG	0.199 lb ai/acre散布	2	1, 3, 6, 10, 15	圃場A : 0.171 (#)	
ラズベリー (果実)	1	35% WG	0.099~0.103 lb ai/acre散布	2	1, 3, 7, 10	圃場A : 0.0902 圃場B : 0.235 圃場C : 0.481	◎
	5	35% WG	0.100~0.105 lb ai/acre散布	2	3	圃場C : 0.482 圃場D : 0.513 圃場E : 0.095	
	1	35% WG	0.097~0.100 lb ai/acre散布	2	3	圃場A : 0.049 圃場B : 0.436	
ブルーベリー (果実)	9	35% WG	0.198~0.212 lb ai/acre散布	2	1 1, 3, 6, 13 1, 3, 8, 14	圃場A : 0.176 (#) 圃場B : 0.122 (#) 圃場C : 0.163 (#) 圃場D : 0.108 (#) 圃場E : 0.206 (#) 圃場F : 0.132 (#) 圃場G : 0.749 (#) 圃場H : 0.840 (#) 圃場I : 0.181 (#) 圃場A : 0.234 (#) 圃場A : 0.460 (#)	◎
	1						
	1						
ひまわり (種子)	6	18.4% SC	219~230 g ai/ha散布	1	1	圃場A : 0.79 (#) 圃場B : 0.12 (#) 圃場C : 0.21 (#) 圃場D : 0.030 (#) 圃場E : 0.82 (#) 圃場F : 0.16 (#)	◎
綿実 (種子)	1	35% WG	110~118 g ai/ha散布	2	0, 7, 14, 21, 28	圃場A : 0.078	◎
	1	35% WG	110~112 g ai/ha散布	2	0, 6, 14, 20, 25	圃場A : 0.34 (2回, 6日)	
	1	35% WG	112 g ai/ha散布	2	20	圃場A : 0.016	
	7	35% WG	109~114 g ai/ha散布	2	21	圃場A : 0.022 圃場B : 0.029 圃場C : 0.047 圃場D : 0.082 圃場E : 0.049 圃場F : 0.13 圃場G : 0.083	
	3	35% WG	110~114 g ai/ha散布	2	22	圃場A : 0.031 圃場B : 0.054 圃場C : 0.081	
	1	35% WG	112~113 g ai/ha散布	2	23	圃場A : 0.006	
	1	35% WG	112~113 g ai/ha散布	2	9	圃場A : 0.015	
ペカン (可食部)	5	35% WG	112~114 g ai/ha散布	2	10	圃場A : 0.003 圃場B : 0.003 圃場C : 0.007 圃場D : 0.014 圃場E : 0.009	◎
アーモンド (可食部)	5	35% WG	111~114 g ai/ha散布	2	10	圃場A : 0.006 圃場B : 0.007 圃場C : 0.004 圃場D : 0.006 圃場E : 0.004	◎
	1	35% WG	111~112 g ai/ha散布	2	11	圃場A : 0.008	
コーヒード (豆)	2	35% WG	52.5 g ai/ha散布	3	7, 21 1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 0.098 圃場B : 0.115	◎
	2					圃場A : 0.188 圃場B : 0.205	
デイル (種子)	2	18.4% SC	0.100~0.101 lb ai/acre散布	2	1	圃場A : 17.6 (#) 圃場B : 24.3 (#)	◎

WG : 顆粒水和剤

SC : フロアブル

ND : not detected (検出限界0.003 mg/kg未満)

(#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

(注) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (豪州)

農作物	試験 圃場数	試験条件				設定の 根拠等	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
緑豆	2	35% WG	45 g ai/ha散布	2	14	圃場A : 0.42(#) 圃場B : 0.32(#)	◎

WG : 顆粒水和剤

(#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

注) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (ニュージーランド)

農作物	試験 圃場数	試験条件				設定の 根拠等	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
アボカド	1	35% WG	94.5 g ai/ha散布	2	1, 7, <u>14</u> , 21, 28	圃場A: 0.16 (2回, 7日)	◎
	1				<u>14</u>	圃場A: 0.15	
	1	35% WG	189 g ai/ha 散布	3	1, 7, <u>14</u> , 21, 28	圃場A: 0.34 (3回, 1日) (#)	
	1				<u>14</u>	圃場A: 0.31 (#)	

WG: 顆粒水和剤

(#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

注) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.1	0.05	○			※1
小麦	6	6		0.02	6.0	米国【1.91,1.93,1.96(#)(米国大麦)】
大麦	6	6		0.02	6.0	米国【小麦参照】
ライ麦	6	6		0.02	6.0	米国【小麦参照】
とうもろこし	0.05	0.6	○	0.02		<0.01,<0.01(¥)
そば	6	6		0.02	6.0	米国【小麦参照】
その他の穀類	6	6		0.02	6.0	米国【小麦参照】
大豆	0.05	0.2	○	0.05		
小豆類	0.7	1	○	0.3	0.7	豪州【0.32,0.42(#)(豪州緑豆)】
えんどう	0.3	1	○	0.3		
そら豆	0.3	1	○	0.3		
らっかせい	0.06	0.06		0.06		
その他の豆類	0.3	1	○	0.3		
ばれいしょ	0.02	0.02		0.02		
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05	0.05	○	0.02		<0.01,<0.01(¥)
かんしょ	0.02	0.05	○	0.02		
やまいも(長いもをいう。)	0.05	0.05	○	0.02		<0.01,<0.01(¥)
こんにゃくいも	0.02	0.02		0.02		
その他のいも類	0.02	0.02		0.02		
てんさい	0.02	0.02	○	0.02		
さとうきび	14	14	○	0.5	14	米国【0.69~12.04(n=21) (米国とうもろこし茎葉)】
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.5	0.5	○	0.5		
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	40	40	○	40		
かぶ類の根	0.2	0.2	○	0.02		0.02,0.03(¥)
かぶ類の葉	20	20	○	20		
西洋わさび	0.02	0.02		0.02		
クレソン	20	20	○	20		
はくさい	20	20	○	20		
キャベツ	4	4	○	2	4.0	米国【0.033~2.9(n=12) (米国キャベツ外葉あり) 【キャベツ参照】】
芽キャベツ	4	4		2	4.0	米国
ケール	20	20	○	20		
こまつな	20	20	○	20		
きょうな	20	20	○	20		
チングンサイ	20	20	○	20		
カリフラワー	4	4	○	2	4.0	米国【キャベツ参照】
ブロッコリー	4	4	○	2	4.0	米国【キャベツ参照】
その他のあぶらな科野菜	20	20	○	20		
ごぼう	0.02	0.02		0.02		
サルシフィー	0.02	0.02		0.02		
アーティチョーク	2	2		2		
チコリ	30	20	申	20		(レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)参照)
エンダイブ	30	20	申	20		(レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)参照)
しゅんぎく	20	20		20		
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	30	20	○・申	20		5.82,8.63(#)(サラダ菜)、 6.98(#)(リーフレタス)
その他のきく科野菜	30	20	○・申	20		(レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)参照)
ねぎ(リーキを含む。)	3	3	○	3.0	米国	【0.406~1.49(#)(n=5)(米国)】
にら	3	3		3.0	米国	【ねぎ(リーキを含む。)参照】
アスパラガス	0.1	0.1	○			0.02,0.02(¥)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm	
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm		
その他のゆり科野菜	3	3	○		3.0	米国	【ねぎ(リーキを含む。)参照】
にんじん	0.08	0.08	○	0.08			
パースニップ	0.02	0.02		0.02			
パセリ	15	15	○				5.10,7.72(¥) (パセリ参照)
セロリ	15	15	○	7			(パセリ参照)
みつば	15	15	○				(パセリ参照)
その他のせり科野菜	15	15	○	0.02			(パセリ参照)
トマト	0.6	0.7	○	0.6			
ピーマン	1	1	○	0.6			0.21,0.35(¥)
なす	0.7	0.7	○	0.6			0.05,0.22(¥)
その他のなす科野菜	20	20	○	20			
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.3	0.3	○	0.3			
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.3	0.3	○	0.3			
しろうり	0.3	0.3		0.3			
すいか		0.1	○				
すいか(果皮を含む。)	0.3		○	0.3			
メロン類果実		0.1	○				
メロン類果実(果皮を含む。)	0.3		○	0.3			
まくわうり		0.1					
まくわうり(果皮を含む。)	0.3			0.3			
その他のうり科野菜	20	20	○	20			
ほうれんそう	20	20	○	20			
オクラ	0.7	0.7	○	0.6			0.15,0.27(¥)
しょうが	0.05	0.05	○				<0.01,0.01(¥)
未成熟えんどう	2	2	○	2			
未成熟いんげん	0.8	2	○	0.8			
えだまめ	0.7	1	○				0.12,0.26(¥)
マッシュルーム	0.6	0.6		0.6			
しいたけ	0.6	0.6		0.6			
その他のきのこ類	0.6	0.6		0.6			
その他の野菜	20	20	○	20			
みかん		0.2					
みかん(外果皮を含む。)	0.7			0.7			
なつみかんの果実全体	0.7	0.7		0.7			
レモン	0.7	0.7		0.7			
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.7		0.7			
グレープフルーツ	0.7	0.7		0.7			
ライム	0.7	0.7		0.7			
その他のかんきつ類果実	0.7	0.7		0.7			
りんご	1	1	○	0.4			0.34,0.18(¥)
日本なし	1	1	○	0.4	1.2	米国	【0.010~0.23(n=17)(米国りんご)】
西洋なし	1	1	○	0.4	1.2	米国	【日本なし参照】
マルメロ	1	1		0.4	1.2	米国	【日本なし参照】
びわ		0.4					
びわ(果梗を除き、果皮及び種子を含む。)	0.4			0.4			
もも		0.4	○				
もも(果皮及び種子を含む。)	3		○	1	2.5	米国	【0.056~0.45(n=8)(米国おうとう)】
ネクタリン	3	4	○	1	2.5	米国	【もも(果皮及び種子を含む。)参照】
あんず(アブリコットを含む。)	3	4	○	1	2.5	米国	【もも(果皮及び種子を含む。)参照】
すもも(ブルーンを含む。)	3	4	○	1	2.5	米国	【もも(果皮及び種子を含む。)参照】

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
うめ おうとう(チェリーを含む。)	1 3	1 1	○ ○	1 1	2.5 米国	【もも(果皮及び種子を含む。)参照】
いちご ラズベリー	1 2	1 2	○	1 1	1.8 米国	【0.0902~0.513(n=6)(米国ラズベリー)】 【ラズベリー参照】
ブラックベリー ブルーベリー	2 3	2 3		1 1	1.8 2.5 米国 米国	【0.108~0.840(#)(n=11)(米国)】 【ブルーベリー参照】 【ブルーベリー参照】
クランベリー ハックルベリー その他のベリー類果実	3 3 3	3 3 3		1 1 1	2.5 2.5 米国 米国	【ブルーベリー参照】 【ブルーベリー参照】 0.88,1.10(¥)(ふさすぐり)
ぶどう かき	1 0.3	2 0.3	○ ○	1		0.13,0.43(¥) 0.06,0.06(¥)
アボカド	0.5	0.5		0.3 0.5	ニュージーランド 米国	【0.15,0.16(ニュージーランド)】
その他の果実	1	1		1		
ひまわりの種子 ごまの種子	2 0.3	2 0.3	○	2 0.3	米国	【0.006~0.34(#)(n=14)(米国綿実)】※2
べにばなの種子	2	2			米国	【0.030~0.82(n=6)(米国ひまわりの種子)】
綿実 なたね その他のオイルシード	0.3 2 0.3	0.3 2 0.3		0.3 2 0.3	米国	【ごまの種子参照】※2
ぎんなん くり ペカン アーモンド くるみ その他のナッツ類	0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.02	0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.02		0.02 0.02 0.02 0.02 0.02 0.02		
茶 コーヒー豆 カカオ豆	80 0.4 0.08	50 0.4 0.08	○	80 0.05 0.08	米国 米国 ※3	【0.098~0.205(n=4)(米国)】 【0.003~0.015(n=6)(米国ペカン)】※4
ホップ	40	40		40		
その他のスパイス	90	90			90 米国	【17.6,24.3(#)(米国ディル(種子))】
その他のハーブ	25	25	○	20		7.76,17.3(¥)(しそ)
牛の筋肉 豚の筋肉 その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.2 0.2 0.2	0.2 0.2 0.2		0.2 0.2 0.2		
牛の脂肪 豚の脂肪 その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.3 0.3 0.3	0.3 0.3 0.3		0.2 0.2 0.2	米国 ※3 米国 ※3 米国 ※3	推:0.12 【牛の脂肪参照】 【牛の脂肪参照】
牛の肝臓 豚の肝臓 その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3 0.3 0.3	0.3 0.3 0.3		0.2 0.2 0.2	米国 ※3 米国 ※3 米国 ※3	推:0.10 【牛の肝臓参照】 【牛の肝臓参照】

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
牛の腎臓	0.2	0.2		0.2		
豚の腎臓	0.2	0.2		0.2		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2	0.2		0.2		
牛の食用部分	0.2	0.2		0.2		
豚の食用部分	0.2	0.2		0.2		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2	0.2		0.2		
乳	0.05	0.05		0.05		
鶏の筋肉	0.02	0.02		0.02		
その他の家きんの筋肉	0.02	0.02		0.02		
鶏の脂肪	0.08	0.08		0.08		
その他の家きんの脂肪	0.08	0.08		0.08		
鶏の肝臓	0.07	0.07		0.07		
その他の家きんの肝臓	0.07	0.07		0.07		
鶏の腎臓	0.07	0.07		0.07		
その他の家きんの腎臓	0.07	0.07		0.07		
鶏の食用部分	0.07	0.07		0.07		
その他の家きんの食用部分	0.07	0.07		0.07		
鶏の卵	0.2	0.2		0.2		
その他の家きんの卵	0.2	0.2		0.2		
魚介類	0.05	0.05				推:0.05
はちみつ	0.05	0.05				※5
とうがらし(乾燥させたもの)				5		※6

太枠: 本基準(暫定基準以外の基準)を見直した基準値

斜線: 食品区分を別途新設すること等に伴い、削除した食品区分、もしくは加工食品につき基準値を設定しないもの

○: 既に、国内において登録等がされているもの

申: 農薬の登録申請等に伴い基準値設定依頼がなされたもの

(#): 適用の範囲内で試験が行われていない作物残留試験成績

(¥): 基準値設定の根拠とした作物残留試験成績(最大値)

推: 推定される残留濃度

※1)「米」の基準値について;

国際基準における「Rice」については、「粳米」に対する基準値であり、我が国における「玄米」に相当する食品への基準は設定されていない。ただし、2014年のJMPRによる評価において、精米への加工係数が0.11、米ぬかへの加工係数が1.7と設定されている。また、米の基準値設定のための試験データから、精米と米ぬかの重量比が88%:12%と算出されたことから、「米(玄米)」の基準値として0.1 ppmを設定することとした。

※2) 現行の基準値はIT(インポートトレランス)申請当時の米国分類に基づいた基準値を参照して設定したものであり、現在も米国において基準値が設定されていることを考慮し、現行の基準値を維持することとする。なお、米国におけるごまの種子及びその他のオイルシードが属するオイルシード類subgroup 20Aの基準値は2.0 ppmに変更されている。

※3) 現行の基準値は、IT申請当時の米国分類に基づいた基準値を参照して設定したものであり、現在も米国において基準値が設定されていることを考慮し、現行の基準値を維持することとする。なお、米国における牛の脂肪及び肝臓の基準値は0.5 ppmに変更されている。

※4) カカオ豆の基準値については、外皮を含まないものに適用するものとする。

※5) 「食品中の農薬の残留基準設定の基本原則について」(令和元年7月30日農薬・動物用医薬品部会(令和5年3月31日一部改訂))の別添3「はちみつ中の農薬等の基準設定の方法について」に基づき設定。

※6) 加工食品である「とうがらし(乾燥させたもの)」について、国際基準が設定されているが、加工係数を用いて原材料中の濃度に換算した値が当該原材料の基準値案を超えないことから、基準値を設定しないこととする。なお、本物質について、JMPRの評価書はとうがらし(乾燥させたもの)の加工係数を7と算出している。

## クロラントラニリプロールの推定摂取量 (単位: µg/人/日)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) EDI
米 (玄米をいう。)	0.1	0.03	4.9	2.6	3.2	5.4
小麦	6	1.93	115.4	85.5	133.2	96.3
大麦	6	1.93	10.2	8.5	17.0	8.5
ライ麦	6	1.93	0.2	0.2	1.0	0.2
とうもろこし	0.05	0.01	0.0	0.1	0.1	0.0
そば	6	1.93	2.1	1.0	3.5	2.1
その他の穀類	6	1.93	0.4	0.2	0.2	0.6
大豆	0.05	0.01	0.4	0.2	0.3	0.5
小豆類	0.7	0.37	0.9	0.3	0.3	1.4
えんどう	0.3	0.0305	0.0	0.0	0.0	0.0
そら豆	0.3	0.0305	0.0	0.0	0.0	0.0
らっかせい	0.06	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.3	0.0305	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.02	0.01	0.4	0.3	0.4	0.4
さといも類 (やつがしらを含む。)	0.05	0.01	0.1	0.0	0.0	0.1
かんしょ	0.02	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1
やまいも (長いもをいう。)	0.05	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
こんにゃくいも	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のいも類	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
てんさい	0.02	0.01	0.3	0.3	0.4	0.3
さとうきび	14	3.1	304.4	259.2	384.7	310.6
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の根	0.5	0.055	1.8	0.6	1.1	2.5
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の葉	40	10.5	17.9	6.3	32.6	29.4
かぶ類の根	0.2	0.025	0.1	0.0	0.0	0.1
かぶ類の葉	20	7.3	2.2	0.7	0.7	4.4
西洋わさび	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	20	7.3	0.7	0.7	0.7	0.7
はくさい	20	7.3	129.2	37.2	121.2	157.7
キャベツ	4	0.495	11.9	5.7	9.4	11.8
芽キャベツ	4	0.495	0.0	0.0	0.0	0.0
ケール	20	7.3	1.5	0.7	0.7	1.5
こまつな	20	7.3	36.5	13.1	46.7	46.7
きょうな	20	7.3	16.1	2.9	10.2	19.7
チンゲンサイ	20	7.3	13.1	5.1	13.1	13.9
カリフラワー	4	0.495	0.2	0.1	0.0	0.2
プロッコリー	4	0.495	2.6	1.6	2.7	2.8
その他のあぶらな科野菜	20	7.3	24.8	4.4	5.8	35.0
ごぼう	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
サルシフィー	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	2	0.56	0.1	0.1	0.1	0.1
チコリ	30	6.98	0.7	0.7	0.7	0.7
エンダイブ	30	6.98	0.7	0.7	0.7	0.7
しゅんぎく	20	7.3	11.0	2.2	19.0	18.3
レタス (サラダ菜及びちしやを含む。)	30	6.98	67.0	30.7	79.6	64.2
その他のきく科野菜	30	6.98	10.5	0.7	4.2	18.1
ねぎ (リーキを含む。)	3	0.717	6.7	2.7	4.9	7.7
にら	3	0.717	1.4	0.6	1.3	1.5
アスパラガス	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.1
その他のゆり科野菜	3	0.717	0.4	0.1	0.1	0.9
にんじん	0.08	0.02	0.4	0.3	0.5	0.4
ペースニップ	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
パセリ	15	6.41	0.6	0.6	0.6	1.3
セロリ	15	6.41	7.7	3.8	1.9	7.7
みつば	15	6.41	2.6	0.6	0.6	3.2
その他のせり科野菜	15	6.41	1.3	0.6	1.9	1.9
トマト	0.6	0.066	2.1	1.3	2.1	2.4
ピーマン	1	0.28	1.3	0.6	2.1	1.4
なす	0.7	0.135	1.6	0.3	1.4	2.3
その他のなす科野菜	20	7.3	8.0	0.7	8.8	8.8

## クロラントラニリプロールの推定摂取量 (単位: µg/人/日)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) EDI
きゅうり (ガーキンを含む。)	0.3	0.065	1.3	0.6	0.9	1.7
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	0.3	0.065	0.6	0.2	0.5	0.8
しろうり	0.3	0.065	0.0	0.0	0.0	0.1
すいか (果皮を含む。)	0.3	0.065	0.5	0.4	0.9	0.7
メロン類果実 (果皮を含む。)	0.3	0.065	0.2	0.2	0.3	0.3
まくわうり (果皮を含む。)	0.3	0.065	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のうり科野菜	20	7.3	19.7	8.8	4.4	24.8
ほうれんそう	20	7.3	93.4	43.1	103.7	127.0
オクラ	0.7	0.21	0.3	0.2	0.3	0.4
しょうが	0.05	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟えんどう	2	0.545	0.9	0.3	0.1	1.3
未成熟いんげん	0.8	0.16	0.4	0.2	0.0	0.5
えだまめ	0.7	0.19	0.3	0.2	0.1	0.5
マッシュルーム	0.6	0.066	0.0	0.0	0.1	0.0
しいたけ	0.6	0.066	0.4	0.2	0.2	0.5
その他のきのこ類	0.6	0.066	0.7	0.3	0.7	0.8
その他の野菜	20	7.3	97.8	46.0	73.7	102.9
みかん (外果皮を含む。)	0.7	0.06	1.1	1.0	0.0	1.6
なつみかんの果実全体	0.7	0.06	0.1	0.0	0.3	0.1
レモン	0.7	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.06	0.4	0.9	0.8	0.3
グレープフルーツ	0.7	0.06	0.3	0.1	0.5	0.2
ライム	0.7	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のかんきつ類果実	0.7	0.06	0.4	0.2	0.2	0.6
りんご	1	0.26	6.3	8.0	4.9	8.4
日本なし	1	0.072	0.5	0.2	0.7	0.6
西洋なし	1	0.072	0.0	0.0	0.0	0.0
マルメロ	1	0.072	0.0	0.0	0.0	0.0
びわ (果梗を除き、果皮及び種子を含む。)	0.4	0.07	0.0	0.0	0.1	0.0
もも (果皮及び種子を含む。)	3	0.195	0.7	0.7	1.0	0.9
ネクタリン	3	0.195	0.0	0.0	0.0	0.0
あんず (アブリコットを含む。)	3	0.195	0.0	0.0	0.0	0.1
すもも (ブルーンを含む。)	3	0.195	0.2	0.1	0.1	0.2
うめ	1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.4
おうとう (チェリーを含む。)	3	0.195	0.1	0.1	0.0	0.1
いちご	1	0.119	0.6	0.9	0.6	0.7
ラズベリー	2	0.358	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	2	0.358	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	3	0.181	0.2	0.1	0.1	0.3
クランベリー	3	0.181	0.0	0.0	0.0	0.0
ハックルベリー	3	0.181	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	3	0.99	0.1	0.1	0.2	0.1
ぶどう	1	0.28	2.4	2.3	5.7	2.5
かき	0.3	0.06	0.6	0.1	0.2	1.1
アボカド	0.5	0.155	0.0	0.0	0.0	0.1
その他の果実	1	0.119	0.1	0.0	0.1	0.2
ひまわりの種子	2	0.185	0.0	0.0	0.0	0.0
こまの種子	0.3	0.052	0.0	0.0	0.0	0.0
べにはなの種子	2	0.185	0.0	0.0	0.0	0.0
綿実	0.3	0.049	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	2	0.295	1.7	1.1	1.6	1.4
その他のオイルシード	0.3	0.052	0.0	0.0	0.0	0.0
きんなん	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0

## クロラントラニリプロールの推定摂取量 (単位: µg/人/日)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) EDI
茶	80	24.5	161.7	24.5	90.7	230.3
コーヒー豆	0.4	0.152	0.5	0.0	0.0	0.4
カカオ豆	0.08	0.008	0.0	0.0	0.0	0.0
ホップ	40	10.9	1.1	1.1	1.1	1.1
その他のスパイス	90	20.95	2.1	2.1	2.1	4.2
その他のハーブ	25	12.53	11.3	3.8	1.3	17.5
陸棲哺乳類の肉類	0.3	筋肉 0.009 脂肪 0.2	2.7	2.0	3.0	1.9
陸棲哺乳類の食用部分 (肉類除く)	0.3	0.18	0.3	0.1	0.9	0.2
陸棲哺乳類の乳類	0.05	0.006	1.6	2.0	2.2	1.3
家きんの肉類	0.08	0.028	0.6	0.4	0.6	0.5
家きんの卵類	0.2	0.099	4.1	3.3	4.8	3.8
魚介類	0.05	0.016	1.5	0.6	0.9	1.8
はちみつ	0.05	● 0.05	0.0	0.0	0.1	0.1
計			1243.4	642.4	1231.1	1439.9
ADI比 (%)			1.5	2.6	1.4	1.7

EDI: 推定一日摂取量 (Estimated Daily Intake)

EDI試算法: 作物残留試験成績の中央値 (STMR) 等×各食品の平均摂取量

●: 個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値 (案) の数値を用いた。

国際基準を参照したものについて、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてEDI試算をした。

「陸棲哺乳類の肉類」については、EDI試算では、畜産物中の平均的な残留農薬濃度を用い、摂取量の筋肉及び脂肪の比率をそれぞれ80%、20%として試算した。

「魚介類」については、摂取する魚介類を内水面 (湖や河川) 魚介類、海産魚介類及び遠洋魚介類に分け、それぞれ海産魚介類での推定残留濃度を内水面魚介類の1/5、遠洋魚介類での推定残留濃度を0として算出した係数 (0.31) を推定残留濃度に乗じた値を用いてEDI試算した。

米 (玄米をいう。) の暴露評価には、国際基準における「Rice (穀米)」のSTMRから基準値と同様の手法で算出した数値を用いた。

牛の脂肪及び肝臓のSTMRは、米国での肉牛における最大飼料由来負荷72.6 ppmを用いて算出した。

(参考)

これまでの経緯

平成20年 3月10日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼(新規: 水稻、りんご等)
平成20年 3月25日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成20年 7月23日	インポートトレランス申請(ばれいしょ、ほうれんそう等)
平成20年10月 9日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年 3月 6日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成21年 7月22日	初回農薬登録
平成21年 9月28日	残留基準告示
平成22年 7月12日	農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: だいこん、かぶ等)
平成22年 7月14日	インポートトレランス申請(米、かんきつ類、魚介類等)
平成22年 8月11日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成23年 6月16日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成24年 9月26日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成24年12月28日	残留基準告示
平成24年 4月16日	インポートトレランス申請(みかん、ラズベリー等)
平成24年 5月 9日	農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: さといも、やまいも等)
平成24年 7月18日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成24年10月24日	農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: かんしょ)
平成24年10月31日	インポートトレランス申請(ひまわり(種子)、なたね等)
平成24年11月12日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成25年 3月26日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成25年10月22日	残留基準告示
平成26年 1月24日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼(適用拡大: オクラ及びしょうが)
平成26年 3月20日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成26年 3月27日	インポートトレランス申請(小麦、たまねぎ等)
平成26年 6月24日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成26年12月24日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会  
平成27年 5月19日 残留基準告示

平成28年 7月 1日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準  
値設定依頼(適用拡大：せり科葉菜類(パセリを除く)及びパセ  
リ)

平成28年11月14日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に  
係る食品健康影響評価について要請

平成29年 4月18日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評  
価について通知

平成29年 9月 7日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会  
平成30年 5月30日 残留基準告示

令和 3年 5月25日 薬事・食品衛生審議会への諮問（基本原則の一部改訂に伴う残  
留基準設定）

令和 3年 6月16日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に  
係る食品健康影響評価について要請

令和 3年 6月22日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評  
価について通知

令和 3年 7月 7日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会  
令和 3年12月17日 残留基準告示

令和 6年 9月 2日 農林水産省から消費者庁へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設  
定依頼(適用拡大：レタス類)

令和 7年11月19日 食品衛生基準審議会へ諮問

令和 7年11月28日 食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

## ● 食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

### [委員]

大山	和俊	一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長
○折戸	謙介	学校法人麻布獸医学園理事（兼）麻布大学獸医学部教授
加藤	くみ子	北里大学薬学部教授
近藤	麻子	日本生活協同組合連合会組織推進本部本部長
須恵	雅之	東京農業大学応用生物科学部教授
瀧本	秀美	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事
田口	貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
◎堤	智昭	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
中島	美紀	金沢大学ナノ生命科学研究所（薬学系兼任）教授
野田	隆志	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問

(◎：部会長、○：部会長代理)

## 答申（案）

クロラントラニリプロールについては、以下のとおり食品中の農薬の残留基準を設定することが適当である。

### クロラントラニリプロール

今回残留基準を設定する「クロラントラニリプロール」の規制対象は、クロラントラニリプロールとする。

食品名	残留基準値 ppm
米（玄米をいう。）	0.1
小麦	6
大麦	6
ライ麦	6
とうもろこし	0.05
そば	6
その他の穀類 <sup>注1)</sup>	6
大豆	0.05
小豆類 <sup>注2)</sup>	0.7
えんどう	0.3
そら豆	0.3
らっかせい	0.06
その他の豆類 <sup>注3)</sup>	0.3
ばれいしょ	0.02
さといも類（やつがしらを含む。）	0.05
かんしょ	0.02
やまいも（長いもをいう。）	0.05
こんにゃくいも	0.02
その他のいも類 <sup>注4)</sup>	0.02
てんさい	0.02
さとうきび	14
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	0.5
だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉	40
かぶ類の根	0.2
かぶ類の葉	20
西洋わさび	0.02
クレソン	20
はくさい	20

食品名	残留基準値 ppm
キャベツ	4
芽キャベツ	4
ケール	20
こまつな	20
きょうな	20
チングンサイ	20
カリフラワー	4
ブロッコリー	4
その他のあぶらな科野菜 <sup>注5)</sup>	20
ごぼう	0.02
サルシフィー	0.02
アーティチョーク	2
チコリ	30
エンダイブ	30
しゅんぎく	20
レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）	30
その他のきく科野菜 <sup>注6)</sup>	30
ねぎ（リーキを含む。）	3
にら	3
アスパラガス	0.1
その他のゆり科野菜 <sup>注7)</sup>	3
にんじん	0.08
パースニップ	0.02
パセリ	15
セロリ	15
みつば	15
その他のせり科野菜 <sup>注8)</sup>	15
トマト	0.6
ピーマン	1
なす	0.7
その他のなす科野菜 <sup>注9)</sup>	20
きゅうり（ガーキンを含む。）	0.3
かぼちゃ（スカッシュを含む。）	0.3
しろうり	0.3
すいか（果皮を含む。）	0.3
メロン類果実（果皮を含む。）	0.3
まくわうり（果皮を含む。）	0.3

食品名	残留基準値 ppm
その他のうり科野菜 <sup>注10)</sup>	20
ほうれんそう	20
オクラ	0.7
しょうが	0.05
未成熟えんどう	2
未成熟いんげん	0.8
えだまめ	0.7
マッシュルーム	0.6
しいたけ	0.6
その他のきのこ類 <sup>注11)</sup>	0.6
その他の野菜 <sup>注12)</sup>	20
みかん（外果皮を含む。）	0.7
なつみかんの果実全体	0.7
レモン	0.7
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	0.7
グレープフルーツ	0.7
ライム	0.7
その他のかんきつ類果実 <sup>注13)</sup>	0.7
りんご	1
日本なし	1
西洋なし	1
マルメロ	1
びわ（果梗を除き、果皮及び種子を含む。）	0.4
もも（果皮及び種子を含む。）	3
ネクタリン	3
あんず（アプリコットを含む。）	3
すもも（プルーンを含む。）	3
うめ	1
おうとう（チェリーを含む。）	3
いちご	1
ラズベリー	2
ブラックベリー	2
ブルーベリー	3
クランベリー	3
ハックルベリー	3
その他のベリー類果実 <sup>注14)</sup>	3

食品名	残留基準値 ppm
ぶどう	1
かき	0.3
アボカド	0.5
その他の果実 <sup>注15)</sup>	1
ひまわりの種子	2
ごまの種子	0.3
べにばなの種子	2
綿実	0.3
なたね	2
その他のオイルシード <sup>注16)</sup>	0.3
ぎんなん	0.02
くり	0.02
ペカン	0.02
アーモンド	0.02
くるみ	0.02
その他のナッツ類 <sup>注17)</sup>	0.02
茶	80
コーヒー豆	0.4
カカオ豆	0.08
ホップ	40
その他のスパイス <sup>注18)</sup>	90
その他のハーブ <sup>注19)</sup>	25
牛の筋肉	0.2
豚の筋肉	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物 <sup>注20)</sup> の筋肉	0.2
牛の脂肪	0.3
豚の脂肪	0.3
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.3
牛の肝臓	0.3
豚の肝臓	0.3
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3
牛の腎臓	0.2
豚の腎臓	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2
牛の食用部分 <sup>注21)</sup>	0.2
豚の食用部分	0.2
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2

食品名	残留基準値 ppm
乳	0.05
鶏の筋肉	0.02
その他の家きん <sup>注22)</sup> の筋肉	0.02
鶏の脂肪	0.08
その他の家きんの脂肪	0.08
鶏の肝臓	0.07
その他の家きんの肝臓	0.07
鶏の腎臓	0.07
その他の家きんの腎臓	0.07
鶏の食用部分	0.07
その他の家きんの食用部分	0.07
鶏の卵	0.2
その他の家きんの卵	0.2
魚介類	0.05
はちみつ	0.05

- 注1) 「その他の穀類」とは、穀類のうち、米（玄米をいう。）、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。
- 注2) 「小豆類」には、いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズ豆を含む。
- 注3) 「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。
- 注4) 「その他のいも類」とは、いも類のうち、ばれいしょ、さといも類（やつがしらを含む。）、かんしょ、やまいも（長いもをいう。）及びこんにゃくいも以外のものをいう。
- 注5) 「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類（ラディッシュを含む。）の根、だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
- 注6) 「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）及びハーブ以外のものをいう。
- 注7) 「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ（リーキを含む。）、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。
- 注8) 「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注9) 「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
- 注10) 「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり（ガーキンを含む。）、かぼちゃ（スカッシュを含む。）、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。
- 注11) 「その他のきのこ類」とは、きのこ類のうち、マッシュルーム及びしいたけ以外のものをいう。
- 注12) 「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しようが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
- 注13) 「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
- 注14) 「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブルックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。
- 注15) 「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず（アプリコットを含む。）、すもも（ブルーンを含む。）、うめ、おうとう（チェリーを含む。）、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイ、パパイヤ、アボカド、パインアップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。
- 注16) 「その他のオイルシード」とは、オイルシードのうち、ひまわりの種子、ごまの種子、べにばなの種子、綿実、なたね及びスパイス以外のものをいう。
- 注17) 「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。

注18) 「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）の果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

注19) 「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

注20) 「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

注21) 「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。

注22) 「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。

## クロラントラニリプロール

## 添付資料1

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼及び畜産物への基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

## 1. 概要

(1) 品目名：クロラントラニリプロール[ Chlorantraniliprole (ISO) ]

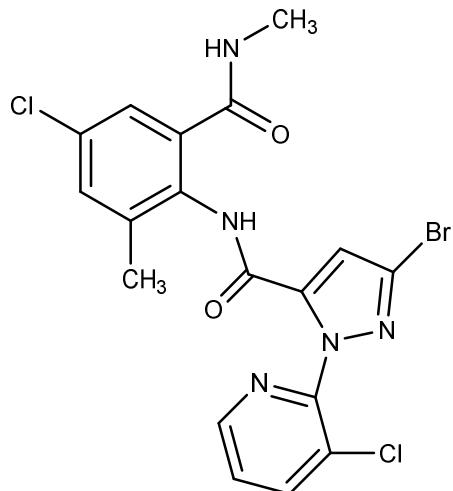
(2) 用途：殺虫剤

アントラニリックジアミド系殺虫剤である。昆虫の筋小胞体膜のカルシウムチャネル(リアノジン受容体)に作用してカルシウムイオンを放出させ、筋収縮を起こすことにより殺虫効果を示すと考えられている。

(3) 化学名及びCAS番号

3-Bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-(methylcarbamoyl)phenyl]-1-(3-chloropyridin-2-yl)-1H-pyrazole-5-carboxamide (IUPAC)  
1H-Pyrazole-5-carboxamide, 3-bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-[(methylamino)carbonyl]phenyl]-1-(3-chloro-2-pyridinyl)-  
(CAS : No. 500008-45-7)

(4) 構造式及び物性



分子式	C <sub>18</sub> H <sub>14</sub> BrCl <sub>2</sub> N <sub>5</sub> O <sub>2</sub>
分子量	483.14
水溶解度	1.023 mg/L (20°C)
分配係数	log <sub>10</sub> Pow = 2.76 (20°C)

## 2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名及び適用病害虫名となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

### (1) 国内での使用方法

#### ① 5.0%クロラントラニリプロールフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモシヨトウ ハイマダラノメイガ ネリジム類 カブラハバチ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ヘッド一ホット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5~4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	コナガ アオムシ ハスモシヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバミ類	500倍	苗地床 1 m <sup>2</sup> 当たり2 L				
	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモシヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバミ類 オオバコガ	2000倍	100~300 L/10 a	収穫前 日 まで	3回以内	散布	
はくさい	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ヘッド一ホット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5~4L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	3回以内
	コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモシヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ	2000倍	100~300 L/10 a		3回以内	散布	
かぶ	コナガ			収穫 前日 まで			3回以内
非結球あぶら な科葉菜類 (タサキを除く)					2回以内		2回以内

① 5.0%クロラントラニリプロールフロアブル(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釗 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数
タアサイ	コガ	2000倍	100～300 L/10 a	収穫 前日 まで	2回以内	散布	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)
	オオタバコガ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5～4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ～定植 当日	1回	灌注	
あすっこ	アオムシ					1回	
だいこん	コガ アオムシ ヨウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ ハモグリバエ類	2000倍	100～300 L/10 a	収穫 前日 まで	3回以内	散布	3回以内
はつか だいこん					1回		1回
カリフラワー	コガ アオムシ ハスモントウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5～4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ～定植 当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回以 内)
ブロッコリー	コガ アオムシ ハスモントウ ハイマダラノメイガ	2000倍	100～300 L/10 a	収穫 前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
はなっこりー	アオムシ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5～4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ～定植 当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以 内、散布は2回以 内)
		2000倍			2回以内	散布	

① 5.0%クロラントラニリプロールフロアブル (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釗 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数
レタス	ヨウムシ ハスモンヨウ オオタバコガ	2000倍	100~300 L/10 a	収穫 前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	ハモグリバエ類	1000~ 2000倍					
非結球 レタス	ヨウムシ ハスモンヨウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ホリムシ類 ヒメタテシヨコバイ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱又は ペーパーポット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5~4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回以 内)
	ヨウムシ ハスモンヨウ オオタバコガ ハモグリバエ類	2000倍	100~300 L/10 a	収穫 前日 まで	3回以内	散布	
トマト	ハモグリバエ類	1000~ 2000倍				4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)	
	オオタバコガ	2000倍					
ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	100倍	1株当たり25 mL	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、 散布は3回以内)
		200倍	1株当たり50 mL				
		100倍	1株当たり25 mL				
		200倍	1株当たり50 mL				
なす	ハスモンヨウ ハモグリバエ類 ホリムシ類	100倍	1株当たり25 mL	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	3回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は2回以内)
	ハモグリバエ類	200倍	1株当たり50 mL				
		1000~ 2000倍	100~300 L/10 a				
	ハスモンヨウ オオタバコガ	2000倍	2回以内		散布	3回以内	
とうがらし類		1000~ 2000倍					
ピーマン	ハスモンヨウ コナジラミ類	100倍	1株当たり25 mL	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以 内、 散布は2回以内)

① 5.0%クロラントラニリプロールフロアブル(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釗 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数
きゅうり	ハモグリバエ類	100～ 200倍	1株当たり25 mL	育苗期 後半 ～定植 当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
		200倍	1株当たり50 mL				
		1000～ 2000倍					
		2000倍					
ズッキニ	ハモグリバエ類	1000倍		収穫 前日 まで	3回以内	散布	3回以内
メロン すいか	オオバコガ ハモグリバエ類						
とうがん							
いちご	ハスモンヨトウ			2回以内	散布	2回以内	1回
パセリ							
せり科葉菜類 (パセリを除く)	ヨトウムシ			収穫 7日前 まで	1回	灌注	3回以内
らっきょう	ハモグリバエ類						
ねぎ	シロ仔モジヨトウ ズバコガ ハモグリバエ類				3回以内		
	ハモグリバエ類	100倍	セル成型育苗トレイ 箱又は ヘーベーポット1冊 (約30×60 cm、 使用土壤 約1.5～4 L) 当たり0.5 L	育苗期 後半 ～定植 当日	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)	
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシングイガ ウコンノメイガ	4000倍	100～300 L/10 a	収穫 3日前 まで	3回以内	散布	3回以内
だいだい				収穫7 日前ま で	2回以内	無人 ヘリコ ーター に よ る 散布	2回以内

① 5.0%クロラントラニリプロールフロアブル(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釗 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数
未成熟 そらまめ	ハモグリバエ類	1000～ 2000倍					
さやいんげん 実えんどう さやえんどう	ハスモンヨウ ハモグリバエ類						3回以内
アマランサス (茎葉)	シロヒメイガ						
なばな	アオムシ ハスモンヨウ						
やまのいも	ハスモンヨウ ナガハコガ						
かんしょ	ハスモンヨウ	2000～ 4000倍					
	ナガロシタバ	4000倍					
さといも アスパラガス ほうれんそう	ハスモンヨウ	100～300 L/10 a					
モロヘイヤ							
バジル しそ							
えごま(葉) ふき							
クレソン (土耕栽培)	コガ						
ごま	オオタバコガ						
とうもろ こし	アワノメイガ オオタバコガ						
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨウ						
しょうが	ハスモンヨウ						

② 10.0%クロラントラニリプロールフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 キンモンホソガ キンモンハモグリガ ヒメボクトウ ヨモギエダシャク	2500～5000 倍 5000 倍	200～700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
なし	ケムシ類 シクイムシ類 ハマキムシ類 ヒメボクトウ	2500～5000 倍 5000 倍					
かき	ハマキムシ類 ケムシ類 ヒロヘリアオイラガ カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ フタモンマダラメイガ	5000 倍					
ぶどう	ハマキムシ類 ケムシ類 モンキクロノメイガ クビアカスカシバ	5000 倍					
おうとう	ハマキムシ類 ケムシ類 オウトウショウジヨウバエ コスカシバ	2500～5000 倍 2500 倍 5000 倍					
うめ	ケムシ類 ハマキムシ類 ノコメトガリキリガ	2500～5000 倍 2500 倍 5000 倍		収穫 14 日 前まで			
すもも	シクイムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類	2500 倍 2500～5000 倍 2500 倍		収穫 3 日 前まで			
あんず							
もも	シクイムシ類 ハマキムシ類	5000 倍		収穫前日 まで	2 回 以内		2 回以内
ネクタリン	モモハモグリガ			収穫 3 日 前まで			

② 10.0%クロラントラニリプロールフルアブル (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
さとう きび	イネトウ	5000 倍	100～300 L/10 a	収穫 30 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内(粒剤 は 1 回以内、 水和剤は 3 回 以内)
茶	チャノカクモンハマキ チャハマキ ヨモギエダシャク	2000 倍	200～400 L/10 a	摘採 3 日 前まで	1 回	散布	1 回
	チャノホリカ	2000～ 4000 倍					
	ハスモシトウ	4000 倍					

③ 1.0%クロラントラニリプロール粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	コブノメイカ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約5 L) 1箱当たり 50 g	移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する	1回

④ 0.75%クロラントラニリプロール粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	ツマグロヨコハマ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g	移植 当日	1 回	育苗箱の上 から均一に 散布する	1 回
	ニカメイカ コブノメイカ フタオビコヤカ イネツムシ イネトモイムシ イネミズヅウムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種時 覆土前 ～移植 当日		育苗箱の 床土に均 一に混和 する	
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種前			

⑤ 0.50%クロラントラニリプロール粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ ハイマダラノメイガ アオムシ	セル成型育苗トレイ1箱 又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポット1冊(約30×60 cm、 使用土壤約1.5~4 L)当たり50 g	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	本剤の所定量 をセル成型育苗 トレイ又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポットの上から 均一に散布する	4回以内 (定植時まで の処理は1回 以内、散布は 3回以内)
		1 g/株	育苗期 後半~ 定植時		株元散布	
はくさい ブロッコリー	コガ ハイマダラノメイガ アオムシ	セル成型育苗トレイ1箱 又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポット1冊(約30×60 cm、 使用土壤約1.5~4 L)当たり50 g	育苗期 後半~ 定植当 日	1回	本剤の所定量 をセル成型育苗 トレイ又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポットの上から 均一に散布する	4回以内 (定植時まで の処理は1回 以内、散布は 3回以内)
		1 g/株	育苗期 後半~ 定植時		株元散布	
レタス	ナモグリバエ オオタバコガ	セル成型育苗トレイ1箱 又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポット1冊(約30×60 cm、 使用土壤約1.5~4 L)当たり50 g	育苗期 後半 ~定植 当日	1回	本剤の所定量 をセル成型育苗 トレイ又は <sup>°</sup> - <sup>°</sup> - <sup>°</sup> ポットの上から 均一に散布する	4回以内 (定植時まで の処理は1回 以内、散布は 3回以内)
		1 g/株	育苗期 後半~ 定植時		株元散布	
トマト	ネリムシ類					
きゅうり	ハモグリバエ類					
なす	ネリムシ類 ハモグリバエ類					
さとう きび	メチュウ類	4~6 kg/10 a	植付時	1回	植溝土壤混和	4回以内 (粒剤は1回 以内、水和剤 は3回以内)
			生育期 ただし 最終培土まで		株元散布	

⑥ 25.0%クロラントラニリプロール・12.5%アミスルプロム顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	希釀倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数			
稻 (箱育苗)	イホト <sup>イホト</sup> ・オイシ <sup>オイシ</sup> イホミズ <sup>イホミズ</sup> ・ゾウムシ <sup>ゾウムシ</sup>	500 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 500 ml	は種時～出芽時 ただし、移植 15 日前まで	1 回	土壤灌注	1 回			
		1000 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 1 L							
	フタオヒ <sup>フタオヒ</sup> ・コヤカ <sup>コヤカ</sup> ニカメ <sup>ニカメ</sup> ・イヌ <sup>イヌ</sup>	500 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 500 ml	は種時						
		1000 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 1 L							

作物名	使用目的	希釀倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	ムレ苗防止	500 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 500 ml	は種時～出芽時 ただし、移植 15 日前まで	1 回	土壤灌注	1 回
		1000 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり希釀液 1 L				

⑦ 8.7%クロラントラニリプロール・17.5%チアメトキサムフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 アオムシ ハイマダラメイガ ネズアザミウマ ハスモンヨトウ コガ ネリムシ類 ヨトウムシ	1000 倍	苗地床 1 m <sup>2</sup> 当たり 2 L	播種時～育苗期後半	1 回	灌注	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類 ネズアザミウマ コガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラメイガ	200 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱又はペーパーポット 1 冊(約 30×60 cm、使用土壤約 1.5～4 L)当たり 0.5 L	育苗期後半～定植当日			
	アオムシ コガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 ハイマダラメイガ オオタバコガ	4000 倍	100～300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	
はくさい	アブラムシ類 コガ ハイマダラメイガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ キスジノミハムシ カブラハバチ	200 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱又はペーパーポット 1 冊(約 30×60 cm、使用土壤約 1.5～4 L)当たり 0.5 L	育苗期後半～定植当日	1 回	灌注	3 回以内
	コガ ヨトウムシ ハイマダラメイガ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	4000 倍	100～300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	
ブロッコリー	アブラムシ類 ネズアザミウマ コガ アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラメイガ	200 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱又はペーパーポット 1 冊(約 30×60 cm、使用土壤約 1.5～4 L)当たり 0.5 L	育苗期後半～定植当日	1 回	灌注	

⑦ 8.7%クロラントラニリプロール・17.5%チアメトキサムフロアブル（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
レタス	アブラムシ類 カブトガニ ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ナモグリバエ ヒメタテンヨコバエ	200倍	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーボット1冊(約30×60cm、使用土壤約1.5~4L)当たり0.5L	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)
非結球レタス		200倍					
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タマネギバエ タネバエ ネギリムシ類	200倍					4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)
なばな	アブラムシ類 ハスモンヨトウ コナガ アオムシ	200倍					

⑧ 5.0%クロラントラニリプロール・2.0%エマメクチン安息香酸顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数		
キャベツ	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラメイガ タマネギンウワバ	2000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)		
はくさい	コナガ ヨトウムシ ハイマダラメイガ								
ブロッコリー	コナガ アオムシ ヨトウムシ								
レタス	オオタバコガ ナモグリバエ			収穫3日前まで	2回以内		4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)		
非結球レタス									
ねぎ	シロ仔モジヨトウ ネギハモグリバエ			収穫7日前まで	3回以内				

⑧ 5.0%クロラントラニリプロール・2.0%エマメクチン安息香酸顆粒水和剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
きゅうり	ウリノメイガ トマトハモグリバエ	2000倍	100～300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)
かんしょ	ハスモンヨトウ			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
だいこん	アオムシ コナガ			収穫前日まで	2回以内		3回以内
メロン	トマトハモグリバエ			収穫前日まで	2回以内		3回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は2回以内)
なす	ハスモンヨトウ						

⑨ 4.0%クロラントラニリプロール・15.0%ジノテフラン顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラメイガ アサミウマ類						
はくさい	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダラメイガ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーホット1冊(30×60 cm・使用土壤約1.5～4.0 L)当たり0.5 L	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内(定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)
ブロッコリー	コナガ アオムシ						
レタス	アブラムシ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ カブリヤガ ナモグリバエ						

⑨ 4.0%クロラントラニリプロール・15.0%ジノテフラン顆粒水和剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釀倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
非結球レタス	アブラムシ類 ハスモンヨトウ オオタバコガ カブテヤガ ナモグリバエ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊(30×60 cm・使用土壤約1.5～4.0 L)当たり0.5 L	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内(灌注は1回以内、散布は3回以内)
ねぎ	ハモグリバエ類 アサミウマ類 シロイモモヨトウ						

⑩ 1.5%クロラントラニリプロール・48.0%プロベナゾール顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 イヌコロイムシ イヌミズツヅウムシ	500 g/10 a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	1回

⑪ 0.75%クロラントラニリプロール・24.0%プロベナゾール粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 イヌミズツヅウムシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	いもち病 イヌコロイムシ		移植時		側条施用	
稻 (箱育苗)	コブノメイガ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。	
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 イヌコロイムシ		移植3日前～移植当日			

⑪ 0.75%クロラントラニリプロール・24.0%プロベナゾール粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イホトヨイムシ イホビズゾウムシ ニカメイチュウ イヌツムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	緑化期～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回

(2) 海外での使用方法

① 18.4%クロラントラニリプロールフロアブル (米国)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
アーティチョーク	0.045-0.098 1b ai/A	4回以内	0.2 lbs ai/A	収穫3日前まで	散布
アスパラガス	0.045-0.065 1b ai/A			収穫前日まで	
鱗茎野菜類	0.045-0.065 1b ai/A	4回以内 (滴下処理は2回以内、ただし既に植付時土壤処理を行っている場合は1回以内)		収穫3日前まで	植付時土壤処理
あぶらな属野菜	0.045-0.098 1b ai/A				
穀類 (とうもろこし及び稻を除く)	0.045-0.065 1b ai/A	4回以内	0.2 lbs ai/A	収穫14日前まで	滴下処理
とうもろこし				収穫前日まで	
綿実	0.045-0.098 1b ai/A			収穫21日前まで	
うり科野菜	0.026-0.09 1b ai/A	4回以内 (滴下処理は2回以内、ただし既に植付時土壤処理を行っている場合は1回以内)	0.2 lbs ai/A	収穫前日まで	植付時土壤処理
	0.045-0.098 1b ai/A				滴下処理
	0.026-0.098 1b ai/A				散布
果菜類	0.045-0.098 1b ai/A	4回以内 (滴下処理は2回以内、ただし既に植付時土壤処理を行っている場合は1回以内)	0.2 lbs ai/A	収穫前日まで	植付時土壤処理
					滴下処理
					散布
葉菜類 (あぶらな属野菜を除く)	0.045-0.098 1b ai/A				植付時土壤処理
					滴下処理
					散布

① 18.4%クロラントラニリプロールフルアブル (米国) (つづき)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
ハーブ類	0.045-0.065 1b ai /A	4回以内	0.2 1b ai/A	収穫当日まで	散布
ホップ				収穫前日まで	
豆類 (大豆を除く)				収穫 3日前まで	
シト				収穫前日まで	
らっかせい				収穫 14日前まで	
ばれいしょ				収穫 21日前まで	
オイルシード				収穫前日まで	
スパイス類				収穫 14日前まで	
いちご				収穫前日まで	
だいす				収穫 14日前まで	
さとうきび				収穫前日まで	
根菜類				収穫前日まで	

ai : active ingredient(有効成分)

② 35%クロラントラニリプロール顆粒水和剤 (米国)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法	
バナナ	0.066-0.099 1b ai /A	3回以内	0.2 1b ai /A	収穫前日まで	散布	
ベリー類				収穫前日まで (caneberryは収穫 3日前まで)		
つる性果実類				収穫前日まで		
かんきつ類				収穫 7日前まで		
コーヒー豆				収穫前日まで		
いちじく				収穫 14日前まで		
ぶどう	0.044-0.099 1b ai /A	4回以内		収穫前日まで		
オリーブ	収穫 5日前まで (mayhawは収穫 14日前まで)					
かき	収穫前日まで					
仁果類	0.055-0.099 1b ai /A	4回以内		収穫前日まで		
ざくろ	0.066-0.099 1b ai /A	3回以内		収穫 10日前まで		
核果類				収穫前日まで		
ナツツ類	0.044-0.099 1b ai /A	4回以内		収穫前日まで		

② 35%クロラントラニリプロール顆粒水和剤 (米国) (つづき)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
トロピカルフルーツ	0.066-0.099 1b ai /A	3回以内	0.2 1b ai /A	収穫前日まで (ただし、アセロラ、ジャボチカバ、ラズベリー、パッションフルーツは収穫 10 日前まで)	散布

③ 18.4%クロラントラニリプロールフロアブル (EU)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
なす	85 g ai/ha	3回以内	255 g ai/ha	収穫 2 日前まで	散布
キャベツ	55~70 g/ha		210 g ai/ha		
ブロッコリー					
きゅうり					
ズッキーニ					
レタス					
メロン			255 g ai/ha		
ヒーマン	70~85 g/ha				
トマト	85 g/ha				

④ 35%クロラントラニリプロール顆粒水和剤 (豪州)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	使用時期	使用方法
ひよこ豆	31.5 g ai/ha	2回以内	収穫 14 日前まで	散布
緑豆				
だいす				

⑤ 35%クロラントラニリプロール顆粒水和剤 (ニュージーランド)

作物名	1回当たりの使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
アボカド	3.15 g ai/100 L	2回以内	270 g ai/ha	収穫 14 日前まで	散布

3. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・クロラントラニリプロール

② 分析法の概要

【国内】

試料からアセトニトリル・水(4:1)混液で抽出、又はアセトンで抽出し、酢酸エチルに転溶する。SAX カラム及びスチレンジビニルベンゼン共重合体カラム、スチレンジビニルベンゼン共重合体・C<sub>18</sub>連結カラム又はフロリジルカラム及びPSA カラムを用いて精製し、液体クロマトグラフ・質量分析計(LC-MS)又は液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計(LC-MS/MS)で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、凝固法、フロリジルカラム及びPSA カラムを用いて精製した後、LC-MS で定量する。

または、試料に水を加え、アセトニトリルで抽出し、SAX・HLB 連結カラムを用いて精製した後、LC-MS/MS で定量する。

あるいは、試料からアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、グラファイトカーボンカラム、フロリジルカラム、PSA カラム、スチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及び C<sub>18</sub> カラムを用いて精製し、紫外分光光度型検出器付き高速液体クロマトグラフ(HPLC-UV)で定量する。

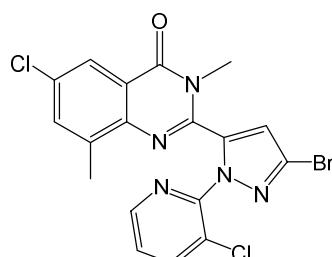
定量限界 0.01 ppm

#### 【海外】

試料に水を加え、アセトニトリル及びヘキサンで抽出し、アセトニトリル層を探る。HLB カラムを用いて精製し、LC-MS/MS で定量する。

または、試料に水を加え、アセトニトリルで抽出する。SAXカラム及びHLBカラムを用いて精製した後、加熱してクロラントラニリプロールを2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ヒドロジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-3,8-ジメチル-4(3H)-キナゾリノン(以下、代謝物0という)に変換し、電子捕獲型検出器付きガスクロマトグラフ(GC-ECD)で定量する。

定量限界 0.01 ppm



#### (2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-2～1-4 を参照。

#### 4. 魚介類への推定残留濃度

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup>及び生物濃縮係数(BCF:Bioconcentration Factor)から、以下のとおり魚介類中の推定残留濃度を算出した。

### (1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場面においても使用されることから、水田 PECTier2<sup>注2)</sup>及び非水田 PECTier1<sup>注3)</sup>について算出したところ、水田 PECTier2 は 0.19 µg/L、非水田 PECTier1 は 0.0044 µg/L となったことから、水田 PECTier2 の 0.19 µg/L を採用した。

### (2) 生物濃縮係数

本剤はオクタノール/水分配係数( $\log_{10}\text{Pow}$ )が 2.76 であり、魚類濃縮性試験が実施されていないことから、BCF については実測値が得られていない。このため、 $\log_{10}\text{Pow}$  から、回帰式( $\log_{10}\text{BCF} = 0.80 \times \log_{10}\text{Pow} - 0.52$ )を用いて 48.8 L/kg と算出された。

### (3) 推定残留濃度

(1) 及び (2) の結果から、クロラントラニリプロールの水産動植物被害予測濃度 : 0.19 µg/L、BCF : 48.8 L/kg とし、下記のとおり推定残留濃度が算出された。

$$\text{推定残留濃度} = 0.19 \mu\text{g/L} \times (48.8 \text{ L/kg} \times 5) = 0.04636 \text{ mg/kg} \doteq 0.05 \text{ mg/kg}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止にかかる農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壤・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

(参考) : 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

## 5. 畜産物への推定残留濃度

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、農林水産省から畜産物に関する個別の残留基準の設定について要請されている。

このため、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留濃度を算出した。

### (1) 分析の概要

#### ① 分析対象の化合物

- ・クロラントラニリプロール
- ・3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-[(ヒドロキシメチル)アミノ]カルボニル]-6-メチルフェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド  
(以下、代謝物Cという)
- ・3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド  
(以下、代謝物Dという)
- ・2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-(ヒドロキシメチル)-4(3H)-キナゾリノン  
(以下、代謝物Eという)
- ・3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(ヒドロキシメチル)アミノ]

カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1*H*-ピラゾール-5-カルボキサミド

(以下、代謝物Gという)

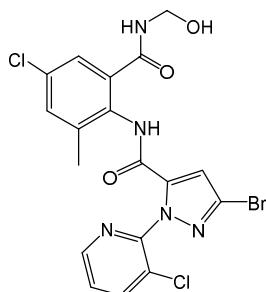
・*N*-[2-(アミノカルボニル)-4-クロロ-6-メチルフェニル]-3-プロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1*H*-ピラゾール-5-カルボキサミド

(以下、代謝物Mという)

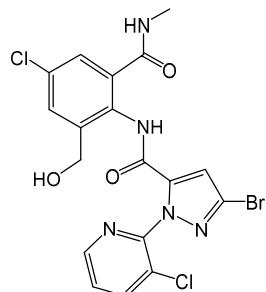
・2-[3-プロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1*H*-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-メチル-4(3*H*)-キナゾリノン

(以下、代謝物Nという)

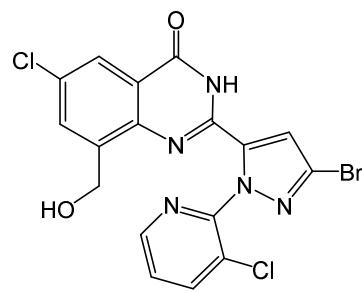
・代謝物O



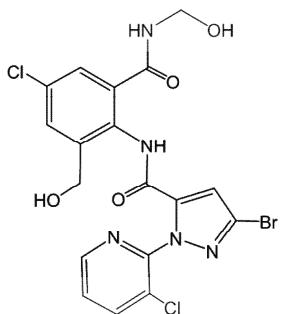
代謝物C



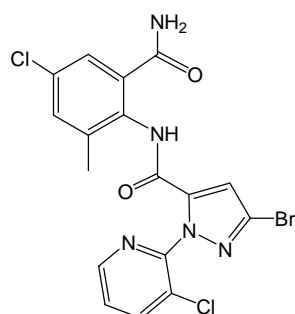
代謝物D



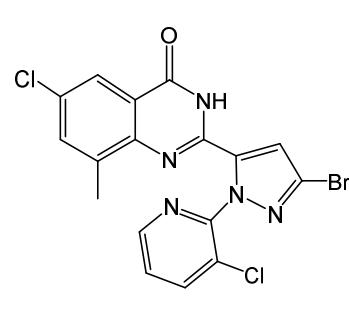
代謝物E



代謝物G



代謝物M



代謝物N

## ② 分析法の概要

試料からアセトニトリル・水・ヘキサン(4:1:2)混液で抽出し、SAX カラム又はHLB カラムを用いて精製した後、LC-MS/MS で定量する。

牛の試料ではクロラントラニリプロール、代謝物 D、G、N 及び O、鶏の試料ではクロラントラニリプロール、代謝物 C、E、M、N 及び O を分析した。

定量限界：0.01 ppm

## (2) 家畜残留試験 (動物飼養試験)

## ① 乳牛における残留試験

乳牛（3頭/群）に対して、飼料中濃度として1、3、10及び50 ppmに相当する量のクロラントラニリプロールを含有するゼラチンカプセルを28日間にわたり摂食させ、最終投与1日後の筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるクロラントラニリプロール及び代謝物濃度を測定した（検出限界：筋肉：0.003 ppm、脂肪：0.004 ppm、肝臓：0.005 ppm、腎臓：0.003 ppm）。また、乳については、乳を最終投与の1、3、5、7、10、14、21及び28日後に搾乳し、14及び21日後に採取した乳よりスキムミルク及びクリーム試料を調製し、クロラントラニリプロール及び代謝物濃度を測定した（検出限界：0.003 ppm）。結果については表1を参照。ほとんどの試料からは代謝物N及び代謝物Oは検出されなかった。

表1. 組織中のクロラントラニリプロール及び代謝物の残留濃度 (mg/kg)

		1 ppm 投与群	3 ppm 投与群	10 ppm 投与群	50 ppm 投与群
筋肉	クロラントラニリプロール	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.029 (0.021)
	代謝物 D	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.012 (0.011)
	代謝物 G	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
脂肪	クロラントラニリプロール	<0.01 (<0.01)	0.015 0.012	0.036 0.029	0.156 0.138
	代謝物 D	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.020 (0.013)
	代謝物 G	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
肝臓	クロラントラニリプロール	<0.01 (<0.01)	0.014 0.011	0.035 0.029	0.133 0.127
	代謝物 D	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.019 (0.017)	0.050 0.045
	代謝物 G	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
腎臓	クロラントラニリプロール	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.035 0.022	0.081 0.068
	代謝物 D	<0.01 (<0.01)	不明 0.005	0.011 0.010	0.042 0.039
	代謝物 G	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.014 0.012
乳 <sup>注)</sup>	クロラントラニリプロール	<0.01	<0.01	<0.01	0.022
	代謝物 D	<0.01	<0.01	0.012	0.035
	代謝物 G	<0.01	<0.01	<0.01	0.012
スキムミルク <sup>注)</sup>	クロラントラニリプロール	<0.01	<0.01	<0.01	0.016
	代謝物 D	<0.01	<0.01	0.013	0.028
	代謝物 G	<0.01	<0.01	<0.01	0.012

表1. 組織中のクロラントラニリプロール及び代謝物の残留濃度 (mg/kg) (つづき)

		1 ppm 投与群	3 ppm 投与群	10 ppm 投与群	50 ppm 投与群
クリーム <sup>注)</sup>	クロラントラニリプロール	<0.01	0.013	0.026	0.108
	代謝物 D	<0.01	<0.01	0.08	0.275
	代謝物 G	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

上段：最大残留濃度 下段：平均的な残留濃度

注)乳、スキムミルク及びクリームは平均的な残留濃度

## ② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏 (10 羽/群) に対して、飼料中濃度として 3、9 及び 30 ppm に相当する量のクロラントラニリプロールを含有するゼラチンカプセルを 28 日間にわたり摂食させた後、筋肉、肝臓並びに皮膚及び脂肪に含まれるクロラントラニリプロール及び代謝物濃度を測定した。また、鶏卵については、投与期間中毎日採卵し、3~6 日毎にクロラントラニリプロール及び代謝物濃度を測定した (定量限界 : 0.01 ppm)。結果については表 2 を参照。

表2. 組織中のクロラントラニリプロール及び代謝物の残留濃度 (mg/kg)

投与量		3 ppm 投与群	9 ppm 投与群	30 ppm 投与群
摂餌量を考慮した投与量		4.8 ppm	18.8 ppm	51.9 ppm
筋肉	クロラントラニリプロール	0.016 (0.011)	0.036 (0.027)	0.054 (0.049)
	代謝物 C	0.014 (0.010)	0.033 (0.028)	0.610 (0.052)
	代謝物 M	0.018 (0.013)	0.032 (0.031)	0.075 (0.064)
	代謝物 E	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
	代謝物 N	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
	代謝物 O	ND	ND	ND
肝臓	クロラントラニリプロール	0.054 (0.038)	0.122 (0.092)	0.178 (0.147)
	代謝物 C	0.060 (0.042)	0.132 (0.113)	0.222 (0.199)
	代謝物 M	0.082 (0.062)	0.194 (0.153)	0.372 (0.286)
	代謝物 E	0.026 (0.021)	0.065 (0.060)	0.200 (0.159)
	代謝物 N	<0.010 (<0.010)	0.019 (0.018)	0.035 (0.031)
	代謝物 O	ND	ND	ND

表2. 組織中のクロラントラニリプロール及び代謝物の残留濃度 (mg/kg) (つづき)

投与量	3 ppm 投与群	9 ppm 投与群	30 ppm 投与群	
摂餌量を考慮した投与量	4.8 ppm	18.8 ppm	51.9 ppm	
皮膚及び脂肪	クロラントラニリプロール	0.066 (0.043)	0.141 (0.095)	0.212 (0.168)
	代謝物 C	0.032 (0.019)	0.089 (0.068)	0.101 (0.092)
	代謝物 M	0.072 (0.046)	0.116 (0.103)	0.236 (0.204)
	代謝物 E	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
	代謝物 N	ND	<0.01 (<0.010)	0.018 (0.163)
	代謝物 O	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
鶏卵	クロラントラニリプロール	0.162 (0.112)	0.512 (0.185)	0.680 (0.397)
	代謝物 C	0.077 (0.057)	0.220 (0.106)	0.490 (0.243)
	代謝物 M	0.071 (0.053)	0.193 (0.105)	0.365 (0.215)
	代謝物 E	0.015 (0.010)	0.033 (0.023)	0.077 (0.050)
	代謝物 N	0.069 (0.051)	0.183 (0.100)	0.375 (0.222)
	代謝物 O	0.028 (0.016)	0.073 (0.029)	0.100 (0.060)

ND : 検出限界 (0.003 ppm) 未満

上段 : 最大残留濃度 下段 : 平均的な残留濃度

JMPRは肉牛及び乳牛におけるMDB<sup>注1)</sup>をそれぞれ36 ppm 及び30 ppmと評価している。また、STMR dietary burdenをそれぞれ18 ppm及び17 ppmと評価している。また、家きんでは、産卵鶏及び肉用鶏においてMDBとSTMR dietary burdenをそれぞれ4.8 ppm及び1.454 ppm、3.6 ppm及び0.869 ppmと評価している。

日本では肉牛及び乳牛におけるMDBをそれぞれ17.17 ppm 及び5.97 ppmと評価している。また、家きんでは、産卵鶏及び肉用鶏においてMDBとSTMR dietary burdenを1.38 ppm及び1.90 ppmと評価している。

注1)最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Dietary Burden : MDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

注2)平均飼料負荷 (STMR dietary burden又はmean dietary burden) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が平均的に残留していると仮定した場合に(作物残留試験から得られた残留濃度の中央値を試算に用いる)、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

### (3) 推定残留濃度

乳牛、肉牛及び産卵鶏について、JMPR の MDB 及び STMR dietary burden と各試験にお

ける投与量から、畜産物中の推定最大残留濃度を算出した。結果については表 4-1 及び 4-2 を参照。

表 4-1. 畜産物中の推定残留濃度；牛 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
乳牛	0.019 (0.0091)	0.098 (0.048)	0.083 (0.026)	0.058 (0.030)	0.013 (0.008)
肉牛	0.022 (0.0094)	0.117 (0.051)	0.097 (0.028)	0.065 (0.031)	

上段：最大残留濃度 下段：平均的な残留濃度

表 4-2. 畜産物中の推定残留濃度；鶏 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	卵
肉用鶏	0.005 (0.002)	0.02 (0.008)	0.016 (0.007)	—	
産卵鶏	0.016 (0.008)	0.066 (0.032)	0.054 (0.029)	—	0.162 (0.08)

—：分析せず。

上段：最大残留濃度 下段：平均的な残留濃度

## 6. ADI 及び ARfD の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたクロラントラニリプロールに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

### (1) ADI

無毒性量：158 mg/kg 体重/day (発がん性は認められなかった。)  
 (動物種) 雄マウス  
 (投与方法) 混餌  
 (試験の種類) 発がん性試験  
 (期間) 18 か月間

安全係数：100

ADI：1.5 mg/kg 体重/day

### (2) ARfD 設定の必要なし

クロラントラニリプロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったため、急性参考用量(ARfD)は設定する必要がないと判断した。

## 7. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価が行われ、2008 年に ADI が設定され、ARfD は設定の必要なしとされている。国際基準は穀類、葉菜類等に設定されている。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてりんご、びわ等に、カナダにおいてりんご、あんず等に、EU においてりんご、ナツツ類等に、豪州においてぶどう、レタス等に、ニュージーランドにおいてアボカド、ばれいしょ

等に基準値が設定されている。

## 8. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

クロラントラニリプロールとする。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてクロラントラニリプロール(親化合物のみ)を設定している。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

### (3) 暴露評価

1日当たり摂取する農薬等の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	TMDI／ADI(%) <sup>注)</sup>
一般(1歳以上)	5.0
幼小児(1～6歳)	9.6
妊婦	4.9
高齢者(65歳以上)	5.5

注) 各食品の平均摂取量は、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

TMDI 試算は、基準値案×各食品の平均摂取量の総和として計算した。

(別紙1-1)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注1)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	2	1.0% 粒剤	50 g/箱 育苗箱処理	1	119	圃場A: <0.01
					137	圃場B: <0.01
未成熟とうもろこし (子実)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A: <0.01
						圃場B: <0.01
とうもろこし (乾燥子実)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 191~200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A: <0.01
						圃場B: <0.01
だいこん (乾燥子実)	2	5.0% フロアブル	4000倍 散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A: 0.03 (3回, 7日) (#) <small>注2)</small>
						圃場B: <0.01 (3回, 7日) (#)
さといも (塊茎)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 166, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
かんしょ (塊根)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 180, 175 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
やまのいも (塊茎)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 195, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
さとうきび	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 222, 243 L/10 a	3	30, 45, 60	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
(茎)	2	0.50%粒剤+ 10.0%フロアブル	6kg株元 散布+ 5000倍散布 278, 200 L/10 a	1+3	30, 45, 60	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
だいこん (葉部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 15 1, 3, 7, 14	圃場A: 1.78 圃場B: 1.29
だいこん (根部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 15 1, 3, 7, 14	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
はつかだいこん (茎部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	1	1, 3, 7	圃場A: 6.62 (1回, 3日) 圃場B: 6.50
はつかだいこん (根部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	1	1, 3, 7	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
かぶ (葉部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A: 3.21 圃場B: 3.36
かぶ (根部)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.02 (3回, 14日) 圃場B: 0.03
クレソン (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍散布 200 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A: 3.08 圃場B: 1.22
キャベツ (葉球)	4	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 200, 250~300, 202 L/10 a	1+3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A: 0.12 (4回, 7日) 圃場B: 0.12 (4回, 3日) 圃場C: 0.04 圃場D: 0.76
はくさい (茎葉)	4	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 200, 300 L/10 a	1+3	3, 7, 14, 21 1, 3, 7, 14	圃場A: 0.26 (4回, 3日) 圃場B: 0.46 (4回, 3日) 圃場C: 0.36 圃場D: 0.10 (4回, 3日)
2	0.50%粒剤 +5.0%フロアブル	1 g/株 植穴処理+ 2000倍 散布 231, 281 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.32 (4回, 3日) 圃場B: 0.36	
2	0.50%粒剤 +5.0%フロアブル	1 g/株 植穴処理 2000倍 散布 278~292, 250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.29 圃場B: 2.00	
こまつな (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 150, 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A: 3.18 圃場B: 1.29
みずな (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A: 5.76 圃場B: 1.02
チンゲンサイ (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 180, 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A: 0.54 圃場B: 1.80
プロッコリー (花蕾)	2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 200, 70~150 L/10 a	1+3	3, 7, 14, 21	圃場A: 0.20 (4回, 3日) 圃場B: 0.10 (4回, 3日) (#)
2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +1000倍 散布 250, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.65 (4回, 1日) (#) 圃場B: 0.37 (4回, 1日) (#)	
2	0.50%粒剤 +5.0%フロアブル	1 g/株 植穴処理 +2000倍 散布 273, 160~250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.30 圃場B: 0.30	

(別紙1-1)  
クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
カリフラワー (花蕾)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300, 210 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.26 (3回, 3日) 圃場B : <0.01
	2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 267, 250, 271 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.22 圃場B : 0.18
はなっこりー (茎葉)	2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 300 L/10 a	1+2	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.54 圃場B : 0.52
	2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 200 L/10 a	1+2	1, 3, 7, 14	圃場A : 2.73 圃場B : 2.70
タアサイ (茎葉)	2	5.0% フロアブル	100倍500 mL/セルトイ灌 注 +1000倍 散布 200 L/10 a	1+3	3, 7, 14, 21	圃場A : 3.00 (4回, 7日) 圃場B : 0.60 (4回, 3日)
	2		100倍500 mL/セルトイ灌 注 +1000倍 散布 223, 250~300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.26 圃場B : 0.80
	2	0.50%粒剤 +5.0%フロアブル	1 g/株 植穴処理 +1000倍 散布 250~258, 278~279 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.94 (4回, 3日) 圃場B : 1.28
リーフレタス (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 1.83 圃場B : 6.70
	2		100倍500 mL/セルトイ灌 注 +1000倍 散布 150, 193.3 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 6.98 圃場B : 8.46
サラダ菜 (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 2.40 (2回, 3日) 圃場B : 2.31
	2		100倍500m L/セルトイ灌 注 +1000倍 散布 193.3, 200 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 5.82 圃場B : 8.63
ふき (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A : 0.19 圃場B : 0.29
ねぎ (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.21 圃場B : 0.66
	2		100倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍散布 192, 180 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.09 圃場B : 0.26
アスパラガス (若茎)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.02 圃場B : 0.02
バセリ (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200, 397 L/10 a	1	1, 7, 14, 21	圃場A : 5.62 圃場B : 6.10 (#)
コリアンダー (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 176, 183 L/10 a	1	3, 7, 14	圃場A : 1.98 圃場B : 1.18
トマト (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +1000倍 散布 200 L/10 a	1+3	1, 7, 14	圃場A : 0.04 (4回, 7日) 圃場B : 0.19
ミニトマト (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +2000倍 散布 250 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.12 (4回, 3日) 圃場B : 0.07
ピーマン (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +1000倍 散布 200, 250 L/10 a	1+2	1, 7, 14	圃場A : 0.22 圃場B : 0.38
なす (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +1000倍 散布 200 L/10 a	1+2	1, 7, 14	圃場A : 0.06 圃場B : 0.26
しじとう (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +1000倍 散布 281, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.12 (4回, 1日) (#) 圃場B : 2.50 (4回, 1日) (#)
甘長とうがらし (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホット灌注 +1000倍 散布 180, 300 L/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A : 1.04 (4回, 1日) (#) 圃場B : 1.26 (4回, 1日) (#)

(別紙1-1)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注1)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
きゅうり (果実)	2	5.0% フロアブル	100倍25 mL/ホ <sup>°</sup> ト灌注 +1000倍 散布 200, 300 L/10 a	1+3	1, 7, 14	圃場A : 0.05
						圃場B : 0.07
すいか (果肉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01
						圃場B : <0.01
すいか (果皮)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.33
						圃場B : 0.14
メロン (果肉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200, 250~251 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : <0.01
						圃場B : <0.01
メロン (果皮)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200, 250~251 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.54 (3回, 3日)
						圃場B : 0.48 (3回, 3日)
とうがん (果実)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : <0.01
						圃場B : <0.01
ほうれんそう (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 152.4, 182.65~182.86 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 4.10 (3回, 14日)
						圃場B : 4.66
オクラ (果実)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 280, 225~275 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.15
						圃場B : 0.27
しょうが (根茎)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 166, 178~180 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.01 (3回, 7日)
						圃場B : <0.01
さやえんどう (さや)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200, 181 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.26
						圃場B : 0.13
さやいんげん (さや)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 168~194, 183 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 0.19
						圃場B : 0.14 (3回, 7日)
えだまめ (さや)	2	5.0% フロアブル	4000倍 散布 150~200, 200 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.14
						圃場B : 0.32
未成熟そらまめ (さや)	2	5.0% フロアブル	1000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.04
						圃場B : <0.01
ごま (種子)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A : 0.04
						圃場B : 0.03
モロヘイヤ (茎葉)	3	5.0% フロアブル	2000倍 散布 480, 420, 750 L/10 a	2	1, 3, 7, 14	圃場A : 14.4 (2回, 1日) (#)
					1, 3, 7	圃場B : 8.32 (2回, 1日) (#)
						圃場C : 7.26 (2回, 1日) (#)
えごま (葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 6.80
						圃場B : 13.6
りんご (果実)	4	10.0% フロアブル	2500倍 散布 600, 500, 500, 450 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.31 (3回, 3日)
					1, 3, 7, 14	圃場B : 0.10 (3回, 3日)
						圃場C : 0.37
なし (果実)	4	10.0% フロアブル	2500倍 散布 400, 700, 500 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.16 (3回, 3日)
					1, 3, 7, 14	圃場B : 0.18 (3回, 3日)
						圃場C : 0.33
もも (果肉)	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 400, 500 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.02 (2回, 3日)
					1, 3, 7, 14	圃場B : <0.01 (2回, 3日)
						圃場A : <0.01
もも (果皮)	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 360, 400 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 1.67 (2回, 3日)
					1, 3, 7, 14	圃場B : 0.70 (2回, 3日)
						圃場A : 1.42
ネクタリン (果実)	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 400 L/10 a	2	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.11
あんず (果実)	2	10.0% フロアブル	2500倍 散布 625, 400 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.62
すもも (果実)	2	10.0% フロアブル	2500倍 散布 500 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場B : 0.32 (3回, 14日)
うめ (果実)	2	10.0% フロアブル	2500倍 散布 313, 400 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.04 (3回, 14日)
おうとう (果実)	4	10.0% フロアブル	2500倍 散布 700, 500, 417, 450 L/10 a	3	3, 7, 14, 21	圃場A : 0.38 (3回, 3日)
					1, 3, 7, 14	圃場B : 0.23 (3回, 3日)
						圃場C : 0.12
						圃場D : 0.18

(別紙1-1)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表

農作物	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
いちご (果実)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	2	1, 7, 14	圃場A : 0.23 圃場B : 0.30
ぶどう (果実)	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 300, 500 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.16 (3回, 3日) 圃場B : 0.51 (3回, 3日)
かき (果実)	2	10.0% フロアブル	5000倍 散布 500 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 0.07 圃場B : 0.07 (3回, 7日)
茶 (荒茶)	2	10.0% フロアブル	2000倍 散布 400 L/10 a	1	3, 7, 14, 21	圃場A : 29.8 圃場B : 38.6
茶 (浸出液)	2	10.0% フロアブル	2000倍 散布 400 L/10 a	1	3, 7, 14, 21	圃場A : 16.9 圃場B : 19.6
バジル (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 8.08 圃場B : 5.86
しそ (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A : 7.76 圃場B : 17.3
らっきょう (鱗茎)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A : <0.01 圃場B : <0.01
あすっこ (花・花茎)	2	5.0% フロアブル	100倍 500 mL/セルトイ灌注	1	82, 89, 96	圃場A : <0.02 (1回, 82日) 圃場B : <0.02 (1回, 82日)
アマランサス (茎葉)	2	5.0% フロアブル	2000倍 散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A : 4.83 圃場B : 3.25
なばな (茎葉)	2	8.7%フロアブル +5.0%フロアブル	200倍500 mL/セルトイ灌 注 +2000倍 散布 200, 250~300 L/10 a	1+3	1, 3, 7	圃場A : 1.00 圃場B : 0.50

注1) 最大残留量: 当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験)を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。(参考: 平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」)

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用数及び経過日数について( )内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ばれいしょ (塊茎)	1	35%顆粒水和剤	49 g ai/ha散布	3	0, 7, 14, 21, 28	圃場A : <0.003 (#) <sup>注2)</sup>
		35%顆粒水和剤	50~52 g ai/ha散布	3	0, 7, 15, 21, 28	圃場A : <0.003 (#)
		35%顆粒水和剤	74~76 g ai/ha散布	3	0, 1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 0.003 (#)
		35%顆粒水和剤	76 g ai/ha散布	3	0, 1, 3, 7, 14, 21	圃場A : <0.003 (#)
		35%顆粒水和剤	380 g ai/ha散布	3	14	圃場A : 0.003 (#)
	21	35%顆粒水和剤	73~78 g ai/ha散布	3	14	圃場A : ND (#)
						圃場B : ND (#)
						圃場C : ND (#)
						圃場D : ND (#)
						圃場E : ND (#)
キャベツ (外葉あり)	4	35%顆粒水和剤	73~78 g ai/ha散布	3	15	圃場F : ND (#)
						圃場G : 0.004 (#)
						圃場H : ND (#)
						圃場I : ND (#)
						圃場J : ND (#)
						圃場K : ND (#)
						圃場L : ND (#)
						圃場M : ND (#)
						圃場N : ND (#)
						圃場O : ND (#)
キャベツ (外葉なし)	11	18.4%フロアブル	110~118 g ai/ha 散布	2	3	圃場P : ND (#)
						圃場Q : 0.003 (#)
						圃場R : ND (#)
						圃場S : ND (#)
						圃場T : 0.003 (#)
						圃場U : ND (#)
						圃場A : 0.003 (#)
						圃場B : ND (#)
						圃場C : 0.004 (#)
						圃場D : ND (#)
プロッコリー (花蕾)	1	18.4%フロアブル	112~116 g ai/ha散布	2	4	圃場A : 0.64 (#)
						圃場B : 0.28 (#)
						圃場C : 0.033 (#)
						圃場D : 0.51 (#)
						圃場E : 0.48 (#)
						圃場F : 0.066 (#)
						圃場G : 0.29 (#)
						圃場H : 1.1 (#)
						圃場I : 0.75 (#)
						圃場J : 2.9
からしな (茎葉)	8	18.4%フロアブル	113~114 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場K : 2.2
						圃場A : 0.10 (#)
						圃場B : 0.037 (#)
						圃場C : 0.078 (#)
						圃場D : 0.077 (#)
						圃場A : 0.67 (2回, 1日) (#)
						圃場B : 0.32 (#)
						圃場C : 0.30 (#)
						圃場D : 0.40 (#)
						圃場E : 0.38 (#)
8	18.4%フロアブル	109~116 g ai/ha 散布	2	3	0, 1, 3, 7, 10	圃場F : 0.32 (#)
						圃場G : 0.41 (#)
						圃場H : 0.35 (#)
						圃場A : 1.7 (#)
						圃場B : 4.6 (#)
						圃場C : 1.2 (#)
						圃場D : 5.6 (#)
						圃場E : 2.9 (#)

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
レタス (茎葉) (外葉あり)	1	18.4%フロアブル	111~113 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場A : 0.56 (#)
	6	18.4%フロアブル	109~115 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 2.4 (#) 圃場B : 1.3 (#) 圃場C : 0.43 (#) 圃場D : 2.2 (#) 圃場E : 0.012 (#) 圃場F : 0.004 (#)
レタス (茎葉) (外葉なし)	3	18.4%フロアブル	110~118 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.47 (#) 圃場B : 0.043 (#) 圃場C : 0.39 (#)
リーフレタス (茎葉)	7	18.4%フロアブル	112~116 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 6.2 (#) 圃場B : 3.2 (#) 圃場C : 3.9 (#) 圃場D : 4.5 (#) 圃場E : 5.3 (#) 圃場F : 4.0 (#) 圃場G : 3.9 (#)
セルリー (茎葉) (外葉あり)	7	18.4%フロアブル	112~118 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.99 (#) 圃場B : 2.6 (#) 圃場C : 2.1 (#) 圃場D : 3.6 (#) 圃場E : 2.1 (#) 圃場F : 1.4 (#) 圃場G : 3.6 (#)
セルリー (茎葉) (外葉なし)	3	18.4%フロアブル	112~114 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 2.5 (#) 圃場B : 0.25 (#) 圃場C : 0.19 (#)
ほうれんそう (茎葉)	1	18.4%フロアブル	110~113 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場A : 3.7 (#)
	6	18.4%フロアブル	110~118 g ai/ha 散布	2	1	圃場B : 6.8 (#) 圃場C : 8.6 (#) 圃場D : 7.4 (#) 圃場E : 5.6 (#) 圃場F : 8.9 (#) 圃場G : 7.3 (#)
トマト (果実)	1	18.4%フロアブル	113 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場A : 0.14 (#)
	19	18.4%フロアブル	106~120 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.071 (#)
						圃場B : 0.040 (#)
						圃場C : 0.018 (#)
						圃場D : 0.032 (#)
						圃場E : 0.040 (#)
						圃場F : 0.032 (#)
						圃場G : 0.18 (#)
						圃場H : 0.14 (#)
						圃場I : 0.092 (#)
						圃場J : 0.14 (#)
						圃場K : 0.14 (#)
						圃場L : 0.044 (#)
						圃場M : 0.059 (#)
						圃場N : 0.051 (#)
						圃場O : 0.061 (#)
						圃場P : 0.11 (#)
						圃場Q : 0.095 (#)
						圃場R : 0.10 (#)
						圃場S : 0.082 (#)
ピーマン (果実)	11	18.4%フロアブル	105~119 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.11 (#) 圃場B : 0.069 (#) 圃場C : 0.024 (#) 圃場D : 0.090 (#) 圃場E : 0.013 (#) 圃場F : 0.022 (#) 圃場G : 0.019 (#) 圃場H : 0.11 (#) 圃場I : 0.13 (#) 圃場J : 0.18 (#) 圃場K : 0.14 (#)

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注1)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
とうがらし (果実)	9	18.4%フロアブル	109~119 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.21 (#) 圃場B : 0.019 (#) 圃場C : 0.035 (#) 圃場D : 0.066 (#) 圃場E : 0.059 (#) 圃場F : 0.41 (#) 圃場G : 0.063 (#) 圃場H : 0.13 (#) 圃場I : 0.069 (#)
きゅうり (果実)	1	18.4%フロアブル	118~119 g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 10	圃場A : 0.022 (#)
きゅうり (果実)	6	18.4%フロアブル	109~124 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.076 (#) 圃場B : 0.011 (#) 圃場C : 0.015 (#) 圃場D : 0.006 (#) 圃場E : 0.012 (#) 圃場F : 0.076 (#)
						圃場A : 0.090 (#) 圃場B : 0.027 (#) 圃場C : 0.065 (#) 圃場D : 0.10 (#) 圃場E : 0.081 (#) 圃場F : 0.052 (#)
カンタロープ (果実)	6	18.4%フロアブル	110~121 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.010 (#)
マスクメロン (果実)	1	18.4%フロアブル	113~114 g ai/ha散布	2	1	圃場A : 0.017 (#)
ペポカボチャ (果実)	6	18.4%フロアブル	108~121 g ai/ha 散布	2	1	圃場B : 0.081 (#) 圃場C : 0.023 (#) 圃場D : 0.054 (#) 圃場E : 0.076 (#) 圃場F : 0.040 (#)
りんご (果実)	1	35%顆粒水和剤	112 g ai/ha散布	2	0, 7, 14, 21, 28	圃場A : 0.13 (#)
	13	35%顆粒水和剤	111~118 g ai/ha 散布	2	14	圃場A : 0.022 (#) 圃場B : 0.056 (#) 圃場C : 0.11 (#) 圃場D : 0.074 (#) 圃場E : 0.038 (#) 圃場F : 0.010 (#) 圃場G : 0.012 (#) 圃場H : 0.088 (#) 圃場I : 0.045 (#) 圃場J : 0.093 (#) 圃場K : 0.061 (#) 圃場L : 0.23 (#) 圃場M : 0.078 (#)
						圃場A : 0.073 (#) 圃場B : 0.072 (#) 圃場C : 0.030 (#)
なし (果実)	1	35%顆粒水和剤	113~115 g ai/ha散布	2	10	圃場A : 0.054 (#)
	3	35%顆粒水和剤	112 g ai/ha 散布	2	13	圃場A : 0.033 (#) 圃場B : 0.059 (#) 圃場C : 0.085 (#)
						圃場A : 0.026 (#) 圃場B : 0.070 (#) 圃場C : 0.10 (#) 圃場D : 0.016 (#) 圃場E : 0.12 (#) 圃場F : 0.13 (#) 圃場G : 0.070 (#)

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
もも (果実)	1	35%顆粒水和剤	116.13~115.71 g ai/ha散布	2	1, 3, 8, 10, 14	圃場A : 0.158 (#)
	1	35%顆粒水和剤	111.69~112.42 g ai/ha散布	2	1, 3, 8, 11, 15	圃場A : 0.318 (#)
	2	35%顆粒水和剤	110.69~112.34 g ai/ha 散布	2	9	圃場A : 0.0720 (#)
						圃場B : 0.125 (#)
	9	35%顆粒水和剤	111.37~113.65 g ai/ha 散布	2	10	圃場A : 0.247 (#)
						圃場B : 0.144 (#)
						圃場C : 0.132 (#)
						圃場D : 0.165 (#)
						圃場E : 0.0639 (#)
						圃場F : 0.0916 (#)
						圃場G : 0.101 (#)
						圃場H : 0.0827 (#)
						圃場I : 0.122 (#)
すもも (果実)	3	35%顆粒水和剤	112.42~115.47 g ai/ha 散布 野菜オイル加用	2	10	圃場A : 0.106 (#) 圃場B : 0.891 (#) 圃場C : 0.142 (#)
	3	35%顆粒水和剤	110.35~115.85 g ai/ha 散布 非イオン系展着剤加用	2	10	圃場A : 0.114 (#) 圃場B : 0.132 (#) 圃場C : 0.101 (#)
	4	35%顆粒水和剤	109.77~115.87 g ai/ha 散布	2	11	圃場A : 0.0897 (#) 圃場B : 0.105 (#) 圃場C : 0.309 (#) 圃場D : 0.183 (#)
						圃場A : 0.004 (2回, 10日) (#)
						圃場B : 0.026 (#)
						圃場C : 0.017 (#)
						圃場D : 0.067 (#)
						圃場E : 0.066 (#)
						圃場F : 0.006 (#)
						圃場G : 0.015 (#)
						圃場H : 0.007 (#)
とうとう (果実)	3	35%顆粒水和剤	108~111 g ai/ha 散布 野菜オイル加用	2	10	圃場A : 0.011 (#) 圃場B : 0.022 (#) 圃場C : 0.049 (#)
	3	35%顆粒水和剤	112~118 g ai/ha 散布 非イオン系展着剤加用	2	10	圃場A : 0.011 (#) 圃場B : 0.029 (#) 圃場C : 0.076 (#)
	2	35%顆粒水和剤	112 g ai/ha 散布	2	9	圃場A : 0.11 (#) 圃場B : 0.18 (#)
	6	35%顆粒水和剤	111~112 g ai/ha 散布	2	10	圃場A : 0.26 (#) 圃場B : 0.10 (#) 圃場C : 0.056 (#) 圃場D : 0.36 (#) 圃場E : 0.21 (#) 圃場F : 0.45 (#)
						圃場A : 0.15 (#) 圃場B : 0.48 (#)
						圃場A : 0.19 (#) 圃場B : 0.57 (#)

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ぶどう (果実)	1	35%顆粒水和剤	115.60~118.95 g ai/ha散布	2	1, 2, 7, 13, 23	圃場A : 0.0403(#+)
	1	35%顆粒水和剤	111.85~112.01 g ai/ha散布	2	1, 4, 7, 15, 20	圃場A : 0.429(#+)
	2	35%顆粒水和剤	111.08~115.15 g ai/ha 散布	2	13	圃場A : 0.522(#+)
						圃場B : 0.199(#+)
	10	35%顆粒水和剤	108.82~114.80 g ai/ha 散布	14		圃場A : 0.0826(#+)
						圃場B : 0.0415(#+)
						圃場C : 0.0933(#+)
						圃場D : 0.175(#+)
						圃場E : 0.335(#+)
						圃場F : 0.257(#+)
						圃場G : 0.108(#+)
						圃場H : 0.0440(#+)
						圃場I : 0.0426(#+)
						圃場J : 0.0364(#+)
綿実 (種子)	2	35%顆粒水和剤	111.69~114.06 g ai/ha散布 野菜オイル加用	2	14	圃場A : 0.0442(#+) 圃場B : 0.0445(#+)
	2	35%顆粒水和剤	112.25~114.86 g ai/ha散布 非イオン系展着剤加用	2	14	圃場A : 0.0909(#+) 圃場B : 0.0408(#+)
	3	35%顆粒水和剤	107.90~114.01 g ai/ha 散布	2	15	圃場A : 0.477(#+)
						圃場B : 0.119(#+) 圃場C : 0.189(#+)
	1	35%顆粒水和剤	108.12~108.26 g ai/ha散布 野菜オイル加用	2	15	圃場A : 0.371(#+)
	1	35%顆粒水和剤	107.90~108.35 g ai/ha散布 非イオン系展着剤加用	2	15	圃場A : 0.461(#+)
	1	35%顆粒水和剤	110~118 g ai/ha散布	2	0, 7, 14, 21, 28	圃場A : 0.078(#+)
綿実 (綿花残渣)	1	35%顆粒水和剤	110~112 g ai/ha散布	2	0, 6, 14, 20, 25	圃場A : 0.34(2回, 6日)(#+)
	1	35%顆粒水和剤	112 g ai/ha散布	2	20	圃場A : 0.016(#+)
	7	35%顆粒水和剤	109~114 g ai/ha 散布	2	21	圃場A : 0.022(#+) 圃場B : 0.029(#+) 圃場C : 0.047(#+) 圃場D : 0.082(#+) 圃場E : 0.049(#+) 圃場F : 0.13(#+) 圃場G : 0.083(#+)
	3	35%顆粒水和剤	110~114 g ai/ha 散布	2	22	圃場A : 0.031(#+) 圃場B : 0.054(#+) 圃場C : 0.081(#+)
	1	35%顆粒水和剤	112~113 g ai/ha散布	2	23	圃場A : 0.006(#+)
綿実 (綿花残渣)	5	35%顆粒水和剤	109~113 g ai/ha 散布	2	21	圃場A : 12(#+) 圃場B : 6.4(#+) 圃場C : 3.3(#+) 圃場D : 4.1(#+) 圃場E : 2.4(#+)
グリーンビーン (さや)	2	35%顆粒水和剤	110~114 g ai/ha 散布	2	22	圃場A : 1.1(#+) 圃場B : 13(#+)
	5	35%顆粒水和剤	59.66~60.52 g ai/ha 散布	2	0, 1, 7, 14, 21	圃場A : 0.11(2回, 1日)(#+) 圃場B : 0.13(2回, 1日)(#+) 圃場C : 0.19(#+) 圃場D : 0.15(2回, 1日)(#+) 圃場E : 0.13(2回, 日)(#+)
	4	35%顆粒水和剤	57.72~61.59 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.11(#+) 圃場B : 0.081(#+) 圃場C : 0.11(#+) 圃場D : 0.30(#+)
	6	35%顆粒水和剤	38.86~40.91 g ai/ha 散布	2	1, 3	圃場A : 0.088(#+) 圃場B : 0.25(#+) 圃場C : 0.093(#+) 圃場D : 0.16(#+) 圃場E : 0.19(#+) 圃場F : 0.024(#+)
	4	35%顆粒水和剤	38.12~40.86 g ai/ha 散布	2	1	圃場A : 0.055(#+) 圃場B : 0.031(#+) 圃場C : 0.12(#+) 圃場D : 0.083(#+)

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注1)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
とうもろこし (穀粒)	1	18.4%フロアブル	110~112 g ai/ha散布	2	13	圃場A : ND (#)
	1	18.4%フロアブル	559~567 g ai/ha散布	2	13	圃場A : ND (#)
	4	18.4%フロアブル	105~112 g ai/ha 散布	2	14	圃場A : ND (#)
						圃場B : ND (#)
			108~116 g ai/ha 散布	2	15	圃場C : ND (#)
						圃場D : ND
	1	18.4%フロアブル	554~567 g ai/ha散布	2	15	圃場A : ND (#)
	2	18.4%フロアブル	0.100~0.109 lb ai/A 散布	4	13	圃場A : <0.010 (#)
	10	18.4%フロアブル	0.100~0.109 lb ai/A 散布	4	14	圃場B : <0.010 (#)
						圃場C : <0.010 (#)
						圃場D : <0.010 (#)
						圃場E : <0.010 (#)
			0.095~0.109 lb ai/A 散布	4	14	圃場F : <0.010 (#)
						圃場G : <0.010 (#)
						圃場H : <0.010 (#)
						圃場I : <0.010 (#)
						圃場J : <0.010 (#)
						圃場A : <0.010 (#)
とうもろこし (茎葉)	1	18.4%フロアブル	0.099~0.103 lb ai/A散布	4	15	圃場B : <0.010 (#)
	1	18.4%フロアブル	0.101 lb ai/A散布	5	14	圃場A : <0.010 (#)
	14	18.4%フロアブル	0.098~0.104 lb ai/A 散布	2	13	圃場A : 5.4 (#)
						圃場B : 5.315 (#)
						圃場C : 2.615 (#)
						圃場D : 0.69 (#)
						圃場E : 12.04 (#)
						圃場F : 3.635 (#)
						圃場G : 3.955 (#)
						圃場H : 0.824 (#)
						圃場I : 2.085 (#)
						圃場J : 2.075 (#)
稻 (穀粒)	7	18.4%フロアブル	0.094~0.104 lb ai/A 散布	2	14	圃場K : 7.69 (#)
						圃場L : 4.52 (#)
						圃場M : 7.1 (#)
						圃場N : 2.36 (#)
						圃場A : 1.7 (#)
						圃場B : 3.1 (#)
						圃場C : 3.1 (#)
						圃場D : 2.8 (#)
						圃場E : 3.7 (#)
						圃場F : 2.2 (#)
Polebeans (さや)	1	51.85%フロアブル	550 g ai/ha土壤処理	2	113	圃場G : 3.8 (#)
						圃場A : 0.063 (#)
						圃場B : 0.040 (#)
						圃場C : 0.057 (#)
						圃場D : 0.010 (#)
						圃場E : 0.049 (#)
						圃場A : 0.037 (#)
			560 g ai/ha散布	2	122	圃場A : 0.051 (#)
						圃場B : 0.050 (#)
						圃場C : 0.072 (#)
						圃場D : 0.087 (#)
プラックベリー (果実)	1	51.85%フロアブル	560 g ai/ha土壤処理	2	123	圃場A : 0.029 (#)
						圃場B : 0.052 (#)
						圃場C : 0.028 (#)
						圃場D : 0.030 (#)
						圃場E : 0.046 (#)
						圃場F : 0.033 (#)
			561 g ai/ha散布	2	134	圃場G : 0.031 (#)
						圃場A : 0.048 (#)
						圃場B : 0.043 (#)
						圃場C : 0.049 (#)
Polebeans (さや)	1	5%フロアブル	20 g ai/ha散布	6	0, 1, 3, 7, 14	圃場A : 3.080 (#)
	1	5%フロアブル	40 g ai/ha散布	6	0, 1, 3, 7, 14	圃場A : 11.036 (#)
プラックベリー (果実)	2	35%顆粒水和剤	0.097~0.100 lb ai/A 散布	2	3	圃場A : 0.049 圃場B : 0.436

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注1)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ラズベリー (果実)	1	35%顆粒水和剤	0.099~0.103 lb ai/A 散布	2	1, 3, 7, 10	圃場A : 0.0902
	5	35%顆粒水和剤	0.100~0.105 lb ai/A 散布	2	3	圃場A : 0.235 圃場B : 0.481 圃場C : 0.482 圃場D : 0.513 圃場E : 0.095
いちご (果実)	2	5%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2	1, 7, 14	圃場A : 0.23 圃場B : 0.30
ブルーベリー (果実)	9	35%顆粒水和剤	0.198~0.212 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 0.176 (#) 圃場B : 0.122 (#) 圃場C : 0.163 (#) 圃場D : 0.108 (#) 圃場E : 0.206 (#) 圃場F : 0.132 (#) 圃場G : 0.749 (#) 圃場H : 0.840 (#) 圃場I : 0.181 (#)
	1	35%顆粒水和剤	0.198~0.212 lb ai/A 散布	2	1, 3, 6, 13	圃場A : 0.234 (#)
	1	35%顆粒水和剤	0.198~0.212 lb ai/A 散布	2	1, 3, 8, 14	圃場A : 0.460 (#)
ミント (茎葉)	5	35%顆粒水和剤	0.097~0.103 lb ai/A 散布	2	3	圃場A : 4.61 (#) 圃場B : 4.64 (#) 圃場C : 5.68 (#) 圃場D : 5.33 (#) 圃場E : 2.22 (#)
コーヒー豆 (豆)	2	35%顆粒水和剤	52.5 g ai/ha散布	3	7, 21	圃場A : 0.098 圃場B : 0.115
	2	35%顆粒水和剤	52.5 g ai/ha散布	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A : 0.188 圃場B : 0.205
アーモンド (可食部)	5	35%顆粒水和剤	111~114 g ai/ha 散布	2	10	圃場A : 0.006 (#) 圃場B : 0.007 (#) 圃場C : 0.004 (#) 圃場D : 0.006 (#) 圃場E : 0.004 (#)
ペカン (可食部)	1	35%顆粒水和剤	111~112 g ai/ha散布	2	11	圃場A : 0.008 (#)
なたね (種子)	1	35%顆粒水和剤	112~113 g ai/ha散布	2	9	圃場A : 0.015 (#)
	5	35%顆粒水和剤	112~114 g ai/ha 散布	2	10	圃場A : 0.003 (#) 圃場B : 0.003 (#) 圃場C : 0.007 (#) 圃場D : 0.014 (#) 圃場E : 0.009 (#)
ひまわり (種子)	6	18.4%フロアブル	219~231 g ai/ha散布	1	1	圃場A : 1.0 圃場B : 0.83 圃場C : 0.14 圃場D : 0.25 圃場E : 0.34 圃場F : 0.23
さやいんげん	6	18.4%フロアブル	219~230 g ai/ha散布	1	1	圃場A : 0.79 圃場B : 0.12 圃場C : 0.21 圃場D : 0.030 圃場E : 0.82 圃場F : 0.16
さやえんどう	9	18.4%フロアブル	0.192~0.204 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 0.136 圃場B : 0.123 圃場C : 0.097 圃場D : <0.01 圃場E : 0.118 圃場F : 0.407 圃場G : 0.145 圃場H : 0.161 圃場I : 0.121
	4	18.4%フロアブル	0.201~0.205 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 0.640 圃場B : 0.476 圃場C : 0.444 圃場D : 0.611

## クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表（米国）

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいす (乾燥子実)	1	18.4%フロアブル	0.1 lb ai/A散布	2	1	圃場A : 0.19
ラディッシュ (葉部)	6	18.4%フロアブル	0.200～0.208 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 11
						圃場B : 10
						圃場C : 17
						圃場D : 6.8
						圃場E : 3.8
						圃場F : 18
ラディッシュ (根部)	6	18.4%フロアブル	0.200～0.208 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 0.23
						圃場B : 0.031
						圃場C : 0.051
						圃場D : 0.046
						圃場E : 0.027
						圃場F : 0.071
ねぎ	5	18.4%フロアブル	0.199～0.203 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 0.653
						圃場B : 0.406
						圃場C : 0.787
						圃場D : 1.49
						圃場E : 0.717
						圃場A : 0.004
らっかせい	6	18.4%フロアブル	0.200 lb ai/A散布	2	1	圃場B : 0.012
						圃場C : <0.003
						圃場D : 0.003
						圃場E : <0.003
						圃場F : 0.034
						圃場A : 1.96
大麦	3	18.4%フロアブル	0.200～0.207 lb ai/A 散布	2	1	圃場B : 1.91
						圃場C : 1.93
						圃場A : 1.16
ソルガム	3	18.4%フロアブル	0.200～0.202 lb ai/A 散布	2	1	圃場B : 1.49
						圃場C : 0.786
						圃場A : 0.225
小麦	5	18.4%フロアブル	0.201～0.209 lb ai/A 散布	2	1	圃場B : 0.192
						圃場C : 0.183
						圃場D : 0.254
						圃場E : 0.409
						圃場A : 0.101
ザクロ	5	35%顆粒水和剤	0.194～0.206 lb ai/A 散布	2	1	圃場B : 0.0972
						圃場C : 0.0899
						圃場D : 0.125
						圃場E : 0.119
						圃場A : 0.288
パパイヤ	1	35%顆粒水和剤	0.207 lb ai/Acre散布	2	<u>1</u> , 3, 7, 10, 14	圃場A : 0.451
ライチ	1	35%顆粒水和剤	0.200 lb ai/Acre散布	2	<u>1</u> , 3, 6, 9, 13	圃場A : 0.171
とうとう	1	35%顆粒水和剤	0.199 lb ai/Acre散布	2	<u>1</u> , 3, 6, 10, 15	圃場A : 0.243
デイル (種子)	2	18.4%フロアブル	0.100～0.101 lb ai/A 散布	2	1	圃場A : 17.6
						圃場B : 24.3

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下的作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下的作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。  
ND : not detected (検出限界0.003 ppm未満)

(別紙1-3)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (豪州)

農作物	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <small>注)</small>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ひよこ豆	2	35%顆粒水和剤	140g ai/ha散布	2	14	圃場A: <0.005 圃場B: 0.14
緑豆	2	35%顆粒水和剤	140g ai/ha散布	2	14	圃場A: 0.42 圃場B: 0.32
だいす	3	35%顆粒水和剤	140g ai/ha散布	2	14	圃場A: 0.013 圃場B: <0.005 圃場C: 0.027
スナップえんどう	1	18.4%フロアブル	20g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 6, 14	圃場A: 0.47(2回, 14日)
	1	18.4%フロアブル	112g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 6, 14	圃場A: 1.32(2回, 14日)
さやえんどう	2	18.4%フロアブル	20g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 14	圃場A: 0.09 圃場B: 0.03
	2	18.4%フロアブル	112g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 14	圃場A: 0.24 圃場B: 0.11
グリーンピース	1	18.4%フロアブル	20g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 12	圃場A: <0.01
	1	18.4%フロアブル	112g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 12	圃場A: <0.01
さやいんげん	1	18.4%フロアブル	20g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7, 14	圃場A: 0.09
	1	18.4%フロアブル	112g ai/ha散布	2	0, 1, 7	圃場A: 0.31
いんげんまめ	1	18.4%フロアブル	20g ai/ha散布	2	0, 1, 3, 7	圃場A: 0.11
	1	18.4%フロアブル	112g ai/ha散布	2	0, 1, 7	圃場A: 0.24

注) 最大残留量: 当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験)を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。(参考: 平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」)

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について( )内に記載した。

(別紙1-4)

クロラントラニリプロール作物残留試験一覧表 (ニュージーランド)

農作物	試験 圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
アボカド	1	35%顆粒水和剤	94.5 g ai/ha散布	2	1, 7, <u>14</u> , 21, 28	圃場A : 0.16(2回, 7日) (#) <sup>注2)</sup>
	1	35%顆粒水和剤	94.5 g ai/ha散布	2	14	圃場A : 0.15
	1	35%顆粒水和剤	189 g ai/ha散布	3	1, 7, <u>14</u> , 21, 28	圃場A : 0.34(3回, 1日) (#)
	1	35%顆粒水和剤	189 g ai/ha散布	3	14	圃場A : 0.31

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいふ。)	0.05	0.05	○			<0.01,<0.01
小麦	6	6		0.02	6.0	米国 【0.183-0.409(n=5)(小麦) (1.91,1.93,1.96)(大麦) (0.786,1.16,1.49)(ソルガム)(米国)】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
大麦	6	6		0.02	6.0	米国 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
ライ麦	6	6		0.02	6.0	米国 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
とうもろこし	0.6	0.6	○	0.6	6.0	米国 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
そば	6	6		0.02	6.0	米国 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
その他の穀類	6	6		0.02	6.0	米国 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】 【米国小麦、大麦、ソルガム参照】
大豆	0.2	0.2	○	0.05		<0.01,0.03(\$)
小豆類	1	1				【0.32,0.42(緑豆)(豪州)】 【小豆類参照】
えんどう	1	1				【小豆類参照】
そら豆	1	1				【<0.003-0.034(n=6)(米国)】 【小豆類参照】
らっかせい	0.06	0.06		0.06	0.06	米国 【<0.003-0.034(n=6)(米国)】 【小豆類参照】
その他の豆類	1	1				
ばれいしょ	0.02	0.02		0.02		
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05	0.05	○	0.02		<0.01,<0.01
かんしょ	0.05	0.05	○	0.02		<0.01,<0.01
やまいも(長いもをいふ。)	0.05	0.05	○	0.02		<0.01,<0.01
こんにゃくいも	0.02	0.02		0.02		
その他のいも類	0.02	0.02		0.02		
てんさい	0.02	0.02		0.02		
さとうきび	14	14	○	0.5	14	米国 【0.69-12.04(\$) (n=21) (とうもろこし茎葉)(米国)】
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.5	0.5	○	0.5		
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	40	40	○	40		0.02,0.03(\$)
かぶ類の根	0.2	0.2	○	0.02		
かぶ類の葉	20	20	○	20		
西洋わさび	0.02	0.02		0.02		
クレソン	20	20	○	20		
はくさい	20	20	○	20		
キャベツ	4	4	○	2	4.0	米国 【0.033-1.1(n=11) (外葉あり)、0.037,0.077,0.078 (外葉なし)(米国)】 【米国キャベツ参照】
芽キャベツ	4	4		2	4.0	米国 【米国キャベツ参照】
ケール	20	20	○	20		
こまつな	20	20	○	20		
きょうな	20	20	○	20		
チンゲンサイ	20	20	○	20		
カリフラワー	4	4	○	2	4.0	米国 【米国キャベツ参照】
ブロッコリー	4	4	○	2	4.0	米国 【米国キャベツ参照】
その他あぶらな科野菜	20	20	○	20		
ごぼう	0.02	0.02		0.02		
サルシフィー	0.02	0.02		0.02		
アーティチョーク	2	4		2		
チコリ	20	20		20		
エンダイブ	20	20		20		
しゅんぎく	20	20		20		
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	20	20	○	20		
その他きく科野菜	20	20	○	20		
ねぎ(リーキを含む。)	3	3	○	3.0	米国 【米国ねぎ参照】	【米国ねぎ参照】
にら	3	3		3.0	米国 0.02,0.02	
アスパラガス	0.1	0.1	○	3.0	米国 【米国ねぎ参照】	
その他ゆり科野菜	3	3	○	3.0	米国	

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
にんじん	0.08	0.08		0.08			
パースニップ	0.02	0.02		0.02			
パセリ	15	13	○・申			5.62,6.10(#)(\\$)	
セロリ	15	13	申	7		【パセリ参照】	
みつば	15		申			【パセリ参照】	
その他のせり科野菜	15	13	申	0.02		【パセリ参照】	
トマト	0.7	0.7	○	0.6		※1	
ピーマン	1	1	○	0.6	1	EU	0.22,0.38
なす	0.7	0.7	○	0.6			0.06,0.26(\\$)
その他のなす科野菜	20	20	○	20			
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.3	0.3	○	0.3			
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.3	0.3	○	0.3			
しろうり	0.3	0.3		0.3			
すいか※2	0.1	0.1	○				
メロン類果実※2	0.1	0.1	○				
まくわうり※2	0.1	0.1	○				
その他のうり科野菜	20	20	○	20			
ほうれんそう	20	20	○	20			
オクラ	0.7	0.7	○	0.6			0.15,0.27
しょうが	0.05	0.05	○				<0.01,0.01
未成熟えんどう	2	2	○	2			
未成熟いんげん	2	0.8	○	2			
えだまめ	1	1	○				0.14,0.32(\\$)
マッシュルーム	0.6	0.6		0.6			
しいたけ	0.6	0.6		0.6			
その他のきのこ類	0.6	0.6		0.6			
その他の野菜	20	20	○	20			
みかん※3	0.2	0.1					
なつみかんの果実全体	0.7	0.5		0.7			
レモン	0.7	0.5		0.7			
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.5		0.7			
グレープフルーツ	0.7	0.5		0.7			
ライム	0.7	0.5		0.7			
その他のかんきつ類果実	0.7	0.5		0.7			
りんご	1	1	○	0.4	1.2	米国	【0.010(#)-0.23(#)(n=17)(米国)】
日本なし	1	1	○	0.4	1.2	米国	【米国西洋なし参照】
西洋なし	1	1	○	0.4	1.2	米国	【0.016(#)-0.13(#)(n=11)(米国)】
マルメロ	1	1		0.4	1.2	米国	【米国りんご及び西洋なし参照】
びわ	0.4	0.4					
もも※4	0.4	0.4	○		4.0	米国	【0.0639(#)-0.891(#)(n=23)(米国)】
ネクタリン	4	4	○	1	4.0	米国	【米国もも、すもも、とうとう参照】
あんず(アプリコットを含む。)	4	4	○	1	4.0	米国	【米国もも、すもも、とうとう参照】
すもも(ブルーンを含む。)	4	4	○	1	4.0	米国	【0.004(#)-0.076(#)(n=17)(米国)】
うめ	1	1	○	1			0.32, 0.44
とうとう(チェリーを含む。)	1	1	○	1			【0.056(#)-0.57(#)(n=12)(米国)】
いちご	1	1	○	1			
ラズベリー	2	2		1	1.8	米国	【0.0902(#)-0.513(#)(n=6)(米国)】
ブラックベリー	2	2		1	1.8	米国	【0.049(#),0.436(#)(n=2)(米国)】
ブルーベリー	3	3		1	2.5	米国	【0.108(#)-0.840(#)(n=11)(米国)】
クランベリー	3	3		1	2.5	米国	【米国ブルーベリー参照】
ハックルベリー	3	3		1	2.5	米国	【米国ブルーベリー参照】
その他のベリー類果実	3	3		1	2.5	米国	【米国ブルーベリー参照】
ぶどう	2	2	○	1			0.16,0.51(\$)
かき	0.3	0.3	○				0.07,0.07
アボカド	0.5	0.5			0.5	ニュージーランド	【0.15-0.34(#)(n=4)(ニュージーランド)】
その他の果実	1	1		1			

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
ひまわりの種子	2	2		2	2.0	米国 【0.030-0.82(n=6)(米国)】 【米国綿実参照】
ごまの種子	0.3	0.3	○		2.0	米国 【米国ひまわり及びなたね参照】
べにばなの種子	2	2		0.3	0.3	米国 【0.006-0.34(#)(n=14)(米国)】
綿実	0.3	0.3		2	2.0	米国 【0.14-1.0(n=6)(米国)】
なたね	2	2				【米国綿実参照】
その他のオイルシード	0.3	0.3				
ざんなん	0.02	0.02		0.02		
くり	0.02	0.04		0.02		
ペカン	0.02	0.04		0.02		
アーモンド	0.02	0.04		0.02		
くるみ	0.02	0.04		0.02		
その他のナッツ類	0.02	0.04		0.02		
茶	50	50	○			29.8,38.6(荒茶)
コーヒー豆	0.4	0.4		0.05	0.4	【0.098-0.205(n=4)(米国)】
カカオ豆※5	0.08	0.08			0.08	【米国カカオ豆基準値参照】
ホップ	40	40		40		
その他のスパイス	90	90				【17.6,24.3(ティール(種子))(米国)】
その他のハーブ	25	25	○	20		7.76,17.3(\$)(しそ)
牛の筋肉	0.2	0.2		0.2		推:0.02 【牛の筋肉参照】
豚の筋肉	0.2	0.2		0.2		【牛の筋肉参照】
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.2	0.2		0.2		
牛の脂肪	0.3	0.3		0.2		推:0.12 【牛の脂肪参照】
豚の脂肪	0.3	0.3		0.2		【牛の脂肪参照】
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.3	0.3		0.2		
牛の肝臓	0.3	0.3		0.2		推:0.10 【牛の肝臓参照】
豚の肝臓	0.3	0.3		0.2		【牛の肝臓参照】
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3	0.3		0.2		
牛の腎臓	0.2	0.2		0.2		推:0.07 【牛の腎臓参照】
豚の腎臓	0.2	0.2		0.2		【牛の腎臓参照】
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2	0.2		0.2		
牛の食用部分	0.2	0.2		0.2		【牛の腎臓参照】
豚の食用部分	0.2	0.2		0.2		【牛の腎臓参照】
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2	0.2		0.2		【牛の腎臓参照】
乳	0.05	0.05		0.05		推:0.01
鶏の筋肉	0.02	0.02		0.02		推:0.016
その他の家きんの筋肉	0.02	0.02		0.02		
鶏の脂肪	0.08	0.01	申	0.08		推:0.066
その他の家きんの脂肪	0.08	0.01	申	0.08		
鶏の肝臓	0.07	0.02	申	0.07		推:0.054
その他の家きんの肝臓	0.07	0.02	申	0.07		
鶏の腎臓	0.07	0.02		0.07		
その他の家きんの腎臓	0.07	0.02		0.07		
鶏の食用部分	0.07	0.02		0.07		
その他の家きんの食用部分	0.07	0.02		0.07		
鶏の卵	0.2	0.2		0.2		推:0.162
その他の家きんの卵	0.2	0.2		0.2		

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
魚介類	0.05	0.05			⋮	推:0.05

申請(国内における登録、承認等の申請、インポートレランス申請)以外の理由により本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、国内で農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留濃度であることを示している。

※1平成21年3月当時の米国基準値を参照した現行基準値を維持する。

※2すいか、メロン類果実及びまくわうりにおいては、国際基準の残留基準に加工係数0.3(可食部係数。果実全体の残留量に対する果肉の残留量の比)を乗じた値を基準値案とした。

※3みかんにおいては、国際基準の残留基準に加工係数0.24(可食部係数。果実全体の残留量に対する果肉の残留量の比)を乗じた値を基準値案とした。

※4ももにおいては、米国の残留基準に国内残留試験より算出した加工係数0.1(可食部係数。果実全体の残留量に対する果肉の残留量の比)を乗じた値を基準値案とした。

※5カカオ豆の基準値については、外皮を含まないものに適用するものとする。

クロラントラニリプロール推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	一般 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米 (玄米をいう。)	0.05	8.2	4.3	5.3	9.0
小麦	6	358.8	265.8	414.0	299.4
大麦	6	31.8	26.4	52.8	26.4
ライ麦	6	0.6	0.6	3.0	0.6
とうもろこし	0.6	2.8	3.2	3.6	2.6
そば	6	6.6	3.0	10.8	6.6
その他の穀類	6	1.2	0.6	0.6	1.8
大豆	0.2	7.8	4.1	6.3	9.2
小豆類	1	2.4	0.8	0.8	3.9
えんどう	1	0.1	0.1	0.1	0.1
そら豆	1	0.7	0.2	0.8	0.8
らっかせい	0.06	0.1	0.0	0.0	0.1
その他の豆類	1	0.1	0.1	0.1	0.1
はれいしょ	0.02	0.8	0.7	0.8	0.7
さといも類 (やつがしらを含む。)	0.05	0.3	0.1	0.1	0.4
かんしょ	0.05	0.3	0.3	0.6	0.5
やまいも (長いもをいう。)	0.05	0.2	0.0	0.1	0.2
こんにゃくいも	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のいも類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
てんさい	0.02	0.7	0.6	0.8	0.7
さとうきび	14	1374.8	1170.4	1737.4	1402.8
たいこん類 (ラディッシュを含む。) の根	0.5	16.5	5.7	10.3	22.9
たいこん類 (ラディッシュを含む。) の葉	40	68.0	24.0	124.0	112.0
かぶ類の根	0.2	0.6	0.2	0.0	1.0
かぶ類の葉	20	6.0	2.0	2.0	12.0
西洋わさび	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	20	2.0	2.0	2.0	2.0
はくさい	20	354.0	102.0	332.0	432.0
キャベツ	4	96.4	46.4	76.0	95.2
芽キャベツ	4	0.4	0.4	0.4	0.4
ケール	20	4.0	2.0	2.0	4.0
こまつな	20	100.0	36.0	128.0	128.0
きょうな	20	44.0	8.0	28.0	54.0
チンゲンサイ	20	36.0	14.0	36.0	38.0
カリフラワー	4	2.0	0.8	0.4	2.0
ブロッコリー	4	20.8	13.2	22.0	22.8
その他のあぶらな科野菜	20	68.0	12.0	16.0	96.0
ごぼう	0.02	0.1	0.0	0.1	0.1
サルシフィー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	2	0.2	0.2	0.2	0.2
チコリ	20	2.0	2.0	2.0	2.0
エンダイブ	20	2.0	2.0	2.0	2.0
しゅんぎく	20	30.0	6.0	52.0	50.0
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	20	192.0	88.0	228.0	184.0
その他のきく科野菜	20	30.0	2.0	12.0	52.0
ねぎ (リーキを含む。)	3	28.2	11.1	20.4	32.1
にら	3	6.0	2.7	5.4	6.3
アスパラガス	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3
その他のゆり科野菜	3	1.8	0.3	0.6	3.6
にんじん	0.08	1.5	1.1	1.8	1.5
パースニップ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パセリ	15	1.5	1.5	1.5	3.0
セロリ	15	18.0	9.0	4.5	18.0
みづは	15	6.0	1.5	1.5	7.5
その他のせり科野菜	15	3.0	1.5	4.5	4.5
トマト	0.7	22.5	13.3	22.4	25.6

クロラントラニリプロール推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	一般 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
ピーマン	1	4.8	2.2	7.6	4.9
なす	0.7	8.4	1.5	7.0	12.0
その他のなす科野菜	20	22.0	2.0	24.0	24.0
きゅうり (ガーキンを含む。)	0.3	6.2	2.9	4.3	7.7
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	0.3	2.8	1.1	2.4	3.9
しろうり	0.3	0.2	0.0	0.0	0.3
すいか	0.1	0.8	0.6	1.4	1.1
メロン類果実	0.1	0.4	0.3	0.4	0.4
まくわうり	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
その他のうり科野菜	20	54.0	24.0	12.0	68.0
ほうれんそう	20	256.0	118.0	284.0	348.0
オクラ	0.7	1.0	0.8	1.0	1.2
しょうが	0.05	0.1	0.0	0.1	0.1
未成熟えんどう	2	3.2	1.0	0.4	4.8
未成熟いんげん	2	4.8	2.2	0.2	6.4
えだまめ	1	1.7	1.0	0.6	2.7
マッシュルーム	0.6	0.3	0.2	0.7	0.1
しいたけ	0.6	3.6	1.8	1.9	4.4
その他のきのこ類	0.6	6.1	2.8	6.3	6.8
その他の野菜	20	268.0	126.0	202.0	282.0
みかん	0.2	3.6	3.3	0.1	5.2
なつみかんの果実全体	0.7	0.9	0.5	3.4	1.5
レモン	0.7	0.4	0.1	0.1	0.4
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.7	4.9	10.2	8.8	2.9
グレープフルーツ	0.7	2.9	1.6	6.2	2.5
ライム	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	0.7	4.1	1.9	1.8	6.7
りんご	1	24.2	30.9	18.8	32.4
日本なし	1	6.4	3.4	9.1	7.8
西洋なし	1	0.6	0.2	0.1	0.5
マルメロ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
びわ	0.4	0.2	0.1	0.8	0.2
もも	0.4	1.4	1.5	2.1	1.8
ネクタリン	4	0.4	0.4	0.4	0.4
あんず (アブリコットを含む。)	4	0.8	0.4	0.4	1.6
すもも (ブルーンを含む。)	4	4.4	2.8	2.4	4.4
うめ	1	1.4	0.3	0.6	1.8
おうとう (チェリーを含む。)	1	0.4	0.7	0.1	0.3
いちご	1	5.4	7.8	5.2	5.9
ラズベリー	2	0.2	0.2	0.2	0.2
ブラックベリー	2	0.2	0.2	0.2	0.2
ブルーベリー	3	3.3	2.1	1.5	4.2
クランベリー	3	0.3	0.3	0.3	0.3
ハックルベリー	3	0.3	0.3	0.3	0.3
その他のベリー類果実	3	0.3	0.3	0.6	0.3
ぶどう	2	17.4	16.4	40.4	18.0
かき	0.3	3.0	0.5	1.2	5.5
アボカド	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
その他の果実	1	1.2	0.4	0.9	1.7
ひまわりの種子	2	0.2	0.2	0.2	0.2
ごまの種子	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2
べにばなの種子	2	0.2	0.2	0.2	0.2
綿実	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	2	11.8	7.4	10.8	9.2
その他のオイルシード	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0

クロラントラニリプロール推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	一般 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
きんなん	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	50	330.0	50.0	185.0	470.0
コーヒー豆	0.4	1.3	0.0	0.1	1.0
カカオ豆	0.08	0.0	0.0	0.0	0.0
ホップ	40	4.0	4.0	4.0	4.0
その他のスパイス	90	9.0	9.0	9.0	18.0
その他のハーブ	25	22.5	7.5	2.5	35.0
陸棲哺乳類の肉類	0.3	17.3	12.9	19.3	12.3
陸棲哺乳類の食用部分 (肉類除く)	0.3	0.4	0.2	1.4	0.3
陸棲哺乳類の乳類	0.05	13.2	16.6	18.2	10.8
家きんの肉類	0.08	1.7	1.2	1.8	1.3
家きんの卵類	0.2	8.3	6.6	9.6	7.6
魚介類	0.05	4.7	2.0	2.7	5.7
計		4119.9	2386.0	4303.7	4642.7
ADI比 (%)		5.0	9.6	4.9	5.5

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

TMDI試算法: 基準値案×各食品の平均摂取量

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI計算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じた。

(参考)

これまでの経緯

平成20年 3月10日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼(新規: 水稻、りんご等)

平成20年 3月25日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成20年 7月23日 インポートトレランス申請(ばれいしょ、ほうれんそう等)

平成20年10月 9日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成21年 7月22日 初回農薬登録

平成21年 9月28日 残留農薬基準告示

平成22年 7月12日 農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: だいこん、かぶ等)

平成22年 7月14日 インポートトレランス申請(米、かんきつ類、魚介類等)

平成22年 8月11日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成23年 6月16日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成24年12月28日 残留農薬基準告示

平成24年 4月16日 インポートトレランス申請(みかん、ラズベリー等)

平成24年 5月 9日 農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: さといも、やまいも等)

平成24年 7月18日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成24年10月24日 農林水産省から厚生労働省へ適用拡大申請に係る連絡及び基準設定依頼(適用拡大: かんしょ)

平成24年10月31日 インポートトレランス申請(ひまわり(種子)、なたね等)

平成24年11月12日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成25年10月22日 残留農薬基準告示

平成26年 1月24日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼(適用拡大: オクラ及びしょうが)

平成26年 3月20日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成26年 3月27日 インポートトレランス申請(小麦、たまねぎ等)

平成26年 6月24日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成27年 5月19日 残留農薬基準告示

平成28年 7月 1日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼(適用拡大:せり科葉菜類(パセリを除く)及びパセリ)

平成28年11月14日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請

平成29年 4月18日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

平成29年 8月25日 薬事・食品衛生審議会へ諮問

平成29年 9月 7日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

### ● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

#### [委員]

○穠山 浩	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
石井 里枝	埼玉県衛生研究所化学検査室長
井之上 浩一	立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室准教授
折戸 謙介	麻布大学獣医学部生理学教授
魏 民	大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学准教授
佐々木 一昭	東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授
佐藤 清	元 一般財団法人残留農薬研究所理事
佐野 元彦	東京海洋大学海洋生物資源学部門教授
永山 敏廣	明治薬科大学薬学部薬学教育研究センター基礎薬学部門教授
根本 了	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
二村 瞳子	日本生活協同組合連合会組織推進本部長
宮井 俊一	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問
由田 克士	大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授
吉成 浩一	静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野教授

(○ : 部会長)

答申(案)

クロラントラニリプロール

食品名	残留基準値 ppm
米(玄米をいう。)	0.05
小麦	6
大麦	6
ライ麦	6
とうもろこし	0.6
そば	6
その他の穀類 <sup>注1)</sup>	6
大豆	0.2
小豆類 <sup>注2)</sup>	1
えんどう	1
そら豆	1
らっかせい	0.06
その他の豆類 <sup>注3)</sup>	1
ばれいしょ	0.02
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05
かんしょ	0.05
やまいも(長いもをいう。)	0.05
こんにゃくいも	0.02
その他のいも類 <sup>注4)</sup>	0.02
てんさい	0.02
さとうきび	14
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.5
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	40
かぶ類の根	0.2
かぶ類の葉	20
西洋わさび	0.02
クレソン	20
はくさい	20
キャベツ	4
芽キャベツ	4
ケール	20
こまつな	20
きょうな	20
チングンサイ	20
カリフラワー	4
プロッコリー	4
その他のあぶらな科野菜 <sup>注5)</sup>	20
ごぼう	0.02
サルシフィー	0.02
アーティチョーク	2
チコリ	20
エンダイブ	20
しゅんぎく	20
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	20
その他のきく科野菜 <sup>注6)</sup>	20

食品名	残留基準値 ppm	
ねぎ(リーキを含む。)	3	
にら	3	
アスパラガス	0.1	
その他のゆり科野菜 <sup>注7)</sup>	3	注7)「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。
にんじん	0.08	
パースニップ	0.02	
パセリ	15	
セロリ	15	
みつば	15	注8)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
その他のせり科野菜 <sup>注8)</sup>	15	
トマト	0.7	
ピーマン	1	
なす	0.7	注9)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
その他のなす科野菜 <sup>注9)</sup>	20	
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.3	
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.3	
しろうり	0.3	
すいか	0.1	注10)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちゃ、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。
メロン類果実	0.1	
まくわうり	0.1	
その他のうり科野菜 <sup>注10)</sup>	20	
ほうれんそう	20	
オクラ	0.7	
しょうが	0.05	
未成熟えんどう	2	注11)「その他のきのこ類」とは、きのこ類のうち、マッシュルーム及びしいたけ以外のものをいう。
未成熟いんげん	2	
えだまめ	1	
マッシュルーム	0.6	
しいたけ	0.6	注12)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
その他のきのこ類 <sup>注11)</sup>	0.6	
その他の野菜 <sup>注12)</sup>	20	
みかん	0.2	
なつみかんの果実全体	0.7	
レモン	0.7	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	注13)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、
グレープフルーツ	0.7	
ライム	0.7	
その他のかんきつ類果実 <sup>注13)</sup>	0.7	グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
りんご	1	
日本なし	1	
西洋なし	1	
マルメロ	1	
びわ	0.4	
もも	0.4	
ネクタリン	4	
あんず(アプリコットを含む。)	4	
すもも(ブルーンを含む。)	4	
うめ	1	
おうとう(チェリーを含む。)	1	

食品名	残留基準値 ppm	
いちご	1	注14)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。
ラズベリー	2	
ブラックベリー	2	
ブルーベリー	3	
クランベリー	3	
ハックルベリー	3	
その他のベリー類果実 <sup>注14)</sup>	3	
ぶどう	2	
かき	0.3	
アボカド	0.5	
その他の果実 <sup>注15)</sup>	1	
ひまわりの種子	2	
ごまの種子	0.3	
べにばなの種子	2	
綿実	0.3	
なたね	2	注16)「その他のオイルシード」とは、オイルシードのうち、ひまわりの種子、ごまの種子、べにばなの種子、綿実、なたね及びスペイス以外のものをいう。
その他のオイルシード <sup>注16)</sup>	0.3	
ぎんなん	0.02	
くり	0.02	
ペカン	0.02	
アーモンド	0.02	注17)「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。
くるみ	0.02	
その他のナッツ類 <sup>注17)</sup>	0.02	
茶	50	
コーヒー豆	0.4	
カカオ豆 <sup>注18)</sup>	0.08	注18)カカオ豆の基準値については、外皮を含まないものに適用するものとする。
ホップ	40	
その他のスパイス <sup>注19)</sup>	90	注19)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。
その他のハーブ <sup>注20)</sup>	25	
牛の筋肉	0.2	注20)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。
豚の筋肉	0.2	
その他の陸棲哺乳類に属する動物 <sup>注21)</sup> の筋肉	0.2	
牛の脂肪	0.3	注21)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。
豚の脂肪	0.3	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.3	
牛の肝臓	0.3	
豚の肝臓	0.3	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3	
牛の腎臓	0.2	
豚の腎臓	0.2	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.2	
牛の食用部分 <sup>注22)</sup>	0.2	注22)「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。
豚の食用部分	0.2	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.2	
乳	0.05	
鶏の筋肉	0.02	注23)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。
その他の家きん <sup>注23)</sup> の筋肉	0.02	

食品名	残留基準値 ppm
鶏の脂肪	0.08
その他の家きんの脂肪	0.08
鶏の肝臓	0.07
その他の家きんの肝臓	0.07
鶏の腎臓	0.07
その他の家きんの腎臓	0.07
鶏の食用部分	0.07
その他の家きんの食用部分	0.07
鶏の卵	0.2
その他の家きんの卵	0.2
魚介類	0.05

## 農薬評価書

# クロラントラニリプロール (第5版)

2017年4月  
食品安全委員会

## 目 次

	頁
○ 審議の経緯 .....	4
○ 食品安全委員会委員名簿 .....	6
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿 .....	6
○ 要 約 .....	10
I. 評価対象農薬の概要 .....	11
1. 用途 .....	11
2. 有効成分の一般名 .....	11
3. 化学名 .....	11
4. 分子式 .....	11
5. 分子量 .....	11
6. 構造式 .....	11
7. 開発の経緯 .....	12
II. 安全性に係る試験の概要 .....	13
1. 動物体体内運命試験 .....	13
(1) ラット .....	13
(2) ニワトリ .....	18
(3) ヤギ .....	19
2. 植物体体内運命試験 .....	19
(1) 水稻 .....	19
(2) りんご .....	20
(3) レタス .....	21
(4) トマト .....	22
3. 土壤中運命試験 .....	23
(1) 好気的湛水土壤中運命試験 .....	23
(2) 好気的土壤中運命試験 .....	24
(3) 土壤吸着試験 .....	24
4. 水中運命試験 .....	25
(1) 加水分解試験 .....	25
(2) 水中光分解試験 (滅菌緩衝液及び自然水) .....	25
5. 土壤残留試験 .....	26
6. 作物等残留試験 .....	26
(1) 作物残留試験 (国内) .....	26
(2) 作物残留試験 (海外) .....	27

（3）畜産物残留試験（海外） .....	27
（4）魚介類における最大推定残留値 .....	28
（5）後作物残留試験 .....	28
（6）推定摂取量 .....	29
7. 一般薬理試験 .....	29
8. 急性毒性試験 .....	30
（1）急性毒性試験 .....	30
（2）急性神経毒性試験 .....	31
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験 .....	31
10. 亜急性毒性試験 .....	31
（1）90日間亜急性毒性試験（ラット） .....	31
（2）90日間亜急性毒性試験（マウス）<参考資料> .....	32
（3）90日間亜急性毒性試験（イヌ） .....	32
（4）90日間亜急性神経毒性試験（ラット） .....	33
（5）28日間亜急性経皮毒性試験（ラット） .....	33
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験 .....	34
（1）1年間慢性毒性試験（イヌ） .....	34
（2）2年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット） .....	34
（3）18か月間発がん性試験（マウス） .....	35
12. 生殖発生毒性試験 .....	36
（1）2世代繁殖試験（ラット） .....	36
（2）発生毒性試験（ラット） .....	37
（3）発生毒性試験（ウサギ） .....	37
13. 遺伝毒性試験 .....	37
14. その他の試験 .....	39
（1）14日間亜急性毒性試験（ラット）：肝薬物代謝酵素誘導 .....	39
（2）28日間亜急性毒性試験（ラット）：肝薬物代謝酵素誘導 .....	39
（3）28日間亜急性毒性試験（イヌ）：肝薬物代謝酵素誘導 .....	40
（4）28日間亜急性毒性試験（マウス）：肝薬物代謝酵素誘導 .....	41
（5）副腎皮質の透過型電子顕微鏡を用いた観察（ラット） .....	41
（6）28日間亜急性経皮毒性試験（ラット）：副腎機能検査 .....	42
（7）28日間免疫毒性試験（ラット） .....	42
（8）28日間免疫毒性試験（マウス） .....	43
III. 食品健康影響評価 .....	44
・別紙1：代謝物/分解物略称 .....	49

・別紙 2 : 検査値等略称	51
・別紙 3 : 作物残留試験成績（国内）	52
・別紙 4 : 作物残留試験成績（海外）	71
・別紙 5 : 畜産物残留試験成績	82
・別紙 6 : 推定摂取量	86
・参照	89

## ＜審議の経緯＞

### －第1版関係－

2008年 3月 10日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（新規：水稻、りんご等）  
2008年 3月 25日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安第 0325001 号）、関係書類の接受（参照 1~49、81）  
2008年 3月 27日 第 231 回食品安全委員会（要請事項説明）  
2008年 7月 11日 第 22 回農薬専門調査会総合評価第二部会  
2008年 7月 23日 インポートトレランス申請（ばれいしょ、ほうれんそう等）  
2008年 8月 4日 関係書類の接受（参照 50）  
2008年 8月 19日 第 42 回農薬専門調査会幹事会  
2008年 8月 28日 第 252 回食品安全委員会（報告）  
2008年 8月 28日 から 9月 26 日まで 国民からの意見・情報の募集  
2008年 10月 6日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告  
2008年 10月 9日 第 257 回食品安全委員会（報告）  
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 51）  
2009年 7月 22日 初回農薬登録（芝）  
2009年 9月 28日 残留農薬基準告示（参照 52）

### －第2版関係－

2010年 7月 12日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：だいこん、かぶ等）  
2010年 7月 14日 インポートトレランス申請（米、かんきつ類、魚介類等）  
2010年 8月 11日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安 0811 第 3 号）  
2010年 8月 12日 関係書類の接受（参照 53~62）  
2010年 8月 19日 第 344 回食品安全委員会（要請事項説明）  
2011年 4月 15日 第 71 回農薬専門調査会幹事会  
2011年 6月 14日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告  
2011年 6月 16日 第 386 回食品安全委員会（報告）  
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 63）  
2012年 12月 28日 残留農薬基準告示（参照 70）

### －第3版関係－

2012年 4月 16日 インポートトレランス申請（みかん、ラズベリー等）

2012年 5月 9日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡  
及び基準値設定依頼（適用拡大：さといも、やまのいも等）

2012年 7月 18日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評  
価について要請（厚生労働省発食安 0718 第 3 号）

2012年 7月 18日 関係書類の接受（参照 64～67）

2012年 7月 23日 第 440 回食品安全委員会（要請事項説明）

2012年 11月 5日 追加資料受理（参照 68）

2012年 11月 12日 第 453 回食品安全委員会（審議）  
(同日付け厚生労働大臣へ通知)（参照 69）

2013年 10月 22日 残留農薬基準告示（参照 71）

#### －第 4 版関係－

2014年 1月 24日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡  
及び基準値設定依頼（適用拡大：オクラ及びしょうが）

2014年 3月 20日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評  
価について要請（厚生労働省発食安 0320 第 3 号）

2014年 3月 25日 関係書類の接受（参照 72～74）

2014年 3月 31日 第 509 回食品安全委員会（要請事項説明）

2014年 4月 2日 追加資料受理（参照 75）

2014年 6月 24日 第 519 回食品安全委員会（審議）  
(同日付け厚生労働大臣へ通知)（参照 77）

2015年 5月 19日 残留農薬基準告示（参照 78）

#### －第 5 版関係－

2016年 7月 1日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡  
及び基準値設定依頼〔適用拡大：せり科葉菜類（パセリ  
を除く）及びパセリ〕

2016年 11月 14日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評  
価について要請（厚生労働省発生食 1114 第 2 号）、  
関係書類の接受（参照 79、80、82、83）

2016年 11月 22日 第 630 回食品安全委員会（要請事項説明）

2017年 1月 30日 第 61 回農薬専門調査会評価第三部会

2017年 2月 16日 第 145 回農薬専門調査会幹事会

2017年 3月 7日 第 641 回食品安全委員会（報告）

2017年 3月 8日 から 4月 6 日まで 国民からの意見・情報の募集

2017年 4月 12日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告

2017年 4月 18日 第646回食品安全委員会（報告）  
(同日付け厚生労働大臣へ通知)

＜食品安全委員会委員名簿＞

(2009年6月30日まで)	(2011年1月6日まで)	(2012年6月30日まで)
見上 彪（委員長）	小泉直子（委員長）	小泉直子（委員長）
小泉直子（委員長代理*）	見上 彪（委員長代理*）	熊谷 進（委員長代理*）
長尾 拓	長尾 拓	長尾 拓
野村一正	野村一正	野村一正
畠江敬子	畠江敬子	畠江敬子
廣瀬雅雄**	廣瀬雅雄	廣瀬雅雄
本間清一	村田容常	村田容常

\* : 2007年2月1日から

\*\* : 2007年4月1日から

\* : 2009年7月9日から

\* : 2011年1月13日から

(2015年6月30日まで)	(2017年1月6日まで)	(2017年1月7日から)
熊谷 進（委員長）	佐藤 洋（委員長）	佐藤 洋（委員長）
佐藤 洋（委員長代理）	山添 康（委員長代理）	山添 康（委員長代理）
山添 康（委員長代理）	熊谷 進	吉田 緑
三森国敏（委員長代理）	吉田 緑	山本茂貴
石井克枝	石井克枝	石井克枝
上安平冽子	堀口逸子	堀口逸子
村田容常	村田容常	村田容常

＜食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿＞

(2008年3月31日まで)

鈴木勝士（座長）	三枝順三	西川秋佳**
林 真（座長代理*）	佐々木有	布柴達男
赤池昭紀	代田眞理子****	根岸友恵
石井康雄	高木篤也	平塚 明
泉 啓介	玉井郁巳	藤本成明
上路雅子	田村廣人	細川正清
臼井健二	津田修治	松本清司
江馬 真	津田洋幸	柳井徳磨
大澤貫寿	出川雅邦	山崎浩史
太田敏博	長尾哲二	山手丈至
大谷 浩	中澤憲一	與語靖洋

小澤正吾	納屋聖人	吉田 緑
小林裕子	成瀬一郎***	若栗 忍
		* : 2007年4月11日から
		** : 2007年4月25日から
		*** : 2007年6月30日まで
		**** : 2007年7月1日から

(2010年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)	佐々木有	平塚 明
林 真 (座長代理)	代田眞理子	藤本成明
相磯成敏	高木篤也	細川正清
赤池昭紀	玉井郁巳	堀本政夫
石井康雄	田村廣人	松本清司
泉 啓介	津田修治	本間正充
今井田克己	津田洋幸	柳井徳磨
上路雅子	長尾哲二	山崎浩史
臼井健二	中澤憲一*	山手丈至
太田敏博	永田 清	與語靖洋
大谷 浩	納屋聖人	義澤克彦**
小澤正吾	西川秋佳	吉田 緑
川合是彰	布柴達男	若栗 忍
小林裕子	根岸友惠	
三枝順三***	根本信雄	

\* : 2009年1月19日まで  
\*\* : 2009年4月10日から  
\*\*\* : 2009年4月28日から

(2012年3月31日まで)

納屋聖人 (座長)	佐々木有	平塚 明
林 真 (座長代理)	代田眞理子	福井義浩
相磯成敏	高木篤也	藤本成明
赤池昭紀	玉井郁巳	細川正清
浅野 哲**	田村廣人	堀本政夫
石井康雄	津田修治	本間正充
泉 啓介	津田洋幸	増村健一**
上路雅子	長尾哲二	松本清司
臼井健二	永田 清	柳井徳磨
太田敏博	長野嘉介*	山崎浩史

小澤正吾  
川合是彰  
川口博明  
桑形麻樹子\*\*\*  
小林裕子  
三枝順三

西川秋佳  
布柴達男  
根岸友惠  
根本信雄  
八田稔久

山手丈至  
與語靖洋  
義澤克彦  
吉田 緑  
若栗 忍

\* : 2011 年 3 月 1 日まで

\*\* : 2011 年 3 月 1 日から

\*\*\* : 2011 年 6 月 23 日から

(2016 年 4 月 1 日から)

・幹事会

西川秋佳 (座長)  
納屋聖人 (座長代理)  
浅野 哲  
小野 敦

三枝順三  
代田眞理子  
清家伸康  
中島美紀

長野嘉介  
林 真  
本間正充  
與語靖洋

・評価第一部会

浅野 哲 (座長)  
平塚 明 (座長代理)  
堀本政夫 (座長代理)  
相磯成敏  
小澤正吾

桑形麻樹子  
佐藤 洋  
清家伸康  
豊田武士  
林 真

平林容子  
本多一郎  
森田 健  
山本雅子  
若栗 忍

・評価第二部会

三枝順三 (座長)  
小野 敦 (座長代理)  
納屋聖人 (座長代理)  
腰岡政二  
杉原数美

高木篤也  
中島美紀  
中島裕司  
中山真義  
根岸友惠

八田稔久  
福井義浩  
本間正充  
美谷島克宏  
義澤克彦

・評価第三部会

西川秋佳 (座長)  
長野嘉介 (座長代理)  
與語靖洋 (座長代理)  
石井雄二  
太田敏博

加藤美紀  
川口博明  
久野壽也  
篠原厚子  
代田眞理子

高橋祐次  
塚原伸治  
中塚敏夫  
増村健一  
吉田 充

〈第 61 回農薬専門調査会評価第三部会専門参考人名簿〉

玉井郁巳

山手丈至

＜第145回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿＞

赤池昭紀

永田 清

松本清司

上路雅子

## 要 約

アントラニリックジアミド系殺虫剤である「クロラントラニリプロール」(CAS No. 500008-45-7)について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験（コリアンダー）及び畜産物残留試験（ニワトリ）の成績等が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命（ラット、ニワトリ及びヤギ）、植物体内運命（水稻、りんご等）、作物等残留、亜急性毒性（ラット及びイヌ）、亜急性神経毒性（ラット）、慢性毒性（イヌ）、慢性毒性/発がん性併合（ラット）、発がん性（マウス）、2世代繁殖（ラット）、発生毒性（ラット及びウサギ）、免疫毒性（ラット及びマウス）、遺伝毒性等の試験成績である。

各種毒性試験結果から、クロラントラニリプロールの毒性は低く、投与による影響は主に肝臓（小葉中心性肝細胞肥大、変異肝細胞巣等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性、免疫毒性及び遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をクロラントラニリプロール（親化合物のみ）と設定した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、マウスを用いた18か月間発がん性試験の158 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した1.5 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

また、クロラントラニリプロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったため、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

## I. 評価対象農薬の概要

### 1. 用途

殺虫剤

### 2. 有効成分の一般名

和名：クロラントラニリプロール

英名：chlorantraniliprole (ISO名)

### 3. 化学名

#### IUPAC

和名：3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1*H*-ピラゾール-5-カルボキサミド

英名：3-bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-(methylcarbamoyl)phenyl]-1-(3-chloropyridin-2-yl)-1*H*-pyrazole-5-carboxamide

#### CAS (No.500008-45-7)

和名：3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1*H*-ピラゾール-5-カルボキサミド

英名：3-bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-[(methylamino)carbonyl]phenyl]-1-(3-chloro-2-pyridinyl)-1*H*-pyrazole-5-carboxamide

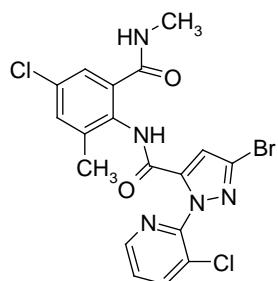
### 4. 分子式

C<sub>18</sub>H<sub>14</sub>BrCl<sub>2</sub>N<sub>5</sub>O<sub>2</sub>

### 5. 分子量

483.15

### 6. 構造式



## 7. 開発の経緯

クロラントラニリプロールは、米国デュポン社により開発されたアントラニリックジアミド系殺虫剤であり、鱗翅目、双翅目及び一部の鞘翅目害虫に殺虫活性を示す。作用機構は、昆虫の筋肉細胞内のカルシウムチャンネル（リアノジン受容体）に作用してカルシウムイオンを放出させ筋収縮を起こし、その結果、昆虫は速やかに活動停止し、死に至る。我が国では 2009 年に初回農薬登録され、海外では米国、カナダ等で登録されている。

今回、農薬取締法に基づく農薬登録申請〔適用拡大：せり科葉菜類（パセリを除く）及びパセリ〕がなされている。

## II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験 [II. 1~4] は、クロラントラニリプロールのベンズアミドカルボニル基の炭素を  $^{14}\text{C}$  で標識したもの（以下「[ben- $^{14}\text{C}$ ]クロラントラニリプロール」という。）及びピラゾールカルボニル基の炭素を  $^{14}\text{C}$  で標識したもの（以下「[pyr- $^{14}\text{C}$ ]クロラントラニリプロール」という。）を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）からクロラントラニリプロールの濃度 (mg/kg 又は  $\mu\text{g/g}$ ) に換算した値として示した。

代謝物/分解物略称及び検査値等略称は別紙 1 及び 2 に示されている。

### 1. 動物体内運命試験

#### (1) ラット

##### ① 吸収

###### a. 血中濃度推移

SD ラット（一群雌雄各 4 匹）に [ben- $^{14}\text{C}$ ]クロラントラニリプロール及び [pyr- $^{14}\text{C}$ ]クロラントラニリプロールの等量混合液を 10 mg/kg 体重（以下 [1. (1)]において「低用量」という。）若しくは 200 mg/kg 体重（以下 [1. (1)]において「高用量」という。）で単回経口投与、又は SD ラット（一群雌雄各 3 匹）に同混合液を低用量で 14 日間経口投与（以下 [1. (1)]において「反復投与」という。）して、血中濃度推移が検討された。反復投与群については、単回投与試験で雌の組織中残留放射能濃度が雄より高かったことから、雌について多くの時点で試料を採取し、血中濃度推移が検討された。

血漿中及び赤血球中薬物動態学的パラメータは表 1 に示されている。

単回経口投与されたクロラントラニリプロールは速やかな吸収の後、 $T_{1/2}$  は 35~80 時間程度とやや遅い消失を示し、反復投与では経時的な血漿及び全血中濃度の上昇がみられた。血漿中における  $T_{1/2}$  は雌より雄の方が短かったが、用量間の差は少なかった。低用量群と高用量群の  $C_{\max}$  の比較から、高用量群の吸収率は低下すると考えられた。赤血球中の濃度は血漿中濃度より低いことから、赤血球へ蓄積する可能性は低いと考えられた。

反復投与群では、血漿中及び赤血球中濃度は最終投与時まで増加し、投与終了時点においてもプラトーに達せず、 $T_{\max}$  は 24 時間であった。これらの放射能濃度は反復投与終了後減少した。雌における血漿中  $T_{1/2}$  は、単回投与群の約 2 倍の 173 時間に延長した。（参照 2）

表1 血漿中及び赤血球中薬物動態学的パラメータ

投与群		単回投与			反復投与
投与量		10 mg/kg 体重		200 mg/kg 体重	10 mg/kg 体重/日
性別		雄	雌	雄	雌
血漿	T <sub>max</sub> (hr)	5	9	11	12
	C <sub>max</sub> (μg/g)	3.3	5.4	5.8	7.7
	T <sub>1/2</sub> (hr)	37.5	82.4	42.9	77.9
	AUC(hr·μg/g)	116	493	429	766
赤血球	T <sub>max</sub> (hr)	4	6	6	10
	C <sub>max</sub> (μg/g)	1.9	3.0	2.7	3.7
	T <sub>1/2</sub> (hr)	34.8	61.4	39.0	65.4
	AUC(hr·μg/g)	46	155	152	235

\* : 単位は day · μg/mL

## b. 吸收率

胆汁中排泄試験 [1. (1)④b] における単回経口投与後 48 時間の尿（ケージ洗浄液を含む）、胆汁及びカーカス<sup>1</sup>（消化管を含む）の放射能の合計から、吸収率は低用量群で 76.2%～88.0%、高用量群で 16.5%～18.0%と算出された。（参照 2）

## ②分布

SD ラット（一群雌雄各 4 匹）に[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合液を低用量又は高用量で単回経口投与し、T<sub>max</sub> 時又は T<sub>max</sub>[1/2]時に得られた臓器及び組織、排泄試験 [1. (1)④a.]において投与 168 時間後に得られた臓器及び組織並びに反復投与群については、T<sub>max</sub> 時及び投与 21 日後に得られた臓器及び組織を用いて体内分布試験が実施された。

主要臓器及び組織中の残留放射能濃度は表 2 に示されている。

単回投与後の組織中放射能濃度は、低用量群では肝臓、消化管及び副腎において高く、そのほかに下垂体、膀胱及び脂肪において高かった。その後、いずれの組織においても経時的に減少し、投与 168 時間後には全ての組織において低濃度となり、クロラントラニリプロール及び代謝物に蓄積性はないと考えられた。高用量群でも、低用量群と同様の分布がみられ、投与 168 時間後には全ての組織において血漿中濃度より低い値となった。雌雄で比較すると、いずれの用量でも、雌の方が雄よりも組織中残留濃度が高い傾向が認められた。これは、雌より雄の T<sub>1/2</sub>が短いこと及び雄の尿中排泄率が僅かに大きいことに起因すると考えられた。

<sup>1</sup> 組織及び臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという（以下同じ。）。

反復投与群では、雄と比較して、雌においてより高濃度の放射能が組織に残留する傾向が認められた。しかし、雌雄いずれにも血漿中濃度より高い放射能濃度を示した臓器及び組織は認められず、投与期間終了後に経時的に減少したことから、ラットの体内にクロラントラニリプロール及び代謝物は蓄積しないと考えられた。（参照 2）

表 2 主要臓器及び組織中の残留放射能濃度（ $\mu\text{g/g}$ ）

投与群	投与量	性別	$T_{\max}^*$	単回投与群：投与 168 時間後 反復投与群：投与 21 日後
単回投与	10 mg/kg 体重	雄	肝臓(20.0)、消化管(13.8)、膀胱(9.91)、副腎(8.59)、血漿(4.00)、全血(2.99)	血漿(0.14)、肝臓(0.14)、その他(0.1 未満)
		雌	肝臓(17.4)、下垂体(13.8)、消化管(11.9)、副腎(11.6)、脂肪(8.06)、血漿(5.18)	血漿(2.01)、全血(1.13)、その他(1.0 未満)
	200 mg/kg 体重	雄	消化管(52.7)、肝臓(31.1)、下垂体(25.3)、甲状腺(14.2)、副腎(14.2)、膀胱(12.7)、カーカス(9.81)、血漿(8.76)	血漿(0.74)、その他(0.7 以下)
		雌	消化管(57.8)、下垂体(52.3)、肝臓(40.7)、甲状腺(36.0)、副腎(30.8)、脂肪(20.1)、卵巢(16.9)、膀胱(16.2)、カーカス(14.7)、血漿(14.6)、腎臓(11.9)	血漿(5.45)、全血(3.09)、その他(3.0 以下)
反復投与	10 mg/kg 体重/日	雄	血漿(4.6)、肝臓(4.5)	血漿(0.6)、その他(0.5 未満)
		雌	血漿(32.0)、全血(17.8)、肝臓(17.3)	血漿(14.0)、その他(10.0 未満)

\*：単回投与群の低用量投与群雄は投与 5 時間後、雌は投与 9 時間後、高用量投与群雄は投与 11 時間後、雌は 9 時間後、反復投与群は投与 15 日後。

### ③代謝

尿及び糞中排泄試験[1. (1)④a.]で得られた投与 6~12 時間後の尿及び糞並びに胆汁中排泄試験[1. (1)④b.]で得られた投与 6~12 時間後胆汁を用いて代謝物同定・定量試験が実施された。

尿、糞及び胆汁中の代謝物は表 3 に示されている。

クロラントラニリプロールは広範に代謝され、特に胆汁中のクロラントラニリプロール分布割合が低いことから、肝臓において広範に代謝されることが示唆された。

クロラントラニリプロールのラットにおける主な代謝経路は、(1) *N*-メチル基の水酸化による代謝物 C の生成、その後のベンゼン環メチル基の水酸化に

による代謝物 G の生成又は N-脱ヒドロキシメチル化による代謝物 M の生成とアミド結合の加水分解による代謝物 B の生成、(2)ベンゼン環メチル基の水酸化による代謝物 D の生成、その後のアルコール酸化による代謝物 L の生成とベンゼン環及びピラゾール環の間に位置するアミド結合の開裂による代謝物 A 及び K の生成、さらに(3)代謝物 C 及び D のグルクロン酸抱合に至る経路が考えられた。(参照 2)

表 3 尿、糞及び胆汁中の代謝物 (%TAR)

投与群	投与量	性別	試料	クロラントラニリプロール	代謝物
単回投与	10 mg/kg 体重	雄	尿	0.5	G(7.4)、D(4.6)、A(2.9)、H(2.7)、L(1.7)、B(0.6)、D'(0.6)、K(0.6)、C(0.3)、I(0.1)、未同定代謝物(6.2)
			糞	4.5	G(10.4)、L(8.9)、D(7.4)、H(2.7)、A(1.9)、J(1.9)、C(1.4)、D'(1.1)、F(1.0)、I(0.8)、未同定代謝物(16.7)
			胆汁	0	J(2.0)、L(1.7)、E'(1.6)、I(1.2)、D'(1.1)、G'(0.5)、A(0.4)、H'(0.3)、D(0.2)、G(0.1)、未同定代謝物(2.2)
		雌	尿	0.6	H(3.7)、C(3.4)、A(2.8)、D(2.4)、G(2.2)、B(0.9)、D'(0.7)、K(0.7)、未同定代謝物(5.4)
			糞	6.7	C(15.0)、H(4.9)、G(4.8)、A(3.7)、M(3.7)、D(3.5)、D'(1.7)、K(1.3)、未同定代謝物(14.5)
			胆汁	0.1	C'(4.4)、D'(3.2)、J'(0.6)、G(0.4)、E'(0.3)、C(0.3)、M(0.3)、B(0.2)、未同定代謝物(7.8)
	200 mg/kg 体重	雄	尿	0.3	G(1.0)、D(0.7)、A(0.4)、H(0.4)、D'(0.3)、L(0.3)、C(0.1)、I(0.1)、K(0.1)、J(0.02)、B(0.01)、未同定代謝物(1.2)
			糞	78.6	D(1.8)、未同定代謝物(9.6)
		雌	尿	0.1	C(0.4)、H(0.4)、D(0.3)、G(0.3)、A(0.2)、B(0.2)、D'(0.1)、K(0.1)、未同定代謝物(1.2)
			糞	85.3	C(3.0)、D(1.1)、未同定代謝物(1.6)
反復投与	10 mg/kg 体重/日	雄	尿	0.8	G(4.0)、D(3.0)、A(1.5)、E(0.9)、H(0.9)、L(0.8)、I(0.6)、D'(0.4)、K(0.3)、F(0.1)、B(0.04)、C(0.03)、未同定代謝物(3.2)
			糞	37.8	G(7.3)、D(7.1)、L(6.9)、E(1.5)、C(1.2)、未同定代謝物(7.6)

	雌	尿	0.2	C(1.3)、H(1.3)、A(1.2)、D(1.1)、G(1.1)、B(0.8)、E(0.4)、K(0.4)、D'(0.3)、M(0.3)、I(0.1)、未同定代謝物(3.2)
		糞	54.9	C(9.8)、D(2.3)、E(2.2)、M(1.9)、G(1.5)、N(1.4)、未同定代謝物(4.0)

C'、D'、E'、G'、H'、J'：各代謝物のグルクロン酸抱合体。

#### ④排泄

##### a. 尿及び糞中排泄

SD ラット (一群雌雄各 4 匹) に [ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び [pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合液を低用量若しくは高用量で単回経口投与、又は反復投与して、排泄試験が実施された。

尿及び糞中排泄率は、表 4 に示されている。

単回投与群では、いずれの用量においても、投与放射能は投与 48~72 時間後までに大部分が排泄され、主に糞中に排泄された。反復投与群においても、単回投与群と同様に主に糞中に排泄された。（参照 2）

表 4 尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与群	単回投与								反復投与			
	投与量		10 mg/kg 体重		200 mg/kg 体重		10 mg/kg 体重/日		性別		雄	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
試料	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞
最終試料	29.2	62.0	23.8	64.3	5.2	91.6	3.8	91.0	16.7	72.9	12.1	81.6

\*：単回投与群は投与 168 時間後、反復投与群は最終投与 6 日後。

##### b. 胆汁中排泄

胆管カニュレーションした SD ラット (低用量群：雌雄各 5 匹、高用量群：雌雄各 4 匹) に [ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び [pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合液を低用量又は高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率並びに投与 48 時間後の消化管内容物及びカーカス中の放射能残存率は表 5 に示されている。

尿中排泄率は非カニュレーションラット [1. (1) ④a.] とほぼ同等の割合であることから、腸肝循環はほとんどないと考えられた。また、糞中排泄されたクロラントラニリプロールは低用量投与では胆汁中経由で、高用量投与では未吸収で排泄されたと考えられた。（参照 2）

表 5 投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率並びに投与 48 時間後の消化管  
内容物及びカーカス中の放射能残存率(%TAR)

投与群	性別	胆汁	尿 <sup>a</sup>	糞	消化管 内容物	カーカ ス <sup>b</sup>
10 mg/kg 体重	雄	52.7	33.0	10.1	0.6	2.3
	雌	49.1	21.2	19.7	0.6	5.9
200 mg/kg 体重	雄	6.7	8.4	54.7	23.8	2.9
	雌	5.0	8.5	70.8	7.2	3.0

<sup>a</sup> : ケージ洗浄液を含む。

<sup>b</sup> : 消化管を含む。

## (2) ニワトリ

イサブラウン産卵鶏（一群 5 羽）に[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール又は[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールを 10 mg/kg 飼料相当で 1 日 1 回、14 日間連続カプセル経口投与して、動物体内運命試験が実施された。卵及び排泄物は 1 日 1 回採取し、最終投与 23 時間後にと殺して、臓器及び組織を採取した。

排泄物中の投与開始後 14 日における総回収率は 98.5%TAR であり、主要な排泄経路であると考えられた。

卵白では投与開始後 5 日で 1.33 μg/g の残留放射能が検出され、残りの期間もほぼ同様な濃度で推移し、投与開始後 14 日の総回収率は 2.96%TAR であった。

卵黄では残留放射能濃度は投与開始後徐々に増加し、投与開始後 8 日で 0.56 μg/g に達し平衡状態となり、投与開始後 14 日の総回収率は 0.38%TAR であった。

臓器及び組織中残留放射能濃度は肝臓で最も高く 0.52 μg/g であり、筋肉で 0.022 μg/g、腹腔内脂肪で 0.035 μg/g、皮膚（脂肪を含む）で 0.052 μg/g であった。

卵白、卵黄、臓器及び組織中（筋肉を除く）には未変化のクロラントラニリプロールがそれぞれ 0.36~0.41、0.059~0.11 及び 0.007~0.046 μg/g 認められたが、筋肉中では 0.001 μg/g 未満であった。主要代謝物として卵白で M が 0.12 μg/g (9.23%TRR)、N が 0.55 μg/g (40.4%TRR)、卵黄で C が 0.078 μg/g (16.6%TRR)、E が 0.112 μg/g (24.0%TRR)、肝臓で B が 0.021 μg/g (3.96%TRR) 認められた。（参照 55）

### (3) ヤギ

ブリティッシュ/ザーネン種ヤギ（一群 1 頭）に[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール又は[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールを 10 mg/kg 飼料相当で 1 日 1 回、7 日間連続カプセル経口投与して、動物体内運命試験が実施された。排泄物は 24 時間間隔で 7 回、乳汁は 1 日 2 回採取し、最終投与 23 時間後にと殺して臓器及び組織を採取した。

投与開始後 7 日の総回収率は糞中で 78.9%TAR、尿中で 10.7%TAR、乳汁中で 0.79%TAR、胆汁中で 0.07%TAR であり、主に糞中へ排泄されると考えられた。

乳汁の残留放射能濃度は投与開始後 2～3 日で最高 0.081 µg/g に達した後減少し、投与後 7 日で 0.047 µg/g であった。可食部では肝臓が最も高く 0.64 µg/g であり、筋肉で 0.017 µg/g、脂肪（大網脂肪、腎周囲脂肪及び皮下脂肪の平均値）で 0.068 µg/g、腎臓で 0.09 µg/g であった。

乳汁及び各組織中には未変化のクロラントラニリプロールがそれぞれ 0.016 及び 0.007～0.040 µg/g 認められた。主要代謝物として肝臓で K が 0.048 µg/g (7.54%TRR) 認められた。（参照 55）

クロラントラニリプロールの畜産動物（ニワトリ及びヤギ）における主な代謝経路は、(1) N-メチル基の水酸化による代謝物 C の生成、その後の N-脱ヒドロキシメチル化による代謝物 M の生成とアミド結合の加水分解による代謝物 B の生成、(2) ベンゼン環メチル基の水酸化による代謝物 D の生成、その後のアルコールの酸化による代謝物 L の生成とベンゼン環及びピラゾール環の間に位置するアミド結合の開裂による代謝物 A 及び K の生成、代謝物 K の脱水縮合による代謝物 X の生成、(3) 脱水縮合による代謝物 O の生成、さらに代謝物 C、D 及び L から脱水縮合による代謝物 N、F 及び I の生成が考えられた。

## 2. 植物体体内運命試験

### (1) 水稻

プラスチック製容器に水稻（品種名：Montsianell）を播種し、播種 16 日後（1～2 葉期）にプロアブル剤に調製した[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合液を 300 g ai/ha の用量で土壤表面に処理した。処理 2 日後に湛水し、処理 14、28、56 及び 132（成熟期）日後に植物全体を採取して、植物体内運命試験が実施された。未熟植物は葉身、葉鞘及び根、成熟植物は葉身、葉鞘、根及び花序に分けて試料とされた。

採取試料各部位の総残留放射能濃度は表 6 に示されている。

処理後日数に伴って、根及び葉身の放射能濃度が増加したことから、土壤中の放射能は根から吸収され、地上部へ移行すると考えられた。可食部である玄米の残留放射能濃度は 0.16 mg/kg であった。

処理 132 日後の葉身中の主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、52.3%TRR (2.12 mg/kg) を占めた。代謝物として O をはじめとする 16 種類が検出されたが、代謝物 O が最大 6.1%TRR 検出された以外は 5%TRR 未満であった。葉鞘においても、主要成分は未変化のクロラントラニリプロール (64.9%TRR) であり、ほかに O 等 6 種類の代謝物が検出されたが、いずれも 5.3%TRR 以下であった。葉身及び葉鞘の結果から、わらとしての代謝物の分布を計算した。その結果、未変化のクロラントラニリプロールが 53.8%TRR (0.49 mg/kg) であり、代謝物は N が最大で 5.4%TRR (0.049 mg/kg) 検出された。もみ殻においても主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり (66.3%TRR、0.12 mg/kg) 、ほかに O 等 3 種類の代謝物が検出されたが、いずれも 3.2%TRR 以下であった。玄米中においても主要成分は未変化のクロラントラニリプロール (51.4%TRR、0.08 mg/kg) であり、ほかに K、Q 等 5 種類の代謝物が検出されたが、いずれも 1.8%TRR 以下であった。また、わら中には玄米及びもみ殻に検出されなかった代謝物 S が 1.1%TRR 検出された。これはラットにおいて検出されなかった代謝物であった。

水稻における主要代謝経路として、(1) *N*-メチル基の水酸化による代謝物 C の生成、又はベンゼン環メチル基の水酸化による代謝物 D の生成、(2) 脱水縮合による代謝物 O の生成、さらに *N*-脱メチル化による代謝物 N の生成、(3) 代謝物 C のヒドロキシメチルアミド基の *N*-脱ヒドロキシメチル化による代謝物 M の生成、(4) ベンゼン環及びピラゾール環の間に位置するアミド結合の開裂による代謝物 A 及び K の生成が考えられた。 (参照 3)

表 6 採取試料各部位の総残留放射能濃度 (mg/kg)

試料採取時期	採取試料部位					
	葉身	葉鞘	根	もみ殻	玄米	わら*
処理 14 日後	0.34	0.17	0.07			
処理 56 日後	1.27	0.08	0.21			
処理 132 日後	4.06	0.13	0.28	0.17	0.16	0.90

\* : 葉身及び葉鞘の合計、それぞれの重量に基づいて計算した。

## (2) りんご

温室内のプラスチックポットで栽培したりんご (品種名 : Braeburn) 樹の茎葉にフロアブル剤に調製した [ben-<sup>14</sup>C] クロラントラニリプロール又は

[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールを 300 g ai/ha の用量 (100 g ai/ha × 3 回) で散布して、葉及び果実を採取し、植物体内運命試験が実施された (各処理の間隔及び試料採取時期は表 7 を参照)。

表 7 各処理の間隔及び試料採取時期

処理回数	処理間隔	試料採取時期
1	—	処理直後
2	28 日	処理直前及び処理直後
3	42 日	処理直前、処理直後、処理 15 日後及び処理 30 日後

試料中の総残留放射能は表 8 に示されている。果実及び葉試料のいずれにおいても、残留放射能は主に表面洗浄液に存在し、抽出液中の放射能濃度は比較的少ない場合がほとんどであった。標識体による差は認められなかった。

表面洗浄液及び抽出液中の同定可能な化合物は、いずれの試料においても未変化のクロラントラニリプロールのみであり、第 3 回処理 30 日後の果実試料では 80%TRR 以上を占めていた。代謝物の量は僅かで、数種の未同定代謝物の存在が示唆されたものの、極めて微量のため同定できなかった。これらの未同定代謝物は、いずれも単独で 0.8%TRR 以下であった。 (参照 4)

表 8 試料中の総残留放射能 (%TRR)

標識体	[ben- <sup>14</sup> C]クロラン トラニリプロール		[pyr- <sup>14</sup> C]クロラン トラニリプロール	
	試料	葉	果実	葉
表面洗浄液	65.9~86.5	71.9~96.5	37.1~90.7	68.1~95.6
抽出液 1	11.9~29.5	2.4~22.6	6.4~60.7	3.8~28.3
抽出液 2	1.0~4.9	0.5~3.7	0.8~3.5	0.3~4.3

抽出液 1 : アセトニトリル、抽出液 2 : アセトニトリル : 水 (1 : 1)

### (3) レタス

試験ほ場 (1 m × 1.5 m) に播種、栽培したレタス (品種名 : Green Salad Bowl) に、フロアブル剤に調製した[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合液を、合計 300 g ai/ha の用量 [100 g ai/ha × 3 回: 第 1 回処理は播種 5 週後 (発芽 29 日後の 3 葉期)、第 2 回は初回処理から 13 日後 (9 葉期)、第 3 回はさらに 10 日後で成熟の 15 日前] で茎葉散布して、植物体内運命試験が実施された (各処理の間隔及び試料採取時期は表 9 を参照)。

表 9 各処理の間隔及び試料採取時期

処理回数	処理間隔	試料採取時期
1	—	処理直後
2	13 日	処理直前及び処理直後
3	10 日	処理直前、処理直後、処理 7 日後及び処理 15 日後

各回の処理直後には、残留放射能の 66.8%TRR～92.1%TRR が表面洗浄液中に存在した。処理後、時間の経過に伴い植物組織の抽出液中放射能の割合が高くなつたことから、内部への移行が示唆された。第 2 及び 3 回処理直前の表面洗浄液中と抽出液中の残留放射能濃度は前回処理後より減少した。最終処理直後の残留放射能濃度は 1.34 mg/kg であったが、処理 15 日後に収穫した成熟レタスでは 0.30 mg/kg に減少した。この時、成熟レタスの 43.8%TRR の放射能が洗浄により除去された。

いずれの試料においても、主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、80%TRR 以上を占めた。そのほかに数種の未同定代謝物が認められたが、それらは微量であり、いずれも単独で 0.8%TRR 以下であった。（参考 5）

#### （4）トマト

温室内のプラスチック容器に発芽後 19 日目に移植し、栽培したトマト（品種名：Money Maker）に、フロアブル剤に調製した[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール及び[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールの等量混合投与液を、合計 300 g ai/ha の用量（100 g ai/ha×3 回）で茎葉散布し、葉及び果実を採取して植物体内運命試験が実施された（各処理の間隔及び試料採取時期は表 10 を参照）。

表 10 各処理の間隔及び試料採取時期

処理回数	処理間隔	試料採取時期
1	—	処理直後
2	23 日	処理直前及び処理直後
3	27 日	処理直前、処理直後、処理 15 日後 及び処理 30 日後（成熟期）

果実及び葉試料のいずれにおいても、残留放射能は主に表面洗浄液に存在し、抽出液中の放射能濃度は僅かであった。第 3 回処理 15 日後の果実については、78.7%TRR が表面洗浄液に存在し、抽出液中には 21.0%TRR が認

められた。葉についても果実とほぼ同様で、残留放射能は表面洗浄液に 73.4%TRR 存在した。葉及び果実において吸収及び分布の差はなかった。

全ての試料において、主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、85%TRR 以上を占めた。その他に数種の未同定代謝物が認められたが、それらは微量であり、単独で 0.9%TRR 以下であった。（参照 6）

### 3. 土壤中運命試験

#### （1）好気的湛水土壤中運命試験

水深約 1.0 cm の湛水状態にした非滅菌土壤 [埴壌土 (日本)] に [ben-<sup>14</sup>C] クロラントラニリプロール又は [pyr-<sup>14</sup>C] クロラントラニリプロールを 0.3 mg/kg 乾土の用量で土壤混和し、25°C、暗条件下で最長 180 日間インキュベートして、好気的湛水土壤中運命試験が実施された。また、滅菌土壤区が設定された。

各試料中における総残留放射能は表 11 に示されている。

非滅菌土壤では、田面水中の放射能は、全試験期間を通じて両標識体とも経的に減少した。また、土壤抽出液中の放射能は、60 日後に最大値に到達し、180 日後には再び減少した。非抽出性残渣は処理直後では定量限界未満であったが、試験期間中に増加した。両標識体とも 14 日後から <sup>14</sup>CO<sub>2</sub> が検出され、180 日後に 2.4%TAR～2.8%TAR が検出された。

滅菌土壤では、田面水中の放射能は、全試験期間を通じて両標識体とも減少した。また、土壤抽出液中の放射能は 100 日後には最大となった。非抽出性残渣は処理直後では定量限界未満であったが、試験期間中に僅かに増加した。

非滅菌土壤の主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、処理後、水層及び土壤中の合計残留量は緩やかに減少し、処理 180 日後には両標識体において 54.0%TAR～66.7%TAR となった。水層にはいずれの標識体についても、単独で 3%TAR を超える分解物は検出されなかった。土壤には主な分解物として O が同定され、最大 13.1%TAR～13.7%TAR (0.04 mg/kg) 検出された。この分解物以外に、[ben-<sup>14</sup>C] クロラントラニリプロール処理で分解物 M 及び T、[pyr-<sup>14</sup>C] クロラントラニリプロール処理で分解物 M 及び Q が検出、同定されたがいずれも 5%TAR 未満であった。

滅菌土壤では、処理後、未変化のクロラントラニリプロールの残留放射能の減少は僅かであった。処理直後の残留放射能は両標識体において 91.2%TAR～94.3%TAR で、180 日後にそれぞれ 87.4%TAR～90.4%TAR であった。主な分解物は O で、最大 3.0%TAR～5.6%TAR (土壤) であった。これ以外に、分解物 M、Q 及び T 並びに未同定代謝物が検出されたが、いずれも微量であった。

クロラントラニリプロールの推定半減期は非滅菌土壤で 284 日、滅菌土壤で 1,640 日であった。（参照 7）

表 11 各試料中における総残留放射能 (%TAR)

土壤	試料採取時期 (日)	[ben- <sup>14</sup> C]クロラン トラニリプロール			[pyr- <sup>14</sup> C]クロラン トラニリプロール		
		田面水	土壤		田面水	土壤	
			抽出液	残渣		抽出液	残渣
非滅菌 土壤	0	89.9	6.8	<LOQ	88.5	7.6	<LOQ
	60	4.6	79.6	11.8	5.0	81.9	9.9
	180	2.5	68.9	20.1	4.1	74.8	17.3
滅菌 土壤	0	86.4	6.3	<LOQ	89.8	5.9	<LOQ
	100	6.1	90.7	2.8	5.5	92.0	1.2

<LOQ : 定量限界未満

## (2) 好気的土壤中運命試験

砂壤土（米国）の水分含量を最大容水量の 45%に調整し、6 又は 7 日間プレインキュベートした後、[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール又は[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロールを 0.3 mg/kg 乾土の用量で土壤混和し、25±2°C 又は 35±2°C の暗条件下で最長 365 日（25±2°C）又は 240 日間（35±2°C）インキュベートし、好気的土壤中運命試験が実施された。

いずれの試験系においても、未変化のクロラントラニリプロールの時間経過に伴う減少が認められ、365 日後（25°C）及び 240 日後（35°C）において、それぞれ 70.6%TAR～74.9%TAR 及び 62.5%TAR～63.7%TAR となり、クロラントラニリプロールは生物的及び非生物的プロセスにより分解した。最も多く検出された分解物は O で、25°C で最大 8.3%TAR～9.5%TAR、35°C で最大 12.4%TAR～14.7%TAR であった。ほかの主要な分解物として、Q（最大 2.2%TAR～5.2%TAR）及び T（最大 4.9%TAR～8.2%TAR）が認められた。これらは最終的には <sup>14</sup>CO<sub>2</sub> に無機化された。

クロラントラニリプロールの推定半減期は 25°C で 886 日、35°C で 443 日であった。（参照 8）

## (3) 土壤吸着試験

5 種類の土壤 [ 壱質砂土（スペイン及び米国）、シルト質埴壌土（米国）、砂壤土（米国）及び壌土（イタリア）] を用いて土壤吸着試験が実施された。

Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は 1.2～9.2、有機炭素含有率により補正した吸着係数  $K_{oc}$  は 153～526 であった。

また、火山灰土・壤土（茨城）を用いて土壤吸着試験が実施された。

Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は 5.2、有機炭素含有率により補正した吸着係数  $K_{oc}$  は 100 であった。（参照 9）

#### 4. 水中運命試験

##### （1）加水分解試験

pH 4（クエン酸緩衝液）、pH 7（トリスマレイン酸緩衝液）及び pH 9（ホウ酸緩衝液）の各滅菌緩衝液に [ $ben^{-14}C$ ] クロラントラニリプロール又は [ $pyr^{-14}C$ ] クロラントラニリプロールを  $0.6 \mu\text{g}/\text{mL}$  の濃度となるように添加し、恒温槽中で  $25 \pm 1^\circ\text{C}$ 、暗条件下で 30 日間インキュベートして、加水分解試験が実施された。

pH 4 及び 7 の緩衝液中においてクロラントラニリプロールはほとんど分解せず、加水分解に対して安定であった。

pH 9 の緩衝液中においては、クロラントラニリプロールは速やかに分解した（処理 30 日後に 12.8%TAR～13.2%TAR）。分解物として O が検出された（処理 30 日後に 78.7%TAR～86.7%TAR）。

クロラントラニリプロールの pH 9 の緩衝液中における推定半減期は、10 日であると考えられた。（参照 10）

##### （2）水中光分解試験（滅菌緩衝液及び自然水）

滅菌緩衝液（pH 7、リン酸緩衝液）及び滅菌自然水（英國河川水、pH 7.0）に [ $ben^{-14}C$ ] クロラントラニリプロール又は [ $pyr^{-14}C$ ] クロラントラニリプロールを  $0.6 \mu\text{g}/\text{mL}$  の濃度となるように添加し、 $25 \pm 1^\circ\text{C}$  で最長 21 日間キセノンランプ光（光強度：456 W/m<sup>2</sup>、測定波長：300～800 nm）を連続照射して、水中光分解試験が実施された。また、暗所対照区が設定された。

滅菌緩衝液中では、未変化のクロラントラニリプロールは経時に減少し、 [ $ben^{-14}C$ ] クロラントラニリプロール処理では光照射開始直後の 98.6%TAR から光照射 5 日後には検出限界未満に、 [ $pyr^{-14}C$ ] クロラントラニリプロール処理では光照射開始直後の 98.9%TAR から光照射 8 日後には検出限界未満となった。主要分解物として、U、V 及び W がそれぞれ最大で 49.1%TAR～52.8%TAR（1 日後）、38.6%TAR～40.8%TAR（2 及び 5 日後）及び 88.2%TAR～90.2%TAR（15 及び 21 日後）認められた。このうち分解物 U 及び V は 8 及び 15 日後には検出限界未満となった。クロラントラニリプロールの推定半減期は 0.37 日であり、自然太陽光〔北緯 35 度（東京）、春〕換算で 1.70 日であった。暗所対照区では、試験終了時の未変化のクロラントラニリプロールの残留放射能は 93.0%TAR～93.5%TAR であり、分解は僅かであった。

滅菌自然水中では、未変化のクロラントラニリプロールは急速に減少し、

[ben-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール処理では光照射開始直後の 99.4%TAR から光照射 1 日後には 5.8%TAR、[pyr-<sup>14</sup>C]クロラントラニリプロール処理では光照射開始直後の 101%TAR から処理 2 日後に 1.0%TAR となった。主要分解物として、V 及び W がそれぞれ最大で 46.8%TAR～51.4%TAR (12 時間後) 及び 89.3%TAR～94.4%TAR (5 日後) 認められた。分解物 U は最大 3.4%TAR 認められた。クロラントラニリプロールの推定半減期は 0.31 日であり、自然太陽光 [北緯 35 度 (東京)、春] 換算で 1.43 日であった。暗所対照区では、試験終了時の未変化のクロラントラニリプロールの残留放射能は 94.5%TAR～97.2%TAR であり、ほとんど分解されなかった。(参照 11)

## 5. 土壤残留試験

火山灰土・軽埴土 (茨城)、風積土・砂土 (宮崎) 及び沖積土・埴壤土 (高知) を用い、クロラントラニリプロール及び分解物 (O 及び W) を分析対象化合物とした土壤残留試験 (容器内及びほ場試験) が実施された。結果は表 12 に示されている。(参照 12)

表 12 土壤残留試験成績

試験	状態	濃度*	土壤	推定半減期(日)	
				クロラントラニリプロール	クロラントラニリプロール + 分解物 O 及び W
容器内試験	畠地	1.0 mg/kg	火山灰土・軽埴土	約 327	—
			風積土・砂土	—	—
ほ場試験	畠地	450 g ai/ha(1回) 及び 150 g ai/ha(3回) <sup>1)</sup>	火山灰土・軽埴土	約 149	約 161
			風積土・砂土	約 165	約 166
	水田	100 g ai/ha <sup>2)</sup>	火山灰土・軽埴土	約 2	約 2
			沖積土・埴壤土	約 6	約 29

\* : 容器内試験では純品、ほ場試験では<sup>1)</sup>5%水和剤、<sup>2)</sup>1%粒剤を使用。

— : データなし

## 6. 作物等残留試験

### (1) 作物残留試験 (国内)

水稻、野菜、果物、茶等を用い、クロラントラニリプロールを分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。結果は別紙 3 に示されている。

クロラントラニリプロールの最大残留値は、最終散布 3 日後に収穫した茶（荒茶）の 38.8 mg/kg であった。（参照 13、56、66、67、73、74、80、82）

## （2）作物残留試験（海外）

ばれいしょ、キャベツ、ブロッコリー等を用い、クロラントラニリプロールを分析対象化合物とした作物残留試験が米国にて実施された。結果は別紙 4 に示されている。

可食部におけるクロラントラニリプロールの最大残留値は、最終散布 1 日後に収穫したほうれんそう（茎葉）の 9.7 mg/kg であった。（参照 50、57、61、65、68、75）

## （3）畜産物残留試験（海外）

### ①産卵鶏-1

ニワトリの肉類及び卵について、クロラントラニリプロール並びに代謝物 C、E 及び N を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。結果は別紙 5-①に示されている。

クロラントラニリプロールの最大残留値は、全卵における 0.039 µg/g であった。代謝物 C、E 及び N の最大残留値は、それぞれ全卵における 0.005、0.011 及び 0.0057 µg/g であった。（参照 59）

### ②産卵鶏-2

産卵鶏（イサワーレン種、一群雌 10 羽）にクロラントラニリプロールを 3、9 及び 30 mg/kg 飼料の用量で 28 日間カプセル経口投与して、卵を 1 日 2 回採取し、最終投与 4～5 時間後にと殺して、肝臓、筋肉及び脂肪（皮膚を含む）を採取し、クロラントラニリプロール並びに代謝物 C、E、M、N 及び O を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。また、30 mg/kg 飼料を同様に投与し、最終投与 2、5 及び 8 日後にと殺した減衰試験群が設定された。結果は別紙 5-②に示されている。

クロラントラニリプロールの最大残留値は、卵においては投与 21 日の 0.625 µg/g（卵白）、組織においては投与 28 日の 0.168 µg/g（脂肪）であった。代謝物 C、E、M、N 及び O の最大残留値は、それぞれ投与 14 日の卵白における 0.392 µg/g、投与 28 日の肝臓における 0.159 µg/g、投与 14 日の卵白における 0.345 µg/g、投与 21 日の卵白における 0.336 µg/g 及び投与 21 日の卵白における 0.093 µg/g であった。

減衰試験群においては、投与終了後、全卵中の残留放射能濃度は速やかに減少し、投与終了 7 日後にはいずれの分析対象化合物も定量限界未満となっ

た。組織中では、投与終了 8 日後に全ての組織において、いずれの分析対象化合物も定量限界未満となった。 (参照 83)

### ③泌乳牛

泌乳牛 (ホルスタイン種、一群雌 3 頭) にクロラントラニリプロールを 1、3、10 及び 50 mg/kg 飼料の用量で 28 日間カプセル経口投与して、乳汁を 2 ~ 4 日おきに採取し、最終投与 23~24 時間後にと殺して、肝臓、腎臓、筋肉及び脂肪を採取し、クロラントラニリプロール並びに代謝物 D 及び G を分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。また、50 mg/kg 飼料を同様に投与し、最終投与 9 及び 23 日後にと殺した減衰試験群が設定された。結果は別紙 5-③に示されている。

全乳におけるクロラントラニリプロールの最大残留値は、投与 14 日の 0.028 µg/g であった。代謝物 D の最大残留値は、投与 28 日の 0.045 µg/g 、G の最大残留値は、投与 10 日の 0.014 µg/g であった。組織におけるクロラントラニリプロールの最大残留値は投与後 1 日の脂肪で 0.16 µg/g であった。減衰試験群では、乳中においては投与終了 3 日後、組織においては投与終了 23 日後に全ての分析対象化合物が検出限界未満となった。 (参照 60)

## (4) 魚介類における最大推定残留値

クロラントラニリプロールの公共用水域における水産動植物被害予測濃度 (水産 PEC) 及び生物濃縮係数 (BCF) を基に、魚介類の最大推定残留値が算出された。

クロラントラニリプロールの水産 PEC は 0.19 µg/L、BCF は 49 (計算値)、魚介類における最大推定残留値は 0.047 mg/kg であった。 (参照 48)

## (5) 後作物残留試験

畑地後作物としてクロラントラニリプロールをなすに 1 回定植時灌注処理 (0.325 g ai/株) 及び 3 回生育期散布 (450 g ai/ha) し、最終散布 27 又は 14 日後にだいこん又はキャベツを栽培して、後作物残留試験が実施された。また、きゅうりに 1 回定植時灌注処理 (0.45 g ai/株) 及び 3 回生育期散布 (450 g ai/ha) し、最終散布 40 又は 8 日後にだいこん、キャベツ又ははくさいを栽培して、後作物残留試験が実施された。だいこんは播種 113 日後、はくさいは定植 54 日後及びキャベツは定植 57 日後に採取された。

水田後作物としてはクロラントラニリプロールを水稻に 1 回散布 (100 g ai/ha) し、最終散布 62 又は 110 日後にだいこん又は小麦を栽培して、後作物残留試験が実施された。だいこんは播種 71 日後及び小麦は播種 202 日後に採取された。

その結果、全ての作物において、クロラントラニリプロール及び代謝物 O は定量限界 (0.01 mg/kg) 未満であった。(参照 14)

#### (6) 推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験及び別紙 5 の畜産物残留試験の分析値並びに魚介類における最大推定残留値を用いて、クロラントラニリプロールを暴露評価対象物質とした際に食品中から摂取される推定摂取量が表 13 に示されている(別紙 6 参照)。

なお、本推定摂取量の算定は、登録されている又は申請された使用方法からクロラントラニリプロールが最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、かつ、魚介類への残留が上記の最大推定残留値を示し、かつ、加工・調理による残留農薬の増減が全くないと仮定の下に行った。また、畜産物における推定摂取量の算定には、各試料の最大残留値を用いた。

表 13 食品中から摂取されるクロラントラニリプロールの推定摂取量

	国民平均 (体重 : 55.1 kg)	小児(1~6 歳) (体重 : 16.5 kg)	妊婦 (体重 : 58.5 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重 : 56.1 kg)
摂取量 (μg/人/日)	765	283	613	944

#### 7. 一般薬理試験

ラット及びマウスを用いた一般薬理試験が実施された。結果は表 14 に示されている。(参照 15)

表 14 一般薬理試験概要

試験の種類		動物種	動物数/群	投与量* (mg/kg 体重) (投与経路)	最大無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果概要
中枢神経系	一般状態 (Irwin 法)	ICR マウス	雌雄 各 3	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響 なし
	一般状態	SD ラット	雄 5	0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響 なし
	自発運動量	SD ラット	雄 5	0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	投与による影響 なし

	痙攣誘発及び抑制作用(電撃痙攣)	ICRマウス	雄 5	0、200、600、2,000(経口)	2,000	—	投与による影響なし
循環器系	血圧、心拍数	SDラット	雄 5	0、200、600、2,000(経口)	2,000	—	投与による影響なし
腎機能	尿量、 $\text{Na}^+$ 、 $\text{K}^+$ 、 $\text{Cl}^-$ 濃度、 $\text{Na}^+/\text{K}^+$ 比、浸透圧	SDラット	雄 5	0、200、600、2,000(経口)	2,000	—	投与による影響なし

\* : 溶媒として 0.5%MC 水溶液を用いた。

— : 最小作用量は設定できなかった。

## 8. 急性毒性試験

### (1) 急性毒性試験

クロラントラニリプロール原体を用いた急性毒性試験が実施された。結果は表 15 に示されている。(参照 16~18)

表 15 急性毒性試験結果概要 (原体)

投与経路	動物種性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口*	SD ラット 雌 3 匹		>5,000	投与量 : 5,000 mg/kg 体重 症状及び死亡例なし
経皮	SD ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	症状及び死亡例なし
吸入	SD ラット 雌雄各 5 匹	LC <sub>50</sub> (mg/L)		雄 : 眼及び口に分泌物 雌 : 眼瞼閉鎖
		>5.1	>5.1	死亡例なし

\* : 上げ下げ法による評価。溶媒として 0.5%MC 水溶液を用いた。

代謝物 O 及び Q を用いた急性毒性試験が実施された。結果は表 16 に示されている。(参照 19、20)

表 16 急性毒性試験結果概要 (代謝物)

被験物質	投与経路	動物種性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)	観察された症状
			雌	
O	経口*	SD ラット 雌 5 匹	>2,000	症状及び死亡例なし

Q	経口*	ICR マウス 雌 5 匹	>2,000	症状及び死亡例なし
---	-----	------------------	--------	-----------

\* : 上げ下げ法による評価。溶媒として 0.5%MC 水溶液を用いた。

## (2) 急性神経毒性試験

SD ラット（一群雌雄各 12 匹）を用いた強制経口（原体 : 0、200、700 及び 2,000 mg/kg 体重、溶媒 : 0.5%MC 水溶液）投与による急性神経毒性試験が実施された。

死亡率、一般状態、体重変化、詳細な状態の観察、機能検査、剖検及び病理組織学的検査（神経組織）のいずれにおいても、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群でも毒性所見は認められなかつたので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 2,000 mg/kg 体重であると考えられた。急性神経毒性は認められなかつた。（参照 21）

## 9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼及び皮膚刺激性試験が実施された。皮膚に対する刺激性は認められなかつたが、眼に対しては軽微な刺激性（EPA の基準）又は刺激性なし（EEC の分類）と判定された。（参照 22、23）

Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験（Maximization 法）が実施された。皮膚感作性は認められなかつた。（参照 24）

## 10. 亜急性毒性試験

### (1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体 : 0、600、2,000、6,000 及び 20,000 ppm : 平均検体摂取量は表 17 参照）投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された（実際の投与期間は、雄 97 日間、雌 98 日間であった。）。

表 17 90 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		600 ppm	2,000 ppm	6,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	36.9	120	359	1,190
	雌	47.0	157	460	1,530

臓器重量測定において、20,000 ppm 投与群の雌で肝絶対重量、比重量<sup>2</sup>及び対脳重量比の増加が認められたが、血液生化学的検査項目及び病理組織学的検査において関連する変化が認められなかつたので、検体投与による毒性

<sup>2</sup> 体重比重量を比重量という（以下同じ。）。

変化ではないと考えられた。

病理組織学的検査において、検体投与による影響は認められなかった。なお、再度鏡検した結果<sup>3</sup>、各投与群において副腎皮質小型空胞が認められ、雄ではその発生頻度が増加した〔対照群、600、2,000、6,000、20,000 ppm 投与群で、それぞれ雄 0/10、1/10、2/10、4/10 例、雌 1/10、0/10、0/10、0/10 例〕。変化の程度は雄の 20,000 ppm 投与群の 2 例で軽度、その他の動物では軽微であり対照群と同程度であった。しかし、後述するようにこの副腎皮質小型空胞の増加は検体投与による毒性変化とは考えられなかった〔14. (5) 及び (6) 参照〕。

本試験において、いずれの投与群でも毒性所見が認められなかつたので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 20,000 ppm (雄: 1,190 mg/kg 体重/日、雌: 1,530 mg/kg 体重/日) であると考えられた。(参照 25)

## (2) 90 日間亜急性毒性試験 (マウス) <参考資料<sup>4</sup>>

ICR マウス (一群雌雄各 15 匹) を用いた混餌 (原体: 0、200、700、2,000、及び 7,000 ppm: 平均検体摂取量は表 18 参照) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 18 90 日間亜急性毒性試験 (マウス) の平均検体摂取量

投与群		200 ppm	700 ppm	2,000 ppm	7,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	32.6	115	345	1,140
	雌	40.7	158	422	1,540

臓器重量測定において、7,000 ppm 投与群の雄で肝比重量増加が認められたが、血液生化学的検査項目 (総タンパク量のみ) 及び病理組織学的検査において関連する変化が認められなかつた。

その他の検査項目において、検体投与の影響は認められなかつた。(参照 80、81)

## (3) 90 日間亜急性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各 4 匹) を用いた混餌 (原体: 0、1,000、4,000、10,000 及び 40,000 ppm: 平均検体摂取量は表 19 を参照) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

<sup>3</sup> ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 [11. (2)] 及び 2 世代繁殖試験 [12. (1)] において、副腎皮質束状帯に小型空胞の増加が認められたため、副腎皮質について再度鏡検された。

<sup>4</sup> 血液生化学的検査で実施された項目が総タンパク量のみであったため、参考資料とした。

表 19 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	4,000 ppm	10,000 ppm	40,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	32.2	119	303	1,160
	雌	36.5	133	318	1,220

臓器重量測定において、40,000 ppm 投与群の雄で肝絶対及び比重量の増加が認められたが、血液生化学的検査項目及び病理組織学的検査において関連する変化が認められなかったので、検体投与による毒性変化ではないと考えられた。

その他の検査項目において、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群でも毒性所見が認められなかったので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 40,000 ppm（雄：1,160 mg/kg 体重/日、雌：1,220 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 26）

#### （4）90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 12 匹）を用いた混餌（原体：0、200、1,000、4,000 及び 20,000 ppm：平均検体摂取量は表 20 参照）投与による 90 日間亜急性神経毒性試験が実施された。

表 20 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		200 ppm	1,000 ppm	4,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	12.7	64.2	255	1,310
	雌	15.1	77.3	304	1,590

死亡率、一般状態、体重変化、詳細な状態の観察、機能検査、剖検及び病理組織学的検査（神経組織）のいずれにおいても、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群でも毒性所見が認められなかったので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 20,000 ppm（雄：1,310 mg/kg 体重/日、雌：1,590 mg/kg 体重/日）であると考えられた。亜急性神経毒性は認められなかった。（参照 27）

#### （5）28 日間亜急性経皮毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた経皮（原体：0、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日、6 時間/日、29 日間連続）投与による 28 日間亜急性経皮毒性試験が実施された。

1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄において、体重増加抑制及び食餌効率の減少が認められた。

病理組織学的検査において、全投与群の雄で副腎皮質束状帯にび慢性小型空胞が観察されたが、毒性変化ではないと判断された[14. (5) 及び(6) 参照]。

その他の検査項目に検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で体重増加抑制及び食餌効率の減少が認められたので、無毒性量は雌雄とも 300 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 28)

## 1.1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

### (1) 1年間慢性毒性試験(イヌ)

ビーグル犬(一群雌雄各 4 匹)を用いた混餌(原体: 0、1,000、4,000、10,000 及び 40,000 ppm; 平均検体摂取量は表 21 を参照)投与による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

表 21 1 年間慢性毒性試験(イヌ)の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	4,000 ppm	10,000 ppm	40,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	32.0	112	317	1,160
	雌	34.0	113	278	1,230

血液生化学的検査において、40,000 ppm 投与群の雄で ALP の増加が認められた。

臓器重量測定において、40,000 ppm 投与群の雄で肝比重重量の有意な増加が認められた。一方、同投与群の雌で肝絶対重量、比重重量及び対脳重量比が有意に増加したが、血液生化学的検査項目及び病理組織学的検査において関連する変化が認められなかつたので、検体投与による毒性変化ではないと考えられた。

本試験において、雄では 40,000 ppm 投与群において ALP 増加及び肝比重重量増加が認められ、雌ではいずれの投与群でも毒性所見が認められなかつたので、無毒性量は雄で 10,000 ppm (317 mg/kg 体重/日)、雌で本試験の最高用量 40,000 ppm (1,230 mg/kg 体重/日) であると考えられた。(参照 29)

### (2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)

SD ラット(主群: 一群雌雄各 60 匹、中間と殺群: 一群雌雄各 10 匹)を用いた混餌(原体: 0、200、1,000、4,000 及び 20,000 ppm; 平均検体摂取量は表 22 参照)投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。本試験は、当初 24 か月(104 週)の投与期間が予定されていたが、各投与

群の死亡率が増加し、最終解剖時に毒性試験ガイドラインで求められている25%の生存率を確保できない可能性があると予測された。よって、最終解剖を約1か月早め、雄は投与99週後、雌は投与98週後に実施された。

表22 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)の平均検体摂取量

投与群		200 ppm	1,000 ppm	4,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	7.71	39.0	156	805
	雌	10.9	51.0	212	1,080

病理組織学的検査において、1,000 ppm以上投与群の雄で副腎皮質のび慢性小空胞が増加した。しかし、病変の程度は1例(中等度)を除き軽微又は軽度であった。後述するように副腎の変化は検体投与による毒性変化ではないと考えられた[14. (5)及び(6)参照]。

腫瘍性病変として、雌の20,000 ppm投与群において甲状腺ろ胞細胞腺腫が増加傾向を示した(対照群0/60例、20,000 ppm投与群4/60例、6.67%)。

しかしその発生頻度は軽度であり、Fisherの直接確率計算法では有意差はなく、背景データ(1.11%～6.12%)を僅かに超える値であった。また、ろ胞細胞癌及び前腫瘍段階である過形成病変の増加は認められず、甲状腺に投与に関連する非腫瘍性病変も観察されなかったことから、同腫瘍の増加は偶発的なものであり、検体投与の影響ではないと考えられた。

本試験において、いずれの投与群でも毒性所見が認められなかつたので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量20,000 ppm(雄:805 mg/kg 体重/日、雌:1,080 mg/kg 体重/日)であると考えられた。発がん性は認められなかつた。(参照30)

### (3) 18か月間発がん性試験(マウス)

ICRマウス(一群雌雄各70匹)を用いた混餌(原体:0、20、70、200、1,200及び7,000 ppm:平均検体摂取量は表23参照)投与による18か月間発がん性試験が実施された。

表23 18か月間発がん性試験(マウス)の平均検体摂取量

投与群		20 ppm	70 ppm	200 ppm	1,200 ppm	7,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.60	9.20	26.1	158	935
	雌	3.34	11.6	32.9	196	1,150

臓器重量測定において1,200 ppm以上投与群の雄で肝絶対重量、比重量及

び対脳重量比の増加、病理組織学的検査において小葉中心性肝細胞肥大が認められた。1,200 ppm 投与群では他の組織学的所見がみられなかつたことから、これらは適応性変化であると考えられた。1,200 ppm 以上投与群の雌に認められた肝絶対重量、比重量及び対脳重量比の増加は、病理組織学的検査において関連する変化が認められなかつたので、毒性変化ではないと考えられた。

7,000 ppm 投与群の雄で肝臓の変異肝細胞巣（好酸性細胞）が増加し（5/70 例、7.14%）、検体投与による影響と考えられた。この変化は 20、70 及び 1,200 ppm 投与群においても各 1 例に認められたが、これらの投与群の発生頻度（1.43%）は背景データ（2%～4%）の範囲内であり、検体投与による影響とは考えられなかつた。

腫瘍性病変の発生頻度に検体投与の影響は認められなかつた。

本試験において、7,000 ppm 投与群の雄で肝絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大並びに変異肝細胞巣が認められ、雌ではいずれの投与群でも毒性所見が認められなかつたので、無毒性量は雄で 1,200 ppm（158 mg/kg 体重/日）、雌で本試験の最高用量 7,000 ppm（1,150 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認められなかつた。（参照 31）

## 12. 生殖発生毒性試験

### （1）2 世代繁殖試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 30 匹）を用いた混餌（原体：0、200、1,000、4,000 及び 20,000 ppm：平均検体摂取量は表 24 参照）投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 24 2 世代繁殖試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群			200 ppm	1,000 ppm	4,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	12.0	60.4	238	1,200
		雌	15.5	77.8	318	1,590
	F <sub>1</sub> 世代	雄	18.1	89.4	370	1,930
		雌	20.4	104	406	2,180

親動物の臓器重量測定において、4,000 ppm 以上投与群の雌（P 及び F<sub>1</sub>）で肝絶対重量、比重量及び対脳重量比が増加したが、病理組織学的変化が認められなかつたので、毒性変化ではないと考えられた。また、同群の雌雄において副腎絶対重量、比重量及び対脳重量比が増加したが、病理組織学的検査で 200 ppm 以上投与群の雄において認められた副腎皮質束状帶のび慢性小型空胞の増加も毒性変化ではないと判断され [14. (5) 及び (6) 参照]、他

のラットの毒性試験（90日間亜急性毒性及び2年間慢性毒性/発がん性併合試験）においても副腎重量の変化は認められなかったことから、検体投与による毒性変化ではないと考えられた。

親動物（P及びF<sub>1</sub>）の繁殖能に関しては、いずれの検査項目にも検体投与の影響は認められなかった。

児動物において、20,000 ppm 投与群の雄（F<sub>1</sub>）で包皮分離日数の延長が認められたが、これは同群にみられた一過性の低体重（対照群と比較して有意差なし）による二次的な変化で毒性変化ではないと考えられた。その他の検査項目にも検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、親動物及び児動物のいずれの投与群でも毒性所見が認められなかつたため、無毒性量は親動物及び児動物の雌雄とも本試験の最高用量 20,000 ppm（P 雄：1,200 mg/kg 体重/日、P 雌：1,590 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雄：1,930 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雌：2,180 mg/kg 体重/日）であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかつた。（参照 32）

## （2）発生毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌 22 匹）の妊娠 6～20 日に強制経口（原体：0、20、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%MC 水溶液）投与する発生毒性試験が実施された。

本試験において、いずれの投与群でも毒性影響が認められなかつたので、無毒性量は母動物及び胎児とも本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかつた。（参照 33）

## （3）発生毒性試験（ウサギ）

NZW ウサギ（一群雌 22 匹）の妊娠 7～28 日に強制経口（原体：0、20、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%MC 水溶液）投与する発生毒性試験が実施された。

本試験において、いずれの投与群でも毒性影響が認められなかつたので、無毒性量は母動物及び胎児とも本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかつた。（参照 34）

## 13. 遺伝毒性試験

クロラントラニリプロール（原体）の細菌を用いた復帰突然変異試験、チャイニーズハムスター卵巣由来細胞（CHO-K<sub>1</sub>）を用いた遺伝子突然変異試験、ヒト末梢血リンパ球を用いた染色体異常試験及びマウスを用いた小核試験が実施された。

試験結果は表 25 に示されているとおり、全ての試験において陰性であり、

クロラントラニリプロールに遺伝毒性はないと考えられた。(参照 35~37、54)

表 25 遺伝毒性試験概要 (原体)

試験		対象	処理濃度・投与量	結果
in vitro	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	50~5,000 µg/プレート (+/-S9) <sup>1)</sup>	陰性
	復帰突然変異試験	<i>S.typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E.coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	333~5,000 µg/プレート (+/-S9) <sup>1)</sup>	陰性
	遺伝子突然変異試験 ( <i>Hprt</i> 遺伝子)	チャイニーズハムスター卵 巣由来細胞(CHO-K <sub>1</sub> )	15.6~250 µg/mL (+/-S9) (5 時間処理、7~9 日培養後 標本作製)	陰性
	染色体異常試験	ヒト末梢血リンパ球	125~500 µg/mL (+/-S9) (4 時間処理、16 時間培養後 標本作製) 125~500 µg/mL (-S9) (20 時間処理後標本作製)	陰性
	染色体異常試験	ヒト末梢血リンパ球	50~500 µg/mL (-S9) 1~25 µg/mL (+S9) (4 時間処理、18 時間培養後 標本作製) 50~500 µg/mL (-S9) (22 時間処理後標本作製)	陰性
in vivo	小核試験	ICR マウス(骨髄細胞) (一群雌雄各 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (単回経口投与 24 時間後標本 作製、2,000 mg/kg 体重投与 群のみ投与 48 時間後にも標 本作製)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系非存在下及び存在下

1) 代謝活性化系非存在下及び存在下とも 5,000 µg/プレートで検体の析出を認めた。

主に動物（推定）、植物、土壤及び加水分解由来の代謝物 O 並びに主に植物及び土壤由来の代謝物 Q の細菌を用いた復帰突然変異試験が実施された。

試験結果は表 26 に示されているとおり、全て陰性であった。（参照 38～39）

表 26 遺伝毒性試験概要（代謝物）

被験物質	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
O	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	20～2,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
Q	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	333～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性

注) -/+S9 : 代謝活性化系非存在下及び存在下

#### 14. その他の試験

##### (1) 14 日間亜急性毒性試験（ラット）：肝薬物代謝酵素誘導

SD ラット（一群雌雄各 5 匹）を用いた強制経口（原体：0、25、100 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：ポリエチレングリコール）投与による 14 日間亜急性毒性試験が実施された。

肝臓を用いてペルオキシゾーム及びミクロゾームを調製した。肝ペルオキシゾームについては、パルミトイル CoA を基質としてβ-酸化活性が測定された。肝ミクロゾームについては、総チトクローム P450、CYP1A1、CYP2B1/2、CYP2E1、CYP3A 及び CYP4A1 が測定された。その結果、100 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で CYP3A が有意に増加（対照群比：100 ppm 投与群で 1.81 倍、1,000 ppm 投与群で 3.33 倍）した。

その他の観察項目において、検体投与の影響は認められなかった。（参照 40）

##### (2) 28 日間亜急性毒性試験（ラット）：肝薬物代謝酵素誘導

SD ラット（一群雌雄各 5 匹）を用いた混餌（原体：0、300、1,500 及び 8,000 ppm：平均検体摂取量は表 27 参照）投与による 28 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 27 28 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		300 ppm	1,500 ppm	8,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	20.7	106	584
	雌	24	128	675

血液生化学的検査において、甲状腺ホルモン（T<sub>3</sub> 及び T<sub>4</sub>）及び甲状腺刺激ホルモン（TSH）が測定された。また、肝臓試料を用いて UDP-GT 活性が測定された。

結果は表 28 に示されている。

雌の 1,500 ppm 以上投与群で、UDP-GT の増加が認められた。T<sub>3</sub>、T<sub>4</sub> 及び TSH 濃度に変化は認められなかった。

臓器重量測定において、1,500 ppm 以上投与群の雌で肝比重量が、8,000 ppm 投与群の雌で肝対脳重量比が増加し、病理組織学的検査において、8,000 ppm 投与群の雌 3 例に肝細胞肥大が認められた。しかし、血液生化学的検査において、肝毒性を示唆する変化は認められなかったため、毒性変化ではないと考えられた。（参照 41）

表 28 血中 T<sub>3</sub>、T<sub>4</sub> 及び TSH 濃度並びに肝 UDP-GT 活性

投与群	0 ppm		300 ppm		1,500 ppm		8,000 ppm	
	性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄
T <sub>3</sub> (ng/dL)	70.3	88.0	56.8	98.0	75.7	87.5	82.5	91.3
T <sub>4</sub> (μg/dL)	4.3	1.9	4.1	2.9	4.4	1.7	4.0	1.2
TSH(ng/mL)	9.8	7.8	10.3	9.6	14.8	8.3	10.6	8.5
UDP-GT (nmol/min/mg protein)	43.6	29.2	54.9	31.6	55.0	39.9 <sup>#</sup>	59.1	44.1 <sup>**</sup>

Jonckheere 検定 <sup>#</sup> : p<0.05、Dunnett 検定 <sup>\*</sup> : p<0.05

### (3) 28 日間亜急性毒性試験（イヌ）：肝薬物代謝酵素誘導

ビーグル犬（一群雌雄各 2 匹）を用いてカプセル経口（原体：0、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日）投与し、28 日間亜急性毒性試験が実施された。肝薬物代謝酵素誘導に対する影響を検討するため、肝臓を用いて総チトクローム P450、CYP1A1、CYP2B1/2、CYP2E1、CYP3A2 及び CYP4A1 が測定された。

結果は表 29 に示されている。

1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で、総チトクローム P450 の増加が認められた。さらに、それに伴い、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で、

CYP1A1 及び CYP2B1/2 の増加が認められ、これらの変化は検体投与による影響であると考えられた。その他の測定項目に変化は認められなかつた。(参考 42)

表 29 肝チトクローム P450 含量

投与群	300 mg/kg 体重/日		1,000 mg/kg 体重/日	
性別	雄	雌	雄	雌
総チトクローム P450	102	64	158	215
CYP1A1	128	247	186	203
CYP2B1/2	133	130	219	147

表中の数値は対照群を 100 とした場合の値

#### (4) 28 日間亜急性毒性試験（マウス）：肝薬物代謝酵素誘導

ICR マウス（一群雌雄各 5 匹）を用いて混餌（原体：0、300、1,000、3,000 及び 7,000 ppm）投与し、28 日間亜急性毒性試験が実施された。肝薬物代謝酵素誘導に対する影響を検討するため、肝臓を用いてβ-酸化活性及び総チトクローム P450 が測定された。

その結果、3,000 ppm 以上投与群の雌雄で、総チトクローム P450 の増加が認められ（対照群と比較して有意差なし、1.17～1.46 倍）、検体投与による影響であると考えられた。（参考 43）

#### (5) 副腎皮質の透過型電子顕微鏡を用いた観察（ラット）

ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験[11. (2)] 及び 2 世代繁殖試験[12. (1)] の病理組織学的検査において、観察された雄の副腎皮質小型空胞について、透過型電子顕微鏡を用いて副腎皮質細胞内の構造及び細胞内小器官の形態が検索された。

対照群及び 20,000 ppm 投与群のラットの副腎について検索された結果、光学顕微鏡で観察された小型空胞は、電子顕微鏡では脂肪滴として認められた。電子顕微鏡検査に用いる組織切片の評価は範囲が限られるため、光学顕微鏡検査所見で認められた程度の差（程度 0、1 及び 2）に相当する差を、電子顕微鏡では脂肪量の差として見いだすことはできなかつた。副腎皮質細胞内小器官（ミトコンドリア、滑面小胞体、遊離型リボゾーム、ポリゾーム、ゴルジ装置、リポフスチン及びリソソーム）に異常は認められなかつた。

以上の結果、本検体を投与されたラットに観察された副腎皮質細胞小型空胞の増加は対照群で観察された形態学的変動の範囲内であり、細胞毒性を示す変化ではないと考えられた。（参考 44）

## (6) 28日間亜急性経皮毒性試験（ラット）：副腎機能検査

SD ラット（一群雄 10 匹）を用いて経皮（原体：0 及び 1,000 mg/kg 体重/日、6 時間/日、連続 28 日間）投与して、28 日間亜急性経皮毒性試験が実施された。副腎機能に対する影響を検査するために、投与 29 日後に副腎皮質刺激ホルモン（ACTH、12.5 µg/ラット）を尾静脈内投与し、眼窩静脈から採血して、血清中コルチコステロイドが測定された。

1,000 mg/kg 体重/日投与群においては体重増加抑制及び食餌効率減少が認められた。血清中コルチコステロン濃度に検体投与の影響は認められなかった。副腎の病理組織学的検査の結果、1,000 mg/kg 体重/投与群で副腎皮質束状帯及び慢性小型空胞の頻度が軽度に増加した〔無処置対照群 0/10 例、脱イオン水対照群 1/10 例、検体投与群 4\*/10 例（\*: Fisher の直接確率計算法、 $p < 0.05$ ）〕。

以上の結果、検体はラットにおけるコルチコステロン合成を抑制しないと考えられた。検体の経皮投与は、ラットの副腎機能に影響を与える、副腎皮質束状帯におけるび慢性小型空胞形成を僅かに上昇させたものと考えられた。（参照 45）

### ＜ラットに認められた副腎皮質及び慢性小型空胞について＞

ラットの亜急性毒性試験[10. (1)]、慢性毒性/発がん性併合試験[11. (2)]及び 2 世代繁殖試験[12. (1)]の病理組織学的検査において、雄で用量相関性ではあるが軽微又は軽度な副腎皮質小型空胞が増加又は増加傾向を示した。観察された変化は、電子顕微鏡による観察の結果、脂肪滴であることが確認され、小胞の数及び大きさは対照群と 20,000 ppm 投与群で同等であり、細胞内小器官に異常は認められなかった[14. (5)]。また、検体 1,000 mg/kg 体重/日（6 時間/日、連続 28 日間）を 28 日間投与後、副腎皮質刺激ホルモンを皮下投与して血清中コルチコステロイドが測定されたが、血清中コルチコステロン濃度に検体投与の影響は認められなかった[14. (6)]。さらに、副腎に同変化が認められた試験においても、副腎のコルチコステロン産生の変化に関連する検査項目に変化は認められなかった。したがって、副腎に観察された皮質の小型空胞化は検体投与による変化であるものの、毒性変化ではないと結論した。

## (7) 28日間免疫毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いて混餌（原体：0、1,000、5,000 及び 20,000 ppm：平均検体摂取量は表 30 を参照）投与し、28 日間免疫毒性試験が実施された。

表 30 28 日間免疫毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	5,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	74	363	1,490
	雌	82	397	1,600

液性免疫機能を検査する目的で、投与 22 日に全てのラットにヒツジ赤血球（SRBC）の浮遊液（ $4 \times 10^8 / \text{mL}$ ）0.5 mL を尾静脈内投与し、その 6 日後（投与 28 日）に採血して得られた血清中の SRBC 特異的 IgM 抗体を ELISA 法により測定し、抗体価が算出された。その結果、いずれの投与群の SRBC 特異的 IgM 抗体価についても、対照群の抗体価と有意差はなく、検体投与による液性免疫応答の抑制は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群でも検体投与による液性免疫応答の抑制が認められなかったので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 20,000 ppm（雄：1,490 mg/kg 体重/日、雌：1,600 mg/kg 体重/日）であると考えられた。本試験条件下において、免疫毒性は認められなかった。（参照 46）

#### （8）28 日間免疫毒性試験（マウス）

ICR マウス（一群雌雄各 10 匹）を用いて混餌（原体：0、300、1,700 及び 7,000 ppm：平均検体摂取量は表 31 を参照）投与し、28 日間亜急性免疫毒性試験が実施された。

表 31 28 日間免疫毒性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		300 ppm	1,700 ppm	7,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	48	264	1,140
	雌	64	362	1,570

液性免疫機能を検査する目的で、投与 23 日に全てのマウスに SRBC の浮遊液（ $1 \times 10^9 / \text{mL}$ ）0.2 mL を尾静脈内投与し、その 5 日後（投与 28 日）に採血して得られた血清中の SRBC 特異的 IgM 抗体を ELISA 法により測定し、抗体価が算出された。その結果、いずれの投与群の SRBC 特異的 IgM 抗体価についても、対照群の抗体価と有意差はなく、検体投与による液性免疫応答の抑制は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群でも検体投与による液性免疫応答の抑制が認められなかったので、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 7,000 ppm（雄：1,140 mg/kg 体重/日、雌：1,570 mg/kg 体重/日）であると考えられた。本試験条件下において、免疫毒性は認められなかった。（参照 47）

### III. 食品健康影響評価

参考に挙げた資料を用いて、農薬「クロラントラニリプロール」の食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験（コリアンダー）及び畜産物残留試験（ニワトリ）の成績等が新たに提出された。

<sup>14</sup>C で標識したクロラントラニリプロールのラットを用いた動物体内運命試験の結果、経口投与後 48 時間の吸収率は低用量投与群で 76.2%～88.0%、高用量投与群で 16.5%～18.0% であり、投与後 72 時間で主に糞中に排泄された。また、胆汁中排泄率及び尿中排泄率とも高用量群のほうが低用量群より低かったことから、高用量投与では未吸収で排出されると考えられた。主要組織中の残留放射能濃度は、T<sub>max</sub> 付近で肝臓、消化管及び副腎で高値を示したが、経時に減少したことから、体内蓄積性はないと考えられた。クロラントラニリプロールは肝臓において広範に代謝されると考えられた。

<sup>14</sup>C で標識したクロラントラニリプロールの畜産動物を用いた動物体内運命試験の結果、主要代謝物としてニワトリでは卵白で N (0.55 μg/g、40.4%TRR)、卵黄で C (0.078 μg/g、16.6%TRR) 及び E (0.112 μg/g、24.0%TRR)、ヤギでは肝臓で K (0.048 μg/g、7.54%TRR) が検出された。

<sup>14</sup>C で標識したクロラントラニリプロールの植物体内運命試験の結果、いずれの作物においても残留放射能の主要成分は未変化のクロラントラニリプロールであり、代謝物として K、N、O、Q 及び S が検出されたが、いずれも 10%TRR 以下であった。

クロラントラニリプロールを分析対象化合物とした作物残留試験の結果、可食部におけるクロラントラニリプロールの最大残留値は、国内では茶（荒茶）の 38.8 mg/kg、海外ではほうれんそう（茎葉）の 9.7 mg/kg であった。

クロラントラニリプロール並びに代謝物 C、E、M、N 及び O（ニワトリ）又は D 及び G（ウシ）を分析対象化合物とした畜産物残留試験の結果、クロラントラニリプロールの最大残留値は、ニワトリの卵白における 0.625 μg/g であった。各代謝物の最大残留値は、C が卵白における 0.392 μg/g、D が乳における 0.045 μg/g、E が肝臓における 0.159 μg/g、G が乳における 0.014 μg/g、M が卵白における 0.345 μg/g、N が卵白における 0.336 μg/g 及び O が卵白における 0.093 μg/g であった。

魚介類におけるクロラントラニリプロールの最大推定残留値は 0.047 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、クロラントラニリプロールの毒性は低く、投与による影響は、主に肝臓（小葉中心性肝細胞肥大、変異肝細胞巣等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性、免疫毒性及び遺伝毒性は認められなかった。

畜産動物を用いた動物体内運命試験において、代謝物 C、E 及び N が 10%TRR を超えて認められたが、これらはラットにおいても認められたことから、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をクロラントラニリプロール（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量等は表 32 に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、マウスを用いた 18 か月間発がん性試験の 158 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 1.5 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

また、クロラントラニリプロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったため、急性参考用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

ADI	1.5 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	マウス
(期間)	18 か月間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	158 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100
ARfD	設定の必要なし

## 参考

< JMPR、2008 年 >

ADI	2 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	マウス
(期間)	18 か月間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	158 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	設定の必要なし
------	---------

<EFSA、2013年>

ADI	1.56 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	156 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD

設定の必要なし

<米国、2008年>

cRfD	1.58 mg/kg 体重/日
(cRfD 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	マウス
(期間)	18か月間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	158 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100

aRfD

設定の必要なし

<オーストラリア、2008年>

ADI	1.58 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	マウス
(期間)	18か月間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	158 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD

設定の必要なし

(参照 84~90)

表 32 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
ラット	90 日間 亜急性 毒性試 験	0、600、2,000、 6,000、20,000 ppm			
		雄 : 0、36.9、 120、359、1,190 雌 : 0、47.0、 157、460、1,530	雄 : 1,190 雌 : 1,530	雄 : — 雌 : —	毒性所見な し
	90 日間 亜急性 神経毒 性試験	0、200、1,000、 4,000、20,000 ppm			
		雄 : 0、12.7、 64.2、255、 1,310 雌 : 0、15.1、 77.3、304、 1,590	雄 : 1,310 雌 : 1,590	雄 : — 雌 : —	毒性所見な し (亜急性神経 毒性は認め られない)
	2 年間 慢性毒 性/発が ん性併 合試験	0、200、1,000、 4,000、20,000 ppm			
		雄 : 0、7.71、 39.0、156、805 雌 : 0、10.9、 51.0、212、 1,080	雄 : 805 雌 : 1,080	雄 : — 雌 : —	毒性所見な し (発がん性は 認められな い)
	2 世代 繁殖試 験	0、200、1,000、 4,000、20,000 ppm			
	P 雄 : 0、12.0、 60.4、238、 1,200 P 雌 : 0、15.5、 77.8、318、 1,590 F <sub>1</sub> 雄 : 0、18.1、 89.4、370、 1,930 F <sub>1</sub> 雌 : 0、20.4、 104、406、2,180	親及び児動物	親及び児動物	毒性所見な し	
		P 雄 : 1,200	P 雄 : —	(繁殖能に対 する影響は 認められな い)	
		P 雌 : 1,590	P 雌 : —		
		F <sub>1</sub> 雄 : 1,930	F <sub>1</sub> 雄 : —		
		F <sub>1</sub> 雌 : 2,180	F <sub>1</sub> 雌 : —		

	発生毒性試験	0、20、100、300、1,000	母動物：1,000 胎児：1,000	母動物：－ 胎児：－	毒性所見なし (催奇形性は認められない)
マウス	18か月間発がん性試験	0、20、70、200、1,200、7,000 ppm 雄：0、2.60、9.20、26.1、158、935 雌：0、3.34、11.6、32.9、196、1,150	雄：158 雌：1,150	雄：935 雌：－	雄：小葉中心性肝細胞肥大、変異肝細胞巣等 雌：毒性所見なし (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性試験	0、20、100、300、1,000	母動物：1,000 胎児：1,000	母動物：－ 胎児：－	毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間亜急性毒性試験	0、1,000、4,000、10,000、40,000 ppm 雄：0、32.2、119、303、1,160 雌：0、36.5、133、318、1,220	雄：1,160 雌：1,220	雄：－ 雌：－	毒性所見なし
	1年間慢性毒性試験	0、1,000、4,000、10,000、40,000 ppm 雄：0、32.0、112、317、1,160 雌：0、34.0、113、278、1,230	雄：317 雌：1,230	雄：1,160 雌：－	雄：ALP増加及び肝比重量増加 雌：毒性所見なし
ADI		NOAEL：158 SF：100 ADI：1.5			
ADI設定根拠資料		マウス 18か月間発がん性試験			

ADI：一日摂取許容量 SF：安全係数 NOAEL：無毒性量

<sup>1)</sup>：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

－：最小毒性量は設定できなかった。

<別紙1：代謝物/分解物略称>

記号	化学名
A	3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボン酸
B	2-[[[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]カルボニル]アミノ]-5-クロロ-3-メチル安息香酸
C	3-ブロモ-N[4-クロロ-2-[(ヒドロキシメチル)アミノ]カルボニル]-6-メチルフェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
C'	[[2-[[[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]カルボニル]アミノ]-5-クロロ-3-メチルベンゾイル]アミノ]メチルβ-D-グルコピラノシド酸
D	3-ブロモ-N[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
D'	[2-[[[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]カルボニル]アミノ]-5-クロロ-3-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]メチルβ-D-グルコピラノシド酸
E	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-(ヒドロキシメチル)-4(3H)-キナゾリノン
E'	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-1,4-ジヒドロ-4-オキソ-8-キナゾリニル]メチルβ-D-グルコピラノシド酸
F	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-(ヒドロキシメチル)-3-メチル-4(3H)-キナゾリノン
G	3-ブロモ-N[4-クロロ-2-(ヒドロキシメチル)-6-[(ヒドロキシメチル)アミノ]カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
H	N[2-アミノカルボニル]-4-クロロ-6-(ヒドロキシメチル)フェニル]-3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
H'	[3-(アミノカルボニル)-2-[[[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]カルボニル]アミノ]-5-クロロフェニル]メチルβ-D-グルコピラノシド酸
I	2-[5-ブロモ-2-(3-クロロ-ピリジン-2-イル)-2H-ピラゾール-3-イル]-6-クロロ-3,4-ジヒドロ-3-メチル-4-オキソ-8-キナゾリンカルボン酸
J	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-1,4-ジヒドロ-4-オキソ-8-キナゾリンカルボン酸
J'	β-D-グルコピラノシド酸 1-[2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-1,4-ジヒドロ-4-オキソ-8-キナゾリンカルボン酸塩
K	2-アミノ-5-クロロ-3-[(メチルアミノ)カルボニル]安息香酸
L	2-[[[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]カルボニル]アミノ]-5-クロロ-3-[(メチルアミノ)カルボニル]安息香酸
M	N[2-(アミノカルボニル)-4-クロロ-6-メチルフェニル]-3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド
N	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-8-メチル-4(3H)-キナゾリノン
O	2-[3-ブロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-3,8-ジメチル-4(3H)-キナゾリノン

Q	5-ブロモ-N-メチル-1 <i>H</i> -ピラゾール-3-カルボキサミド
S	2-アミノ-5-クロロ-3-メチル安息香酸
T	2,6-ジクロロ-4-メチル-11 <i>H</i> -ピリド[2,1- <i>b</i> ]キナゾリン-11-オン
U	2-[(2-ブロモ-4 <i>H</i> -ピラゾロ[1,5- <i>d</i> ]ピリド[3,2- <i>b</i> ] [1.4]オキサジン-4-イルインデン)アミノ]-5-クロロ-N,3-ジメチルベンズアミド
V	2-[3-ブロモ-1-(3-ヒドロキシ-2-ピリジニル)-1 <i>H</i> -ピラゾール-5-イル]-6-クロロ-3,8-ジメチル-4(3 <i>H</i> )-キナゾリノン
W	2-(5-ブロモ-1 <i>H</i> -ピラゾール-3-イル)-6-クロロ-3,8-ジメチル-4(3 <i>H</i> )-キナゾリノン

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACTH	副腎皮質刺激ホルモン
ai	有効成分量 (active ingredient)
ALP	アルカリホスファターゼ
AUC	薬物濃度曲線下面積
BCF	生物濃縮係数
C <sub>max</sub>	最高濃度
CYP	チトクローム アイソザイム
ELISA	酵素免疫測定法
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
MC	メチルセルロース
PEC	環境中予測濃度
PHI	最終使用から収穫までの日数
SRBC	ヒツジ赤血球
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
T <sub>3</sub>	トリヨードチロニン
T <sub>4</sub>	チロキシン
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Bil	総ビリルビン
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能
TSH	甲状腺刺激ホルモン
UDP-GT	ウリジン二リン酸グルクロニルトランスフェラーゼ

<別紙3：作物残留試験成績（国内）>

作物名 （栽培形態） [分析部位] 実施年	使用量 （g ai/ha） 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
水稻 [玄米] 2006年	0.5 g/箱 G <sub>2</sub> 散布	1	1	137	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	1	119	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水稻 [稻わら] 2006年	0.5 g/箱 G <sub>2</sub> 散布	1	1	137	0.01	0.01	0.01	0.01
		1	1	119	0.02	0.02	0.01	0.01
未成熟と うもろこ し (露地) [子実] 2011年	50WP <sub>1</sub> 散布	1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
		1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
とうもろ こし (露地) [乾燥子実] 2011年	47.8-50WP <sub>1</sub> 散布	1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
		1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
だいづ (露地) [乾燥子実] 2006年	25 WP <sub>1</sub> 散布	1	3*	7	0.03	0.03	0.02	0.02
		1	3*	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	3*	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	25 WP <sub>1</sub> 散布	1	3*	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	3*	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	3*	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいづ (露地) [乾燥子実] 2010年	25 WP <sub>1</sub> 散布 無人ヘリコプ ターによる散 布	1	2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
さといも (露地)	41.5 WP <sub>1</sub> 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年 [塊茎] 2009年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					クロラントラニリプロール					
					最大値	平均値	最大値	平均値		
3	7				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
かんしょ (露地) [塊茎] 2010年	50 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
やまのい も (露地) [塊茎] 2009年	33 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
50 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
さとうき び (露地) [茎葉] 2013年	48.8 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
44.4 WP2 散布	1	3	30	<0.01	<0.01					
		3	45	<0.01	<0.01					
		3	60	<0.01	<0.01					
48.6 WP2 散布	1	3	30	<0.01	<0.01					
		3	45	<0.01	<0.01					
		3	60	<0.01	<0.01					
オクラ (施設) [果実] 2011年	70WP1 散布	1	3	1	0.15	0.15				
			3	3	0.11	0.11				
			3	7	0.06	0.06				
56.3-68.8WP1 散布	1	3	14	0.03	0.03					
		3	1	0.28	0.27					
		3	3	0.14	0.14					
56.3-68.8WP1 散布	1	3	7	0.03	0.03					
		3	14	0.02	0.02					
しょうが (露地) [根茎] 2011年	41.5WP1 散布	1	3	1			<0.01	<0.01		
			3	3			<0.01	<0.01		
			3	7			0.01	0.01		
44.5-45WP1 散布	1	3	14			<0.01	<0.01	<0.01		
		3	1			<0.01	<0.01			
		3	3			<0.01	<0.01			

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
さやえん どう (施設) [さや] 2010年	50 WP1 散布	1	3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
			3	1			0.27	0.26
	45.3 WP1 散布	1	3	3			0.22	0.22
			3	7			0.10	0.10
			3	1			0.13	0.13
	42~48.5 WP1 散布	1	3	3			0.10	0.10
			3	7			0.08	0.08
			3	1	0.16	0.16	0.19	0.19
	45.8 WP1 散布	1	3	3	0.11	0.10	0.10	0.10
			3	7	0.10	0.10	0.10	0.10
			3	1	0.12	0.12	0.12	0.12
えだまめ (露地) [さや] 2006年	18.8~25 WP1 散布	1	3	3	0.11	0.10	0.10	0.10
			3	7	0.14	0.14	0.10	0.10
			3	21	0.04	0.04	0.03	0.03
			3	1	0.32	0.32	0.20	0.20
	25 WP1 散布	1	3	3	0.19	0.19	0.13	0.12
			3	7	0.16	0.16	0.11	0.10
			3	14	0.11	0.10	0.06	0.06
			3	21	0.11	0.10	0.06	0.06
未成熟そ らまめ (施設) [未成熟子 実] 2011年	150WP1 散布	1	3	1			0.04	0.04
			3	3			0.04	0.04
			3	7			0.03	0.03
			3	14			0.03	0.02
未成熟そ らまめ (施設) [未成熟子 実] 2012年	150WP1 散布	1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
ごま (露地) [種子] 2010年	50 WP1 散布	1	2	3*			0.12	0.12
			2	7*			0.11	0.11
			2	14			0.04	0.04

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロラントラニリプロール				
					最大値	平均値	最大値	平均値	
モロヘイ ヤ (施設) [茎葉] 2010年	120*WP1 散布	1	2	3*			0.04	0.04	
			1	2	7*			0.08	0.08
			2	14			0.03	0.03	
			2	1	14.6	14.4			
モロヘイ ヤ (施設) [茎葉] 2011年	105*WP1 散布	1	2	3	10.9	10.4			
			2	7	10.8	10.6			
			2	14	5.02	4.90			
			2	1	8.38	8.32			
モロヘイ ヤ (施設) [茎葉] 2012年	188*WP1 散布	1	2	3	7.93	7.88			
			2	7	5.41	5.38			
			2	1	7.44	7.26			
			2	3	6.00	5.98			
えごま (施設) [葉] 2012年	50 WP1 散布	1	2	7	3.79	3.60			
			3	1*			11.2	11.1	
			3	3			6.96	6.80	
			3	7			3.01	3.00	
はくさい (露地) [茎葉] 2006年	500 mLWP1 (100倍) セルトレイ灌注 及び 50WP1散布	1	3	1*			17.4	17.4	
			3	3			13.9	13.6	
			3	7			5.23	5.16	
			4	3	0.18	0.18	0.26	0.26	
はくさい (露地) [茎葉] 2005年	500 mLWP1 (100倍) セルトレイ灌注 及び 50WP1散布	1	4	7	0.06	0.06	0.03	0.03	
			4	14	0.05	0.05	0.03	0.02	
			4	21	0.01	0.01	0.01	0.01	
			4	3	0.15	0.15	0.46	0.46	
はくさい (露地) [茎葉] 2008年	500 mLWP1 (100倍) セルトレイ灌注 及び 75WP1散布	1	4	7	0.01	0.01	0.08	0.08	
			4	14	0.08	0.08	<0.01	<0.01	
			4	21	0.04	0.04	0.01	0.01	
			4	1	0.34	0.33	0.37	0.36	
		1	4	3	0.14	0.14	0.31	0.30	
			4	7	0.25	0.24	0.24	0.24	
			4	14	0.12	0.12	0.05	0.05	
			4	1	0.05	0.05	0.07	0.06	
		1	4	3	0.08	0.08	0.10	0.10	
			4	7	0.05	0.05	0.01	0.01	

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
はくさい [茎葉] 2010年	1g <sup>G1</sup> /株植穴 処理 及び 69.5-73WP <sup>1</sup> 散 布	1	4	14	0.04	0.04	0.03	0.02
			4	1	0.18	0.18	0.29	0.29
			4	3	0.15	0.15	0.19	0.19
			4	7	0.07	0.07	0.12	0.12
		1	4	14	0.03	0.03	0.06	0.06
			4	1	1.39	1.38	2.00	2.00
			4	3	0.84	0.84	1.15	1.15
			4	7	0.53	0.52	0.58	0.57
こまつな [施設] [茎葉] 2008年	37.5-50WP <sup>1</sup> 散布	1	4	14	0.32	0.32	0.39	0.38
			2	1	3.18	3.18	2.50	2.48
			2	3	3.29	3.16	2.95	2.92
			2	7	1.75	1.67	1.66	1.66
			2	14	0.67	0.65	0.67	0.66
	50WP <sup>1</sup> 散布	1	2	21	0.29	0.28	0.27	0.27
			2	1	1.30	1.29	1.14	1.14
			2	3	0.91	0.88	0.79	0.78
			2	7	0.45	0.44	0.44	0.44
			2	14	0.05	0.05	0.10	0.10
みずな [施設] [茎葉] 2007年	50WP <sup>1</sup> 散布	1	2	21	0.02	0.02	0.03	0.03
			2	1			5.86	5.76
			2	3			4.99	4.92
			2	7			4.43	4.42
			2	14			1.49	1.48
			2	21			0.58	0.58
		1	2	1			1.04	1.02
			2	3			0.99	0.99
			2	7			0.75	0.74
			2	14			0.27	0.26
キャベツ [露地] [葉球] 2005年	500 mLWP <sup>1</sup> /セルトレイ灌注 及び 50WP <sup>1</sup> 散布	1	2	21			0.16	0.16
			4	3	0.08	0.08	0.09	0.09
			4	7	0.12	0.12	0.02	0.02
			4	14	0.08	0.08	0.03	0.03
			4	21	0.03	0.03	0.04	0.04
		1	4	3	0.12	0.12	0.03	0.03
			4	7	0.07	0.07	0.03	0.03

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
キャベツ (露地) [葉球] 2008年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルト レバ灌注 及び 62.5-75WP1 散布	1	4	14	0.05	0.05	0.02	0.02
			4	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			4	1	0.03	0.03	0.04	0.04
			4	3	0.03	0.03	0.04	0.04
	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルト レバ灌注 及び 50.5WP1 散布	1	4	7	0.03	0.03	0.04	0.04
			4	14	0.01	0.01	0.03	0.03
			4	1	0.32	0.30	0.77	0.76
			4	3	0.25	0.24	0.57	0.56
キャベツ (露地) [葉球] 2010年	1g <sup>G1</sup> /株植穴処理 及び 57.8WP1 散布	1	4	7	0.15	0.14	0.27	0.26
			4	14	0.08	0.08	0.23	0.23
			4	1	0.14	0.14	0.19	0.19
			4	3	0.32	0.32	0.31	0.30
	1g <sup>G1</sup> /株植穴処理 及び 70.3WP1 散布	1	4	14	0.07	0.07	0.05	0.05
			4	1	0.36	0.36	0.29	0.28
			4	3	0.16	0.16	0.33	0.32
			4	7	0.15	0.15	0.12	0.12
チンゲン サイ (施設) [茎葉] 2009年	45WP1 散布	1	2	1	0.39	0.39	0.56	0.54
			2	3	0.45	0.44	0.45	0.45
			2	7	0.27	0.26	0.26	0.26
			2	14	0.13	0.13	0.11	0.10
			2	21	0.08	0.08	0.09	0.08
	50WP1 散布	1	2	1	1.33	1.32	1.85	1.80
			2	3	1.15	1.14	1.48	1.48
			2	7	0.67	0.66	0.74	0.72
			2	14	0.23	0.22	0.41	0.41
			2	21	0.04	0.04	0.04	0.04
ブロッコリー (露地) [花蕾] 2005年 2006年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルト/レバ灌注 及び 50WP1 散布	1	4	3	0.21	0.20	0.19	0.18
			4	7	0.10	0.10	0.08	0.08
			4	14	0.03	0.03	0.02	0.02
			4	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	500 mL <sup>WP1</sup>	1	4	3	0.10	0.10	0.10	0.10

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法  (100 倍) セルトレイ灌注 及び 17.5~37.5WP1 散布	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
ブロッコリ 一 (露地) [花蕾] 2009 年	500 mLWP1 (100 倍) セルトレイ灌注 及び 150WP1 散布*	1	4	7	0.04	0.04	0.03	0.03
			4	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	500 mLWP1 (100 倍) セルトレイ灌注 及び 125WP1 散布*	1	4	1	0.66	0.65	0.56	0.54
			4	3	0.66	0.65	0.44	0.44
			4	7	0.63	0.61	0.55	0.54
			4	14	0.55	0.55	0.57	0.56
ブロッコリ 一 (露地) [花蕾] 2011 年	1 g <sup>G1</sup> /株植穴 処理 及び 68.3WP1 散布	1	4	1	0.20	0.20	0.30	0.30
			4	3	0.13	0.13	0.19	0.19
			4	7	0.07	0.06	0.07	0.07
			4	14	0.01	0.01	0.01	0.01
	1 g <sup>G1</sup> /株植穴 処理 及び 40-62.5WP1 散布	1	4	1	0.22	0.21	0.30	0.30
			4	3	0.14	0.14	0.15	0.15
			4	7	0.04	0.04	0.05	0.05
			4	10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
カリフラワ 一 (露地) [花蕾] 2009 年	75WP1 散布	1	3	1	0.17	0.17	0.20	0.19
			3	3	0.26	0.26	0.23	0.23
			3	7	0.16	0.16	0.09	0.08
			3	14	0.03	0.02	0.02	0.02
	52.5WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
カリフラ ワ (露地) [花蕾] 2011 年	500 mLWP1 (100 倍) セルトレイ灌注 及び 66.8WP1 散布	1	4	1			0.22	0.22
			4	3			0.07	0.07
			4	7			0.08	0.08
			4	14			<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
はなっこ りー (露地) [花蕾及び 茎] 2010年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 62.5-67.8 <sup>WP1</sup> 散布	1	4	1			0.18	0.18
			4	3			0.16	0.16
			4	7			0.11	0.11
			4	14			<0.01	<0.01
タアサイ (施設) [茎葉] 2013年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 75 <sup>WP1</sup> 散布	1	3	1	0.54	0.54		
			3	3	0.21	0.20		
			3	7	0.15	0.15		
			3	14	0.04	0.04		
	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 50 <sup>WP1</sup> 散布	1	3	1	0.53	0.52		
			3	3	0.45	0.44		
			3	7	0.20	0.20		
			3	14	0.03	0.03		
レタス (施設) [茎葉] 2005年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 50 <sup>WP1</sup> 散布	1	3	1			2.73	2.73
			3	3			2.45	2.37
			3	7			1.59	1.54
			3	14			1.08	1.06
	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 50 <sup>WP1</sup> 散布	1	3	1			2.72	2.70
			3	3			2.04	1.96
			3	7			2.34	2.32
			3	14			1.38	1.36
レタス (施設) [茎葉] 2009年	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び	1	4	3	2.29	2.28	2.26	2.18
			4	7	3.08	3.00	2.05	2.02
			4	14	1.00	0.96	0.98	0.94
			4	21	0.61	0.59	0.63	0.62
	500 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び	1	4	3	0.60	0.60	0.32	0.32
			4	7	0.39	0.38	0.17	0.16
			4	14	0.06	0.06	0.06	0.06
			4	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
レタス (施設) [茎葉] 2010年	112WP <sup>1</sup> 散布  500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 125-150WP <sup>1</sup> 散布	1	4	14	0.61	0.60	0.63	0.62
			4	1	0.60	0.58	0.80	0.80
			4	3	0.39	0.38	0.54	0.54
			4	7	0.45	0.44	0.38	0.38
			4	14	0.03	0.03	0.06	0.06
サラダ菜 (施設) [茎葉] 2007年	1 g <sup>G1</sup> /株植穴 処理 及び 125-144WP <sup>1</sup> 散布	1	4	1	1.83	1.80	1.49	1.48
			4	3	1.94	1.94	1.91	1.88
			4	7	0.86	0.86	1.80	1.78
			4	14	0.83	0.82	1.48	1.48
	1 g <sup>G1</sup> /株植穴 処理 及び 139-140WP <sup>1</sup> 散布	1	4	1	1.30	1.28	1.17	1.16
			4	3	1.05	1.02	1.09	1.08
			4	7	1.17	1.16	1.26	1.24
			4	14	0.49	0.48	0.48	0.48
サラダ菜 (施設) [茎葉] 2010年	50WP <sup>1</sup> 散布	1	2	1			1.99	1.98
			2	3			2.42	2.40
			2	7			2.26	2.22
			2	14			0.62	0.61
			2	21			0.08	0.08
	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注* 及び 100WP <sup>1</sup> 散布*	1	2	1			2.31	2.31
			2	3			1.63	1.63
			2	7			1.49	1.48
			2	14			0.70	0.70
			2	21			0.48	0.48
リーフレ タス (施設) [茎葉]	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注* 及び 100WP <sup>1</sup> 散布*	1	4	1			5.91	5.82
			4	3			1.47	1.45
			4	7			0.76	0.75
			4	14			0.12	0.12
	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /セルトレイ灌注 及び 96.7WP <sup>1</sup> 散布*	1	4	1			8.64	8.63
			4	3			6.74	6.65
			4	7			4.76	4.63
			4	14			0.64	0.63

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
2007年			2	14			0.25	0.24
			2	21			0.07	0.07
			1	2	1			6.83
				2	3			5.76
				2	7			3.45
				2	14			0.76
				2	21			0.14
リーフレ タス (施設) [茎葉] 2010年	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) セルトレイ灌注 及び 75WP <sup>1</sup> 散布*	1	4	1			7.20	6.98
			4	3			6.35	6.34
			4	7			2.37	2.34
			4	14			0.70	0.68
	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) セルトレイ灌注 及び 96.7WP <sup>1</sup> 散布*	1	4	1			8.59	8.46
			4	3			5.88	5.81
			4	7			3.34	3.27
			4	14			0.44	0.44
2011年	ふき (施設) [茎葉]	75WP <sup>1</sup> 散布	1	3	3			0.19
				3	7			0.17
				3	14			0.07
		1	3	3			0.29	0.29
			3	7			0.14	0.14
			3	14			0.08	0.08
2006年	ねぎ (露地) [茎葉]	50WP <sup>1</sup> 散布	1	3	3	0.21	0.21	0.17
				3	7	0.13	0.13	0.11
				3	14	0.10	0.10	0.06
				3	21	0.04	0.04	0.05
		1	3	3	0.67	0.66	0.56	0.56
			3	7	0.52	0.51	0.42	0.42
			3	14	0.17	0.17	0.16	0.16
			3	21	0.06	0.06	0.07	0.06
2011年	ねぎ (露地) [茎葉]	500 mLWP <sup>1</sup> (100倍) セルトレイ灌注 及び 48WP <sup>1</sup> 散布	1	4	1*			0.22
				4	3			0.09
				4	7			0.04
				4	14			0.02
	500 mLWP <sup>1</sup>	1	4	1*			0.23	0.22

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法 (100 倍) セルトレイ灌注 及び 45WP <sup>1</sup> 散布	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
アスパラ ガス (施設) [若茎] 2010 年	50WP <sup>1</sup> 散布	1	4	3			0.26	0.26
			4	7			0.20	0.20
			4	14			0.19	0.19
		1	3	1			0.02	0.02
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
パセリ (施設) [茎葉] 2010 年	50WP <sup>1</sup> 散布	1	3	1			0.02	0.02
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
パセリ (施設) [茎葉] 2011 年	99.3WP <sup>1</sup> 散布	1	1	7	5.70	5.62		
			1	14	4.18	4.12		
			1	21	2.51	2.46		
トマト (施設) [果実] 2006 年	25 mLWP <sup>1</sup> (100 倍) /ポット灌注 及び 100WP <sup>1</sup> 散布	1	4	1	0.02	0.02	0.03	0.03
			4	7	0.04	0.04	0.04	0.04
			4	14	0.04	0.04	0.03	0.02
		1	4	1	0.20	0.19	0.14	0.14
			4	7	0.12	0.12	0.10	0.10
			4	14	0.08	0.08	0.09	0.09
ミニトマト (施設) [果実] 2007 年	25 mLWP <sup>1</sup> (100 倍) /ポット灌注 及び 62.5WP <sup>1</sup> 散布	1	4	1	0.09	0.08	0.07	0.06
			4	3	0.13	0.12	0.08	0.08
			4	7	0.08	0.08	0.09	0.08
			4	14	0.12	0.12	0.13	0.12
		1	4	1	0.07	0.07	0.05	0.05
			4	3	0.05	0.05	0.05	0.04
			4	7	0.05	0.05	0.04	0.04
			4	14	0.04	0.04	0.04	0.04
ピーマン (施設) [果実] 2006 年	25 mLWP <sup>1</sup> (100 倍) /ポット灌注 及び 100WP 散布	1	3	1	0.23	0.22	0.20	0.20
			3	7	0.10	0.10	0.09	0.09
			3	14	0.03	0.02	0.02	0.02

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
2005年	25 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 125WP <sup>1</sup> 散布	1	3	1	0.32	0.32	0.39	0.38
			3	7	0.23	0.23	0.25	0.24
			3	14	0.14	0.14	0.12	0.12
なす (施設) [果実] 2006年	25 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 100WP <sup>1</sup> 散布	1	3	1	0.04	0.04	0.06	0.06
			3	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
しじう (施設) [果実] 2011年	25 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 150WP <sup>1</sup> 散布	1	3	1	0.26	0.26	0.18	0.18
			3	7	0.06	0.06	0.06	0.06
			3	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
甘長とう がらし (施設) [果実] 2011年	25 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 150WP <sup>1</sup> 散布	1	4*	1	1.17	1.12		
			4*	3	0.60	0.59		
			4*	7	0.24	0.24		
			4*	14	0.05	0.05		
すいか (施設) [果肉] 2009年	25 mLWP <sup>1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 90WP <sup>1</sup> 散布	1	4*	1	2.60	2.50		
			4*	3	1.93	1.90		
			4*	7	0.88	0.86		
			4*	14	0.56	0.55		
すいか (施設) [果肉] 2009年	75WP <sup>1</sup> 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
すいか	75WP <sup>1</sup>	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年 (施設) [果皮] 2009年	使用量 (g ai/ha) 処理方法 散布	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
			3	3	0.20	0.20	0.33	0.32
			3	7	0.12	0.12	0.22	0.22
			1	3	0.11	0.10	0.14	0.14
			1	3	0.08	0.08	0.13	0.12
			1	3	0.09	0.09	0.12	0.12
メロン (施設) [果肉] 2011年	50 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
	62.5-62.8 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
メロン (施設) [果皮] 2011年	50 WP1 散布	1	3	1	0.50	0.50		
			3	3	0.54	0.54		
			3	7	0.51	0.50		
			3	14	0.41	0.41		
	62.5-62.8 WP1 散布	1	3	1	0.46	0.46		
			3	3	0.49	0.48		
			3	7	0.46	0.46		
			3	14	0.41	0.40		
とうがん (施設) [果実] 2012年	50 WP1 散布	1	3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
ほうれん そう (施設) [茎葉] 2010年	38.1 WP1 散布	1	3	1	3.71	3.64	2.93	2.90
			3	3	3.74	3.72	4.08	4.03
			3	7	3.25	3.24	3.52	3.48
			3	14	4.14	4.10	3.94	3.88
	45.7 WP1 散布	1	3	1	4.67	4.66	3.35	3.32
			3	3	3.80	3.71	2.64	2.64
			3	7	3.56	3.54	3.04	3.00

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
きゅうり (施設) [果実] 2006年	25 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 100 <sup>WP1</sup> 散布	1	3	14	0.74	0.72	0.51	0.51
			4	1	0.05	0.05	0.04	0.04
			4	7	0.01	0.01	0.01	0.01
	25 mL <sup>WP1</sup> (100倍) /ポット灌注 及び 150 <sup>WP1</sup> 散布	1	4	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.07	0.07	0.06	0.06
			4	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) [葉部] 2007年	50 WP1 散布	1	3	1	1.80	1.78	1.57	1.54
			3	3	0.67	0.66	0.63	0.62
			3	7	0.28	0.28	0.68	0.68
			3	15	0.10	0.10	0.14	0.14
		1	3	1	1.30	1.29	0.71	0.70
			3	3	1.13	1.12	0.73	0.70
			3	7	0.38	0.38	0.37	0.36
			3	14	0.57	0.56	0.35	0.35
だいこん (露地) [根部] 2007年	50 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
はつかだ いこん (露地) [茎部] 2012年	50 WP1 散布	1	1	1			5.00	5.00
			1	3			6.75	6.62
			1	7			2.65	2.58
	50 WP1 散布	1	1	1			6.50	6.50
			1	3			3.75	3.75
			1	7			2.65	2.62
はつかだ いこん (露地) [根部]	50 WP1 散布	1	1	1			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	7			<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
2012年	50 WP1 散布	1	1	1			<0.01	<0.01
			1	3			<0.01	<0.01
			1	7			<0.01	<0.01
かぶ (露地) [葉部] 2007年	50 WP1 散布	1	3	1	2.77	2.74	3.34	3.21
			3	3	2.48	2.47	2.54	2.54
			3	7	2.00	1.98	2.22	2.22
			3	14	1.66	1.64	1.70	1.70
		1	3	1	3.38	3.36	3.25	3.20
			3	3	2.69	2.68	2.61	2.54
			3	7	1.54	1.56	1.63	1.57
			3	14	1.24	1.22	1.07	1.05
かぶ (露地) [根部] 2007年	50 WP1 散布	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01
		1	3	1	0.03	0.03	0.03	0.03
			3	3	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			3	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			3	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
クレソン (施設) [茎葉] 2011年	50 WP1 散布	1	3	3			3.12	3.08
			3	7			0.78	0.78
			3	14			<0.14	0.14
		1	3	3			1.24	1.22
			3	7			0.39	0.39
			3	14			0.04	0.04
りんご (露地) [果実] 2006年	240 WP2 散布	1	3	3	0.31	0.31	0.21	0.21
			3	7	0.31	0.30	0.14	0.14
			3	14	0.23	0.23	0.22	0.22
			3	21	0.17	0.16	0.12	0.12
	250 WP2 散布	1	3	3	0.10	0.10	0.09	0.09
			3	7	0.09	0.09	0.05	0.05
			3	14	0.08	0.08	0.05	0.04
			3	21	0.06	0.06	0.04	0.04
りんご (露地) [果実] 2008年	200 WP2 散布	1	3	1	0.34	0.32	0.37	0.37
			3	3	0.33	0.32	0.33	0.32
			3	7	0.31	0.31	0.36	0.34
			3	14	0.36	0.36	0.34	0.34
	180 WP2 散布	1	3	1	0.19	0.18	0.18	0.18
			3	3	0.18	0.18	0.16	0.16

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
なし (露地) [果実] 2005年	160 WP2 散布	1	3	7	0.18	0.18	0.15	0.14
			3	14	0.16	0.16	0.14	0.14
			3	3	0.13	0.12	0.16	0.16
			3	7	0.12	0.12	0.12	0.12
	280 WP2 散布	1	3	14	0.10	0.10	0.12	0.12
			3	21	0.07	0.07	0.09	0.08
			3	3	0.13	0.12	0.18	0.18
			3	7	0.09	0.08	0.13	0.13
なし (露地) [果実] 2008年	200 WP2 散布	1	3	14	0.06	0.06	0.14	0.14
			3	21	0.08	0.08	0.11	0.10
			3	1	0.27	0.26	0.34	0.33
			3	3	0.23	0.22	0.26	0.25
	200 WP2 散布	1	3	7	0.29	0.29	0.24	0.24
			3	14	0.19	0.19	0.22	0.22
			3	1	0.15	0.15	0.17	0.17
			3	3	0.15	0.15	0.12	0.12
もも (露地) [果肉] 2006年	80 WP2 散布	1	2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	100 WP2 散布	1	2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
もも (露地) [果皮] 2006年	80 WP2 散布	1	2	3	1.74	1.67	1.11	1.10
			2	7	0.99	1.16	1.02	1.02
			2	14	1.17	0.98	0.60	0.60
			2	21	0.64	0.62	0.43	0.42
	100 WP2 散布	1	2	3	0.70	0.70	0.49	0.48
			2	7	0.63	0.63	0.44	0.44
			2	14	0.63	0.62	0.42	0.42
			2	21	0.34	0.02	0.31	0.30
もも (露地) [果肉] 2008年	72 WP2 散布	1	3*	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	80 WP2 散布	1	3*	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3*	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
もも (露地) [果皮] 2008年	72 WP2 散布	1	3*	1	1.44	1.42	0.86	0.86
			3*	3	0.48	0.48	0.79	0.78
			3*	7	1.33	1.30	0.62	0.62
			3*	14	0.93	0.90	0.36	0.35
	80 WP2 散布	1	3*	1	1.36	1.34	1.13	1.10
			3*	3	1.36	1.30	0.56	0.54
			3*	7	0.63	0.62	0.76	0.76
			3*	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ネクタリン (露地) [果実] 2006年	80 WP2 散布	1	2	3			0.11	0.11
			2	7			0.09	0.08
			2	14			0.08	0.08
			2	21			0.10	0.10
	1	1	2	3			0.08	0.08
			2	7			0.08	0.08
			2	14			0.06	0.06
			2	21			0.07	0.06
あんず (露地) [果実] 2006年	250 WP2 散布	1	3	3			0.63	0.62
			3	7			0.52	0.52
			3	14			0.50	0.49
			3	21			0.47	0.45
	1	1	3	3			0.29	0.28
			3	7			0.28	0.28
			3	14			0.34	0.32
			3	21			0.18	0.18
すもも (露地) [果実] 2006年	200 WP2 散布	1	3	3			0.03	0.03
			3	7			0.02	0.02
			3	14			0.04	0.04
			3	21			0.04	0.04
	1	1	3	3			0.09	0.08
			3	7			0.06	0.06
			3	14			0.04	0.04
			3	21			0.03	0.03
うめ (露地) [果実] 2011年	125 WP2 散布	1	3	1*	1.09	1.08		
			3	3*	0.92	0.92		
			3	7*	0.67	0.66		
			3	14	0.44	0.44		
	160 WP2 散布	1	3	1*	0.59	0.59		
			3	3*	0.58	0.57		
			3	7*	0.45	0.44		

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
とうとう (施設) [果実] 2006年	280 WP2 散布	1	3	14	0.32	0.32		
			3	3			0.39	0.38
			3	7			0.31	0.31
			3	14			0.25	0.24
	200 WP2 散布	1	3	21			0.18	0.18
			3	3			0.23	0.23
			3	7			0.22	0.22
			3	14			0.14	0.14
とうとう (施設) [果実] 2011年	167 WP2 散布	1	3	21			0.13	0.13
			3	1			0.10	0.10
			3	3			0.09	0.09
			3	7			0.09	0.09
	180 WP2 散布	1	3	14			0.19	0.18
			3	1			0.18	0.18
			3	3			0.12	0.12
			3	7			0.16	0.16
いちご (施設) [果実] 2006年	50WP1 散布	1	2	1	0.23	0.23	0.23	0.22
			2	7	0.16	0.16	0.11	0.11
			2	14	0.09	0.08	0.08	0.08
	50WP1 散布	1	2	1	0.31	0.30	0.15	0.14
			2	7	0.09	0.09	0.17	0.16
			2	14	0.10	0.10	0.10	0.10
ぶどう (無袋) (施設) [果実] 2007年	60 WP2 散布	1	3	1	0.11	0.11	0.10	0.10
			3	3	0.16	0.16	0.10	0.10
			3	7	0.08	0.08	0.09	0.09
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	100 WP2 散布	1	3	1	0.45	0.44	0.29	0.29
			3	3	0.52	0.51	0.36	0.35
			3	7	0.50	0.50	0.27	0.26
			3	14	0.41	0.41	0.31	0.30
かき (露地) [果実] 2007年	100 WP2 散布	1	3	1	0.07	0.07	0.05	0.05
			3	3	0.04	0.04	0.04	0.04
			3	7	0.04	0.04	0.04	0.04
			3	14	0.03	0.03	0.02	0.02
	100 WP2 散布	1	3	1	0.05	0.05	0.05	0.05
			3	3	0.06	0.06	0.06	0.06
			3	7	0.07	0.07	0.05	0.05

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年	使用量 (g ai/ha) 処理方法	試 験 ほ 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
			3	14	0.07	0.07	0.04	0.04
茶 (露地) [荒茶] 2006年	400 WP2 散布	1	1	3	25.8	25.2	29.9	29.8
			1	7	20.7	20.6	25.4	24.8
			1	14	4.02	4.00	5.05	5.00
			1	21	0.36	0.35	0.34	0.34
		1	1	3	29.3	29.0	38.8	38.6
			1	7	14.1	14.0	19.1	18.8
			1	14	4.49	4.48	5.79	5.66
			1	21	0.89	0.88	1.00	0.96
茶 (露地) [浸出液] 2006年	200 WP2 散布	1	1	3			17.3	16.9
			1	7			13.2	13.0
			1	14			2.78	2.76
			1	21			0.24	0.24
		1	1	3			19.8	19.6
			1	7			9.48	9.47
			1	14			3.06	3.00
			1	21			0.51	0.51
バジル (施設) [茎葉] 2012年	50WP1 散布	1	3	1			8.08	8.08
			3	3			6.82	6.72
			3	7			4.05	4.04
		1	3	1			5.89	5.86
			3	3			4.17	4.14
			3	7			2.14	2.04
			3	1			7.82	7.76
しそ (施設) [葉] 2012年	50WP1 散布	1	3	3			5.92	5.88
			3	7			2.71	2.68
		1	3	1			17.4	17.3
			3	3			11.3	11.2
			3	7			7.03	6.91
			3	1			1.95	1.92
			1	7			1.99	1.98
			1	14			1.74	1.73
コリアン ダー (施設) [茎葉] 2013年	44WP1 散布	1	1	3*			4.37	4.36
			1	7			1.21	1.18
			1	14			0.67	0.66
	45.8WP1 散布	1	1	3*				
			1	7				
			1	14				

・ WP1 : 水和剤(5%)、WP2 : 水和剤(10%)、G1 : 粒剤 (0.5%) 、G2 : 粒剤 (1.0%)

・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値に<を付して記載した。

・農薬の使用量、使用回数又は使用時期 (PHI) が登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は使用量、使用回数又は PHI に\*を付した。

<別紙4：作物残留試験成績（海外）>

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
ばれいしょ (塊茎) 2004年	1	35%WG	49	3	0* 7* 14 21 28	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003
ばれいしょ (塊茎) 2004年	1	35%WG	50-52	3	0* 7* 15 21 28	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003
ばれいしょ (塊茎) 2005年	1	35%WG	74-76	3	0* 1* 3* 7* 14 21	<0.003 <0.003 0.004 <0.003 0.003 <0.003	<0.003 <0.003 0.003 <0.003 0.003 <0.003
ばれいしょ (塊茎) 2005年	1	35%WG	76	3	0* 1* 3* 7* 14 21	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003	<0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003 <0.003
ばれいしょ (塊茎) 2005年	1	35%WG	380		14	0.004	0.003
ばれいしょ (塊茎) 2005年	13	35%WG	73-78	3	14	0.005	0.003
ばれいしょ (塊茎) 2005年	2	35%WG	73-78	3	15	0.004	0.003
キャベツ (葉球) (外葉付き) 2005年	6	20%SC	104-118	2	3	1.2	0.46
キャベツ (葉球) (外葉付き) 2006年	1	20%SC	112-116	2	4	0.11	0.10
キャベツ (葉球) (外葉を除去)	2	20%SC	110-115	2	3	0.098	0.078

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
2005年							
キャベツ (葉球) (外葉を除去)	1	20%SC	116-118	2	3	0.054	0.037
2006年							
ブロッコリー (頭部及び茎)	1	20%SC	113-114	2	0*	0.58	0.46
2005年					1*	0.71	0.67
					3	0.71	0.56
					7	0.10	0.10
					10	0.05	0.042
ブロッコリー (頭部及び茎)	8	20%SC	109-118	2	3	0.44	0.32
2005年							
からしな (茎葉部)	8	20%SC	111-118	2	3	6.1	3.4
2005年							
レタス (茎葉部) (外葉付き)	1	20%SC	111-113	2	0*	0.69	0.56
2005年					1	0.62	0.55
					3	0.64	0.46
					7	0.27	0.18
					10	0.067	0.048
レタス (茎葉部) (外葉付き)	6	20%SC	109-115	2	1	2.5	1.07
2005年							
レタス (茎葉部) (外葉を除去)	3	20%SC	111-115	2	1	0.74	0.30
2005年							
リーフレタス (茎葉部)	7	20%SC	110-118	2	1	6.3	4.44
2005年							
セルリー (茎葉部)	7	20%SC	112-118	2	1	3.8	2.35
2005年							
セルリー (茎葉部) (外葉を除去)	3	20%SC	112-114	2	1	2.6	1.00
2005年							
トマト (果実)	19	20%SC	106-120	2	1	0.19	0.08

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
2005年							
トマト (果実) 2005年	1	20%SC	113	2	0* 1 3 7 10	0.16 0.066 0.071 0.071 0.071	0.14 0.049 0.058 0.052 0.070
ピーマン (果実) 2005年	10	20%SC	105-119	2	1	0.19	0.08
ピーマン (果実) 2006年	1	20%SC	113	2	1	0.16	0.13
とうがらし類 (果実) 2005年	9	20%SC	109-119	2	1	0.43	0.12
きゅうり (果実) 2005年	1	20%SC	118-119	2	0* 1 3 7 10	0.025 0.022 0.016 0.006 0.004	0.022 0.017 0.013 0.006 0.004
きゅうり (果実) 2005年	6	20%SC	109-124	2	1	0.083	0.032
メロン (カンタループ) (果実) 2005年	6	20%SC	110-121	2	1	0.12	0.069
メロン (マスクメロン) (果実) 2005年	1	20%SC	113-114	2	1	0.011	0.010
ペポカボチャ (果実) 2005年	6	20%SC	108-121	2	1	0.093	0.048
ほうれんそう (茎葉部) 2005年	1	20%SC	110-113	2	0* 1 3 7 10	3.9 3.4 3.5 2.7 2.7	3.7 3.4 3.1 2.4 2.3
ほうれんそう (茎葉部)	6	20%SC	110-118	2	1	9.7	7.4

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
2005年							
りんご (果実) 2005年	1	35%WG	112	2	0* 7 14 21 28	0.14 0.11 0.091 0.070 0.069	0.13 0.10 0.088 0.066 0.067
りんご (果実) 2005年	13	35%WG	111-118	2	14	0.30	0.071
りんご (果実) 2005年	3	35%WG	109-113	2	15	0.078	0.073
なし (果実) 2005年	1	35%WG	113-115	2	10	0.065	0.054
なし (果実) 2005年	3	35%WG	112	2	13	0.091	0.059
なし (果実) 2005年	7	35%WG	112-113	2	14	0.14	0.075
もも (果実) 2005年	1	35%WG	116	2	1* 3* 8* 10 14	0.166 0.108 0.100 0.119 0.140	0.158 0.101 0.0736 0.118 0.114
もも (果実) 2005年	1	35%WG	112	2	1* 3* 8* 11 15	0.338 0.286 0.336 0.268 0.182	0.318 0.264 0.289 0.255 0.172
もも (果実) 2005年	2	35%WG	111-112	2	9*	0.130	0.098
もも (果実) 2005年	9	35%WG	111-114	2	10	0.311	0.128
もも (果実) 2005年	4	35%WG	110-116	2	11	0.352	0.171

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
もも (果実) 2005年	2	35%WG	115-116	2	7*	0.127	0.102
		35%WG (オイル 加用)	115	2	7*	0.164	0.115
		35%WG (展着剤 加用)	115-116	2	7*	0.137	0.116
すもも (果実) 2005年	1	35%WG	111-112	2	0* 5* 10	0.005 0.004 0.005	0.004 0.003 0.004
		35WG (オイル 加用)	108-112	2	10	0.013	0.011
		35%WG (展着剤 加用)	111-112	2	10	0.011	0.011
		35%WG	112	2	14	0.003	0.003
		35%WG	112	2	21	<0.003	<0.003
すもも (果実) 2005年	2	35%WG	112	2	10	0.018	0.013
		35%WG (オイル 加用)		2		0.044	0.036
		35%WG (展着剤 加用)		2		0.085	0.052
すもも (果実) 2005年	10	35%WG	105-112	2	10	0.076	0.023
おうとう (果実) 2005年	1	35%WG	112	2	10	0.12	0.10
		35%WG (オイル 加用)		2	10	0.15	0.15
		35%WG (展着剤 加用)		2	10	0.21	0.19
おうとう (果実)	1	35%WG	112	2	10	0.37	0.36
		35%WG		2	10	0.49	0.48

作物名 (分析部位) 実施年 2005年	試験 ほ場数	剤型 (オイル 加用)	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
		35%WG (展着剤 加用)		2	10	0.61	0.57
とうとう (果実) 2005年	2	35%WG	110-112	2	9*	0.19	0.14
とうとう (果実) 2005年	4	35%WG	110-112	2	10	0.48	0.25
ぶどう (果実) 2005年	1	35%WG	116-119	2	1* 2* 7* 13* 23	0.0443 0.0438 0.0417 0.0144 0.0123	0.0403 0.0365 0.0392 0.0130 0.0153
ぶどう (果実) 2005年	1	35%WG	112	2	1* 4* 7* 15 20	0.591 0.376 0.345 0.288 0.385	0.429 0.296 0.335 0.248 0.320
ぶどう (果実) 2005年	2	35%WG	111-115	2	13*	0.589	0.360
ぶどう (果実) 2005年	8	35%WG	112-116	2	14	0.3650	0.284
ぶどう (果実) 2005年	2	35%WG	109-112	2	15	0.5910	0.298
ぶどう (果実) 2005年	2	35%WG	112-115	2	14	0.0621	0.0395
		35%WG (オイル 加用)	112-114	2	14	0.0556	0.0443
		35%WG (展着剤 加用)	112-115	2	14	0.101	0.0658

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
ぶどう (果実) 2005年	1	35%WG	109-111	2	15	0.267	0.189
		35%WG (オイル 加用)	108	2	15	0.379	0.371
		35%WG (展着剤 加用)	108	2	15	0.528	0.461
綿実 (種子) 2005年	1	35%WG	110-118	2	0* 7* 14* 21 28	0.078 0.062 0.033 0.019 0.015	0.078 0.061 0.029 0.011 0.014
綿実 (種子) 2005年	1	35%WG	110-112	2	0* 6* 14* 20* 25	0.24 0.37 0.26 0.18 0.23	0.23 0.34 0.25 0.18 0.21
綿実 (種子) 2005年	1	35%WG	112	2	20*	0.019	0.016
綿実 (種子) 2005年	7	35%WG	109-114	2	21	0.15	0.063
綿実 (種子) 2005年	3	35%WG	110-114	2	22	0.085	0.055
綿実 (種子) 2005年	1	35%WG	112-113	2	23	0.006	0.006
綿実 (繰綿) 2005年	5	35%WG	109-114	2	21	13	5.62
綿実 (繰綿) 2005年	2	35%WG	110-114	2	22	15	6.79
グリーンビーン (さや)	5	35%WG	59.7-61.6	2	0* 1	0.19 0.15	0.13 0.13

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
2006年					7 14 21	0.081 0.079 0.084	0.072 0.055 0.040
グリーンビーン (さや) 2006年	4	35%WG	57.7-61.1	2	1	0.30	0.15
グリーンビーン (さや) 2007年	6	35%WG	38.9-40.9	2	0* 1 3	0.25 0.25 0.13	0.131 0.134 0.074
グリーンビーン (さや) 2007年	4	35%WG	38.1-40.9	2	1	0.12	0.072
ポールビーン (さや) 2006年	1	5%SC	20	6	0* 1 3 7 14	— — — — —	3.080 0.057 0.028 0.014 0.003
ポールビーン (さや) 2006年	1	5%SC	40	6	0* 1 3 7 14	— — — — —	11.0 0.145 0.086 0.033 0.011
とうもろこし (穀粒) 2007年	1	20%SC	110-112	2	13	<0.003	<0.003
とうもろこし (穀粒) 2007年	1	20%SC	559-567	2	13	<0.003	<0.003
とうもろこし (穀粒) 2007年	4	20%SC	105-112	2	14	<0.003	<0.003
とうもろこし (穀粒) 2007年	2	20%SC	108-116	2	15	0.012	0.007
とうもろこし (穀粒) 2007年	1	20%SC	554-567	2	15	0.004	0.004
とうもろこし (穀粒) 2008年	10	20%SC	0.198- 0.218 lb/Acre	4	14	<0.010	<0.010
とうもろこし	1	20%SC	0.303	5	14	<0.010	<0.010

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
(穀粒) 2008年			lb/Acre				
稻 (穀粒) 2007年	16	60%FS (種子処理)	550-561 (0.10 mg/ 種子)	1	113- 148	0.087	0.045
稻 (穀粒) 2007年	2	60%FS (種子処理)	1,080- 1,120 (0.20 mg/ 種子)	1	120- 148	0.054	0.043
ブラックベリー (果実) 2008年	2	35%WG	0.097- 0.100 lb/Acre	2	3	0.445	0.242
ラズベリー (果実) 2008年	5	35%WG	0.100- 0.105 lb/Acre	2	3	0.543	0.361
ラズベリー (果実) 2008年	1	35%WG	0.099- 0.103 lb/Acre	2	1 3 7 10	0.15 0.0744 0.0921 0.0671	0.0902 0.0731 0.0908 0.059
ミント (茎葉) 2008年	5	35%WG	0.097- 0.103 lb/Acre	2	3	6.24	4.49
コーヒー豆 (豆) 2007年	1	35%WG	52.5	3	7 21	—	0.115 0.031
コーヒー豆 (豆) 2008年	1	35%WG	52.5	3	1* 3* 7 14 21	—	0.188 0.163 0.115 0.056 0.021
コーヒー豆 (豆) 2008年	1	35%WG	52.5	3	7 21	—	0.098 0.025
コーヒー豆 (豆) 2008年	1	35%WG	52.5	3	1* 3* 7 14 21	—	0.205 0.140 0.101 0.069 0.023
アーモンド (果実) 2006年	5	35%WG	111-114	2	10	0.008	0.005

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
アーモンド (果実) 2006年	1	35%WG	111-112	2	11	0.009	0.008
ペカン (果実) 2006年	1	35%WG	112-113	2	9*	0.016	0.015
ペカン (果実) 2006年	5	35%WG	112-114	2	10	0.016	0.007
アルファルファ (茎葉) 2008年	14	20%SC	108-118	2	0*	11	6.2
アルファルファ (茎葉) 2008年	1	20%SC	110	2	0* 7 14	7.1 7.1 8.3	6.9 7.1 7.9
アルファルファ (種子) 2008年	10	20%SC	112-116	1	0	1.8	0.69
なたね (種子) 2010年	6	18.4%SC	108-117	2	1*	1.2	0.47
ひまわり (種子) 2010年	6	18.4%SC	109-116	2	1*	0.85	0.36
らっかせい (可食部) 2012年	6	18.4%SC	111-115	2	1	0.046	0.01
ラディッシュ (根部) 2008年	6	18.4%SC	112-116	2	1	0.26	0.076
小麦 (穀粒) 2009年	5	18.4%SC	0.095- 0.107 lb/Acre	2	1*	0.428	0.252
大麦 (穀粒) 2009年	3	18.4%SC	0.100- 0.104 lb/Acre	2	1*	2.17	1.93
ソルガム (穀粒) 2009年	3	18.4%SC	0.099- 0.102 lb/Acre	2	1*	1.52	1.15

作物名 (分析部位) 実施年	試験 ほ場数	剤型	処理量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
						最高値	平均値
ねぎ (茎葉) 2009年	5	18.4%SC	0.098- 0.105 lb/Acre	2	1	1.50	0.811
さやいんげん (さや) 2008年	9	18.4%SC	0.092- 0.103 lb/Acre	2	1	0.411	0.146
さやえんどう (さや) 2008年	9	18.4%SC	0.098- 0.104 lb/Acre	2	1	0.652	0.206
さやえんどう (さや) 2008年	1	18.4%SC	0.101 lb/Acre	2	1 3 6 13	0.496 0.308 0.240 0.0977	0.449 0.307 0.226 0.0844

・ FS : フロアブル剤、SC : フロアブル剤、WG : 顆粒水和剤

・ - : 該当せず

・ 農薬の使用時期 (PHI) が米国 GAP から逸脱している場合には PHI に\*を付した。

<別紙5：畜産物残留試験成績>

①産卵鶏-1

投与量 (mg/kg 体重/日)	試料	試料 採取日	残留値(μg/g)			
			クロラ ントラ ニリップ ロール	代謝物 C	代謝物 E	代謝物 N
0.17 mg/kg 体重/日 14日間 投与	全卵	投与0 ～14日	0.039	0.005	0.011	0.057
	肝臓	最終 投与後	0.009			
	筋肉		<0.001			
	皮膚(脂肪 を含む)		<0.002			

/ : データなし

②産卵鶏-2

投与群	試料	試料 採取日 (日)	残留値(μg/g)					
			クロラ ントラ ニリップ ロール	代謝 物 C	代謝 物 E	代謝 物 M	代謝 物 N	代謝 物 O
3 mg/kg 飼料	全卵	投与1日	0.043	0.018	<0.01	0.013	0.011	<0.01
		投与4日	0.086	0.041	<0.01	0.045	0.038	0.013
		投与7日	0.113	0.062	<0.01	0.051	0.050	0.015
		投与10日	0.119	0.061	<0.01	0.052	0.047	0.020
		投与14日	0.114	0.062	0.011	0.056	0.055	0.015
		投与17日	0.095	0.046	<0.01	0.044	0.041	0.014
		投与21日	0.100	0.047	0.011	0.057	0.058	0.015
		投与27日	0.132	0.070	0.010	0.058	0.052	0.018
	卵黄	投与14日	0.025	0.021	<0.01	0.025	0.022	<0.01
		投与21日	0.028	0.023	<0.01	0.029	0.022	<0.01
	卵白	投与14日	0.138	0.073	0.014	0.067	0.060	0.019
		投与21日	0.146	0.078	0.015	0.074	0.076	0.022
	筋肉	投与28日	0.011	0.010	<0.01	0.013	ND	ND
	肝臓		0.038	0.042	0.021	0.062	<0.01	ND
	皮膚/脂肪		0.043	0.019	<0.01	0.046	<0.01	ND
9 mg/kg 飼料	全卵	投与1日	0.022	0.011	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		投与4日	0.196	0.112	0.021	0.105	0.101	0.029
		投与7日	0.133	0.089	0.022	0.081	0.081	0.020
		投与10日	0.184	0.124	0.028	0.122	0.119	0.028
		投与14日	0.296	0.149	0.025	0.139	0.139	0.045
		投与17日	0.146	0.079	0.019	0.084	0.081	0.024
		投与21日	0.194	0.103	0.025	0.099	0.093	0.030
		投与27日	0.105	0.075	0.020	0.080	0.071	0.016
	卵黄	投与14日	0.082	0.066	0.011	0.077	0.076	0.021

30 mg/kg 飼料	卵白	投与 21 日	0.061	0.061	0.013	0.067	0.050	0.012
		投与 14 日	0.407	0.193	0.033	0.189	0.159	0.054
		投与 21 日	0.246	0.122	0.028	0.102	0.112	0.037
	筋肉	投与 28 日	0.027	0.028	<0.01	0.031	<0.01	ND
			0.092	0.113	0.060	0.153	0.018	ND
	皮膚/脂肪		0.096	0.068	<0.01	0.103	<0.01	<0.01
	全卵	投与 1 日	0.031	0.013	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		投与 4 日	0.312	0.170	0.036	0.180	0.154	0.044
		投与 7 日	0.260	0.181	0.038	0.155	0.153	0.043
		投与 10 日	0.439	0.285	0.043	0.178	0.190	0.069
		投与 14 日	0.417	0.295	0.055	0.238	0.262	0.067
		投与 17 日	0.419	0.273	0.047	0.223	0.209	0.062
		投与 21 日	0.447	0.259	0.063	0.248	0.270	0.070
		投与 27 日	0.300	0.206	0.049	0.178	0.183	0.048
	卵黄	投与 14 日	0.160	0.147	0.031	0.160	0.139	0.034
		投与 21 日	0.125	0.121	0.031	0.143	0.115	0.029
	卵白	投与 14 日	0.595	0.392	0.081	0.345	0.326	0.089
		投与 21 日	0.625	0.346	0.082	0.310	0.336	0.093
	筋肉	投与 28 日	0.049	0.052	<0.01	0.064	<0.01	ND
	肝臓		0.147	0.199	0.159	0.286	0.031	ND
	皮膚/脂肪		0.168	0.092	<0.01	0.204	0.016	<0.01

ND : 検出限界 (0.03 µg/g) 未満

### ③泌乳牛

投与群	試料	試料 採取日	残留値(µg/g)			
			クロラン トラニリ プロール	代謝物 D	代謝物 G	
1 mg/kg 飼料	全乳	投与 1 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 3 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 5 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 7 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 10 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 14 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 21 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 28 日	<0.003	<0.003	<0.003	
3 mg/kg 飼料 28 日間		投与 1 日	<0.003	<0.003	<0.003	
		投与 3 日	<0.003	0.004	<0.003	
		投与 5 日	<0.003	0.004	<0.003	
		投与 7 日	<0.003	0.005	<0.003	
		投与 10 日	<0.003	0.004	<0.003	
		投与 14 日	<0.003	0.004	0.003	

		投与 21 日	<0.003	0.004	<0.003
		投与 28 日	<0.003	0.004	<0.003
10 mg/kg 飼料 28 日間		投与 1 日	<0.003	0.004	<0.003
		投与 3 日	0.005	0.011	0.003
		投与 5 日	0.005	0.010	0.003
		投与 7 日	0.006	0.013	0.005
		投与 10 日	0.005	0.013	0.005
		投与 14 日	0.005	0.011	0.004
		投与 21 日	0.004	0.011	0.004
		投与 28 日	0.006	0.013	0.004
50 mg/kg 飼料 28 日間	全乳	投与 1 日	0.008	0.010	<0.003
		投与 3 日	0.021	0.029	0.009
		投与 5 日	0.024	0.025	0.009
		投与 7 日	0.027	0.030	0.012
		投与 10 日	0.020	0.029	0.013
		投与 14 日	0.024	0.027	0.011
		投与 21 日	0.016	0.026	0.009
		投与 28 日	0.017	0.029	0.011
50 mg/kg 飼料 28 日間 (減衰試験群)		投与 1 日	0.010	0.015	0.004
		投与 3 日	0.020	0.035	0.011
		投与 5 日	0.020	0.031	0.009
		投与 7 日	0.027	0.043	0.013
		投与 10 日	0.024	0.039	0.014
		投与 14 日	0.028	0.039	0.011
		投与 21 日	0.018	0.038	0.012
		投与 28 日	0.021	0.045	0.013
1 mg/kg 飼料 28 日間	脂肪	最終投与 1 日後	0.004		
	筋肉		<0.003		
	肝臓		0.005		
	腎臓		<0.003		
3 mg/kg 飼料 28 日間	脂肪	最終投与 1 日後	0.015		
	筋肉		0.004		
	肝臓		0.014		
	腎臓		0.009		
10 mg/kg 飼料 28 日間	脂肪	最終投与 1 日後	0.036		
	筋肉		0.009		
	肝臓		0.035		

	腎臓		0.035		
50 mg/kg 飼料 28 日間	脂肪	最終投与 1 日後	0.16		
	筋肉		0.029		
	肝臓		0.13		
	腎臓		0.081		

/ : データなし

<別紙6：推定摂取量>

農畜 水産物	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児(1~6歳) (体重：16.5 kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者(65歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
大豆	0.01	39.0	0.39	20.4	0.20	31.3	0.31	46.1	0.46
だいこん類 (葉)	6.62	1.7	11.3	0.6	3.97	3.1	20.5	2.8	18.5
かぶ類 (根)	0.03	2.8	0.08	0.8	0.02	0.1	0.00	5.0	0.15
かぶ類 (葉)	3.36	0.3	1.01	0.1	0.34	0.1	0.34	0.6	2.02
クレソン	3.08	0.1	0.31	0.1	0.31	0.1	0.31	0.1	0.31
はくさい	2.00	17.7	35.4	5.1	10.2	16.6	33.2	21.6	43.2
キャベツ	0.76	24.1	18.3	11.6	8.82	19.0	14.4	23.8	18.1
こまつな	3.18	5.0	15.9	1.8	5.72	6.4	20.35	6.4	20.35
きょうな	5.76	2.2	12.67	0.4	2.3	1.4	8.06	2.7	15.55
チンゲンサイ	1.80	1.8	3.24	0.7	1.26	1.8	3.24	1.9	3.42
カリフラワー	0.26	0.5	0.13	0.2	0.05	0.1	0.03	0.5	0.13
ブロッコリー	0.65	5.2	3.38	3.3	2.15	5.5	3.58	5.7	3.71
その他の あぶらな科 野菜	2.73	3.4	9.28	0.6	1.64	0.8	2.18	4.8	13.1
レタス	6.70	9.6	64.32	4.4	29.48	11.4	76.38	9.2	61.64
その他の きく科野菜	0.29	1.5	0.44	0.1	0.03	0.6	0.17	2.6	0.75
ねぎ	0.66	9.4	6.20	3.7	2.44	6.8	4.49	10.7	7.06
アスパラガス	0.02	1.7	0.03	0.7	0.01	1.0	0.02	2.5	0.05
パセリ	6.10	0.1	0.61	0.1	0.61	0.1	0.61	0.2	1.22
トマト	0.19	32.1	6.10	19.0	3.61	32.0	6.08	36.6	6.95
ピーマン	0.38	4.8	1.82	2.2	0.84	7.6	2.89	4.9	1.86
なす	0.26	12.0	3.12	2.1	0.55	10.0	2.60	17.1	4.45
きゅうり	0.07	20.7	1.45	9.6	0.67	14.2	0.99	25.6	1.79
その他の うり科野菜	0.33	2.7	0.89	1.2	0.40	0.6	0.20	3.4	1.12
ほうれんそ う	4.66	12.8	59.65	5.9	27.49	14.2	66.17	17.4	81.08
オクラ	0.27	1.4	0.38	1.1	0.30	1.4	0.38	1.7	0.46
しょうが	0.01	1.5	0.02	0.3	0.00	1.1	0.01	1.7	0.02

未成熟 えんどう	0.26	1.6	0.42	0.5	0.13	0.2	0.05	2.4	0.62
未成熟 いんげん	0.19	2.4	0.46	1.1	0.21	0.1	0.02	3.2	0.61
えだまめ	0.32	1.7	0.54	1.0	0.32	0.6	0.19	2.7	0.86
その他の 野菜	13.6	13.4	182.2	6.3	85.7	10.1	137.4	14.1	191.8
りんご	0.37	24.2	8.95	30.9	11.43	18.8	6.96	32.4	11.99
なし	0.33	6.4	2.11	3.4	1.12	9.1	3.00	7.8	2.57
もも	0.02	3.4	0.07	3.7	0.07	5.3	0.11	4.4	0.09
ネクタリン	0.11	0.1	0.01	0.1	0.01	0.1	0.01	0.1	0.01
あんず	0.62	0.2	0.12	0.1	0.06	0.1	0.06	0.4	0.25
すもも	0.08	1.1	0.09	0.7	0.06	0.6	0.05	1.1	0.09
うめ	0.44	1.4	0.62	0.3	0.13	0.6	0.26	1.8	0.79
おうとう	0.38	0.4	0.15	0.7	0.27	0.1	0.04	0.3	0.11
いちご	0.30	5.4	1.62	7.8	2.34	5.2	1.56	5.9	1.77
ぶどう	0.51	8.7	4.44	8.2	4.18	20.2	10.3	9.0	4.59
かき	0.07	9.9	0.69	1.7	0.12	3.9	0.27	18.2	1.27
ごまの種子	0.04	0.9	0.04	0.9	0.04	0.9	0.04	0.8	0.03
茶	38.6	6.6	254.8	1	38.6	3.7	142.8	9.4	362.8
その他の ハーブ	17.3	0.9	15.6	0.3	5.19	0.1	1.73	1.4	24.2
牛・筋肉と 脂肪	0.16	15.3	2.45	9.7	1.55	20.9	3.34	9.9	1.58
牛・肝臓	0.13	0.1	0.01	0	0	1.4	0.18	0	0
鶏・筋肉と 脂肪	0.168	18.7	3.14	13.6	2.28	19.8	3.33	13.9	2.34
鶏・肝臓	0.147	0.7	0.10	0.5	0.07	0	0	0.8	0.12
乳	0.028	264	7.39	332	9.30	365	10.2	216	6.05
鶏卵	0.447	41.3	18.5	32.8	14.7	47.8	21.4	37.7	16.9
魚介類	0.047	93.1	4.38	39.6	1.86	53.2	2.50	114.8	5.40
合計			765		283		613		944

- ・残留値は申請されている使用時期・回数のうち各試験区の平均残留値の最大値を用いた。
- ・「ff」：平成17～19年の食品摂取頻度・摂取量調査（参照76）の結果に基づく食品摂取量（g/人/日）
- ・「摂取量」：残留値から求めたクロラントラニリプロールの推定摂取量（μg/人/日）。
- ・「だいこん類（葉）」については、だいこん（葉部）及びはつかだいこん（茎部）のうち残留値の高いはつかだいこん（茎部）の値を用いた。
- ・「きょうな」については、みずなの値を用いた。
- ・「その他のあぶらな科野菜」については、はなっこりー及びタアサイのうち残留値の高いタアサイの値を用いた。
- ・「レタス」については、レタス、サラダ菜及びリーフレタスのうち残留値の高いリーフレタスの値を用いた。
- ・「その他のきく科野菜」については、ふきの値を用いた。

- ・「トマト」については、トマト及びミニトマトのうち残留値の高いトマトの値を用いた。
- ・「その他のうり科野菜」については、すいか（果皮）の値を用いた。
- ・「その他の野菜」については、モロヘイヤ、未成熟そらまめ及びえごまのうち残留値の高いえごまの値を用いた。
- ・「その他のハーブ」については、バジル（茎葉）、コリアンダー（茎葉）及びしそ（葉）のうち残留値の高いしそ（葉）の値を用いた。
- ・水稻、とうもろこし、かんしょ、さといも類、やまいも、さとうきび、だいこん類（根）、すいか、メロン及びとうがんは、全データが定量限界未満であったため、摂取量の計算に含めていない。

<参考>

1. 農薬抄録クロラントラニリプロール(殺虫剤) (平成20年1月25日改訂) : デュポン株式会社、一部公表
2. <sup>14</sup>C-標識クロラントラニリプロールを用いたラット体内における代謝試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
3. 水稲における代謝試験(GLP対応) : Charles River Laboratories(英国)、2006年、未公表
4. りんごにおける代謝試験(GLP対応) : Inveresk(英国)、2005年、未公表
5. レタスにおける代謝試験(GLP対応) : Inveresk(英国)、2005年、未公表
6. トマトにおける代謝試験(GLP対応) : Inveresk(英国)、2005年、未公表
7. 好気的湛水土壤中運命試験(GLP対応) : Charles River Laboratories、2006年、未公表
8. 好気的土壤中運命試験(GLP対応) : Inveresk(英国)、2005年、未公表
9. 土壤吸着性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2005年、未公表
10. 加水分解運命試験(GLP対応) : Inveresk、2004年、未公表
11. 水中光分解運命試験(GLP対応) : Inveresk、2005年、未公表
12. 土壤残留性試験: デュポン株式会社、2005~2006年、未公表
13. 作物残留性試験成績: デュポン株式会社、2005~2006年、未公表
14. 後作物残留性試験成績: デュポン株式会社、2005~2006年、未公表
15. クロラントラニリプロールにおける薬理試験(GLP対応) : 日精バイリス、2006年、未公表
16. ラットにおける急性経口毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
17. ラットにおける急性経皮毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
18. ラットにおける急性吸入毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
19. 代謝物Oのラットにおける急性経口毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
20. 代謝物Qのマウスにおける急性経口毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
21. ラットを用いた急性神経毒性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
22. ウサギを用いた眼刺激性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
23. ウサギを用いた皮膚刺激性試験(GLP対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004年、未公表
24. モルモットを用いた皮膚感作性試験(GLP対応) : Product Safety Laboratories、

2004 年、未公表

25. ラットを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : 米国デュポン社ハスケル研究所、2004 年、未公表
26. イヌを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : MPI リサーチ、2004 年、未公表
27. ラットを用いた 90 日間反復経口投与神経毒性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2005 年、未公表
28. ラットを用いた 28 日間反復経皮投与毒性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
29. イヌを用いた飼料混入投与による 1 年間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : MPI リサーチ、2006 年、未公表
30. ラットを用いた飼料混入投与による 2 年間反復経口投与毒性／発がん性併合試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
31. マウスを用いた 18 か月間飼料混入投与による発がん性試験: デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
32. 繁殖毒性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
33. ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2004 年、未公表
34. ウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2005 年、未公表
35. 細菌を用いた復帰突然変異試験 (GLP 対応) : BioReliance(米国)、2004 年、未公表
36. ヒト末梢血リンパ球を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : BioReliance(米国)、2004 年、未公表
37. マウス骨髄細胞を用いた小核試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2004 年、未公表
38. 代謝物 O の細菌を用いた復帰突然変異試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
39. 代謝物 Q の細菌を用いた復帰突然変異試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
40. ラットを用いた 2 週間反復強制経口投与毒性試験: デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
41. ラットを用いた飼料混入投与による 28 日間反復経口投与毒性試験: デュポン社ハスケル研究所、2003 年、未公表
42. イヌを用いた 28 日間カプセル投与による反復経口投与毒性試験
43. マウスを用いた飼料混入投与による 28 日間反復経口投与毒性試験: 未公表
44. ラットの副腎皮質における組織学的变化に関する試験の概要: デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
45. 雄ラットを用いた 28 日間反復経皮投与による副腎機能検査 (一部 GLP 対

- 応) : デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
46. ラットを用いた 28 日間混餌投与免疫毒性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
47. マウスを用いた 28 日間混餌投与免疫毒性試験 (GLP 対応) : デュポン社ハスケル研究所、2006年、未公表
48. クロラントラニリプロールの魚介類における最大推定残留値に係る資料
49. 食品健康影響評価について (平成 20 年 3 月 25 日付け厚生労働省発食安第 0325001 号)
50. クロラントラニリプロール 残留基準値設定資料 : デュポン株式会社、2004~2006 年、未公表
51. 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 20 年 10 月 9 日付け府食第 1080 号)
52. 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 21 年 9 月 28 日付け平成 21 年厚生労働省告示第 422 号)
53. 農薬抄録クロラントラニリプロール (殺虫剤) (平成 22 年 5 月 12 日改訂) : デュポン株式会社、一部公表
54. クロラントラニリプロールの安全性評価追加資料、変異原生 : デュポン株式会社、未公表
55. クロラントラニリプロールの安全性評価追加資料、動物体内運命試験 (産卵ニワトリ、泌乳ヤギ) : デュポン株式会社、未公表
56. クロラントラニリプロール、作物残留試験成績 : デュポン株式会社、未公表
57. クロラントラニリプロール、作物残留試験成績 (海外) : デュポン株式会社、未公表
58. Request and justification for a waiver of cryfish magnitude of residue studies with Chlorantraniliprole : デュポン株式会社、未公表
59. Request and justification for a waiver of poultry feeding studies with Chlorantraniliprole : デュポン株式会社、未公表
60. Estimated Chlorantraniliprole residues and proposed MRLs/Tolerances in livestock commodities North America : デュポン株式会社、未公表
61. クロラントラニリプロール、残留基準値設定資料 : デュポン株式会社、未公表
62. 食品健康影響評価について (平成 22 年 8 月 11 日付け厚生労働省発食安 0811 第 3 号)
63. 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 23 年 6 月 16 日付け府食第 496 号)
64. 食品健康影響評価について (平成 24 年 7 月 18 日付け厚生労働省発食安 0718 第 3 号)
65. クロラントラニリプロール 残留基準値設定資料 : デュポン株式会社、2004~2012 年、未公表

66. 農薬抄録クロラントラニリプロール（殺虫剤）（平成 24 年 4 月 17 日改訂）：デュポン株式会社、一部公表
67. クロラントラニリプロール、作物残留試験成績：デュポン株式会社、未公表
68. クロラントラニリプロール 残留基準値設定資料：デュポン株式会社、2004~2012 年、未公表
69. 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 24 年 11 月 12 日付け府食第 986 号）
70. 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件について（平成 24 年 12 月 28 日付け平成 24 年厚生労働省告示 595 号）
71. 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件について（平成 25 年 10 月 22 日付け平成 25 年厚生労働省告示 337 号）
72. 食品健康影響評価について（平成 26 年 3 月 20 日付け厚生労働省発食安 0320 第 3 号）
73. 農薬抄録クロラントラニリプロール（殺虫剤）（平成 25 年 12 月 12 日改訂）：デュポン株式会社、一部公表
74. クロラントラニリプロール、作物残留試験成績：デュポン株式会社、未公表
75. クロラントラニリプロール 残留基準値設定資料：デュポン株式会社、2011 ~2014 年、未公表
76. 平成 17~19 年の食品摂取頻度・摂取量調査（薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014 年 2 月 20 日）
77. 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 26 年 6 月 24 日付け府食第 478 号）
78. 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件について（平成 27 年 5 月 19 日付け平成 27 年厚生労働省告示第 273 号）
79. 食品健康影響評価について（平成 28 年 11 月 14 日付け厚生労働省発生食 1114 第 2 号）
80. 農薬抄録クロラントラニリプロール（殺虫剤）（平成 27 年 5 月 27 日改訂）：デュポン株式会社、一部公表
81. マウスを用いた飼料混入投与による 90 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：米国デュポン社ハスケル研究所、2006 年、未公表
82. クロラントラニリプロール、作物残留試験成績（国内）：デュポン株式会社、未公表
83. クロラントラニリプロール、家畜残留試験成績（産卵鶏）：デュポン株式会社、2012 年、未公表
84. JMPR①：“Chlorantraniliprole”, Pesticide residues in food -2008, Report, p.127-143
85. JMPR②：“Chlorantraniliprole”, Pesticide residues in food -2008, Evaluations, Part I-Residues, p.353-546
86. JMPR③：“Chlorantraniliprole”, Pesticide residues in food -2008,

- Evaluations, Part II-Toxicological, p.105-134
- 87. EFSA : Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance chlorantraniliprole (2013)
  - 88. EPA : “Chlorantraniliprole” Pesticide Fact Sheet(2008)
  - 89. EPA : Federal Register : “Chlorantraniliprole” Vol.76, No.144: 44815-44821(2011)
  - 90. APVMA : Public Release Summary on Evaluation of the new active chlorantraniliprole in the products DUPONT CORAGEN INSECTICIDE, DUPONT ALTACOR INSECTICIDE , DUPONT ACELEPRYN INSECTICIDE (2008)